7．自己点検・評価報告書

（1）2021 年度第 1 クォーター　掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部　キリスト教学科・・・・・・・・・・・・・・1
人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・・8
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・14
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・19
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・・22
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・24
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・25
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・27
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・28
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・・29
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・・36
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・・42
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・・48
理工学部　ソフトウェア工学科・・・・・・・・・・55
理工学部　データサイエンス学科・・・・・・・・・57
理工学部　電子情報工学科・・・・・・・・・・・・・60
理工学部　機械システム工学科・・・・・・・・・・61
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・・63
法務研究科　法務専攻(専門職学位課程)・・・・・・67
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・69
体育教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・・75

非常勤教員

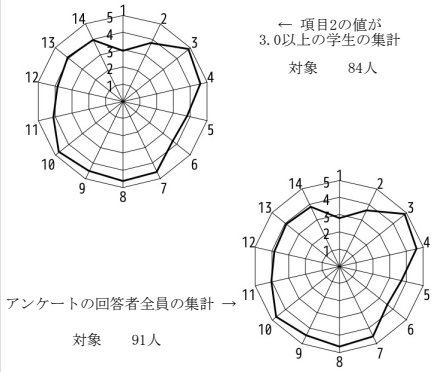
【所属】

人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・77
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・78
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・・80
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・80
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・83
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・84
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・84
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・・85
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・・86
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・・87
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・・88
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・・89
共通教育　仏語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
共通教育　独語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
共通教育　西語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
共通教育　ポルトガル語・・・・・・・・・・・・・・93
共通教育　中国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
共通教育　インドネシア語・・・・・・・・・・・・・95
共通教育　共通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
共通教育　韓国朝鮮語・・・・・・・・・・・・・・・105
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・106

人文学部 キリスト教学科
三好　千春　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[S]1
授業コード	10A51-017
教員名	三好　千春
教員コード	101173
登録人数	132
回答数	91
回答率	68.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

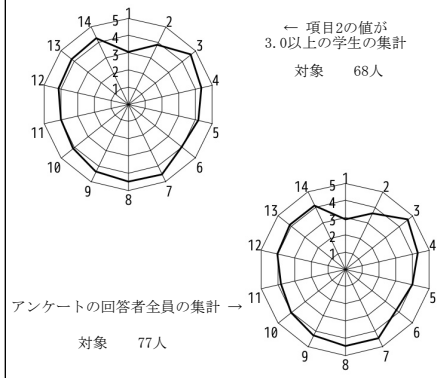
このキリスト教概論は、理工学部の学生向けということも意識しつつ、到達目標を、「１　キリスト教の持つ世界観・人間観を理解している。／２　キリスト教的価値観に基づき現代世界の諸問題を考察する基礎知識を身に着けている。」としていた。期末レポートの設問の一つに、キリスト教に対する認識の変化の内容とその理由を書いてもらったが、それによれば、少なくとも多くの学生が、それまで未知であったキリスト教の持つ世界観、人間観に触れて、驚いたことがわかる。しかしながら、アンケートの６，１３，１４の数字が低いということは、到達目標を達成できたとは言えない。そのため、もっと、身近な問題と絡めたり、理工系との関連が深い問題との関連で話を展開するなどの工夫を今後行ってみるつもりである。

また、現代世界の諸問題の考察に関しても、現在、どのような問題があり、それにキリスト教がどう発言しているかを初めて知ったという学生が多く、新たに知るという点ではよいのだが、それを踏まえて、さらにもう一歩のところがうまくいっていない。何か、現代の問題を実際に取り上げて、自分なりにキリスト教の価値観に基づきながら考えてもらうといった工夫が必要と思われる。

人文学部 キリスト教学科
VARGHESE, Rejimon　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[S]2
授業コード	10A51-018
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	130
回答数	77
回答率	59.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



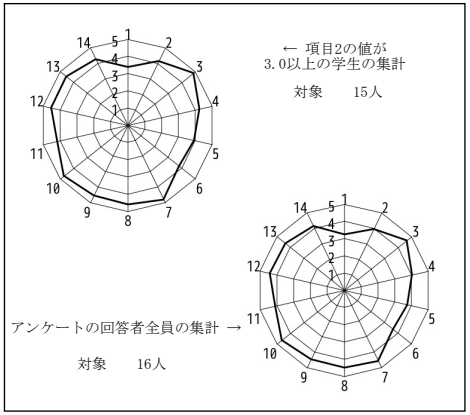
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1の「キリスト教概論【S】２を、最初数回はハイブリッドで、後にオンラインで行ないました。そのため、それなりの不便なところもありました。この授業の副題は「イエス・キリストが語ったたとえ話の本来の意味を学ぶ」ことでありました。
①パワーポイントを使って講義を行ないました。それに、講義資料もDLサーバにアップロードしていました。授業計画にきちんと従って授業を行なっていたので、学生にとって授業内容が分かりやすかったと評価されています。従って、この授業のシラバスに設定していた４点の目標に到達したと言えます。
②数値データおよび学生による自由記述から言うと、学生が満足している印象を受けています。特に「資料が分かりやすい」、「資料が毎回あってよかった」などのコメントをいただいています。
③「少々授業進度が遅いように感じられた」や「説明をもう少しコンパクトにしてほしかった」というコメントがあったので、次回これらを念頭にに置きながら授業を行ないたいと思います。

人文学部 キリスト教学科
井上　淳　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテン語I[HC]
授業コード　11J09-001
教員名　井上　淳
教員コード　100301
登録人数　18
回答数　16
回答率　88.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

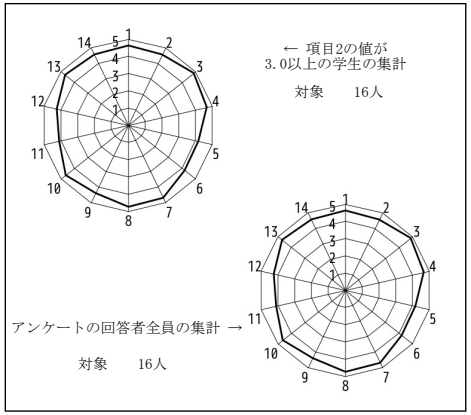
この授業はラテン語を学び始める人のための入門的な講義である。ラテン語の基礎知識、基本的なラテン語文法、および、ラテン語読解の基礎的技術の習得を目指している。今回、到達目標には達することができたと思う。評価も概ね良かった。特に高評価を得たのは項目７の4.56、項目8の4.50、項目9の4.44、項目10の4.63、項目12の4.44、項目13の4.38などである。Q1で取り扱った文法事項は次のとおり。１．ローマ数字と暦、２．アルファベット、発音、名詞の主格および対格、３．疑問詞、４．奪格、５．名詞の性、６．形容詞、７．奪格支配の前置詞、８．対格支配の前置詞、９．受動文、10．複数形、11．属格、12．コプラ、13．与格。

アモロス著『ラテン語の学び方』を教科書に用いた。この文法書は特に語尾変化表が優れていると思う。練習問題も豊富である。すべての問題を解く時間的余裕はないため、いくつかの問題を選んで解いてもらっている。実際のラテン語文典から取られたラテン語文が多く、内容が似通っていることが多いため、使われている単語を別のものに変えたりして多様性を持たせている。また、毎回の授業の内容を3頁ほどにまとめた説明文書を「講義資料ダウンロード・サーバー」に上げて、各自が授業後にお浚いしやすいようにした。

人文学部 キリスト教学科
松根　伸治　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテン語I＜全＞
授業コード　11J09-002
教員名　松根　伸治
教員コード　101833
登録人数　29
回答数　16
回答率　55.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

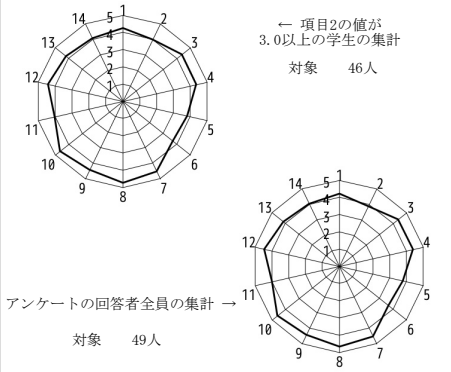
数値が低い項目は到達目標に関する5と6で、どちらも平均値が4.19だった。シラバスには「ラテン語の発音に慣れている。名詞・形容詞の基本的変化を身につけている。動詞の現在形人称変化を身につけている」の三つをあげ、授業でも細分化した具体的目標と身につけたいポイントを強調したつもりだったが、うまく伝えられなかったことを反省している。昨年度から教科書をやめてレジュメを少しずつ配る方法にしたので、文法の全体像や今後の見通しが見えにくい面があるかもしれない。もうひとつ低かった項目が11の「学生の学習意欲を引き出し...」で、平均値4.13だった。初歩の文法ではどうしても、この変化は必ず憶える必要があるという一方的な説明が多くなりがちなので、今後はこの点の改善を考えたい。

いわゆるハイブリッド方式で始め、後半数回はオンライン授業になった。教室とZoom双方の受講者のことを考えて、学期途中から板書をやめてテレビ画面でスライドに書き込みするなど試行錯誤したが、授業環境や機器については、自由記述で好意的な評価が多かった。また、これは例年見られる意見の衝突だが、「もう少しゆっくりと進めてほしかった」という人と、「もう少し解説のスピードをあげてほしい」という人があり、難しいところである。とくに難所の第3変化名詞・第3変化形容詞で受講者間の理解度の差が広がらないように、さらに進め方の工夫が必要である。

人文学部 キリスト教学科
渡邉　学　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学B3
授業コード　12A02-003
教員名　渡邉　学
教員コード　017186
登録人数　114
回答数　49
回答率　43.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



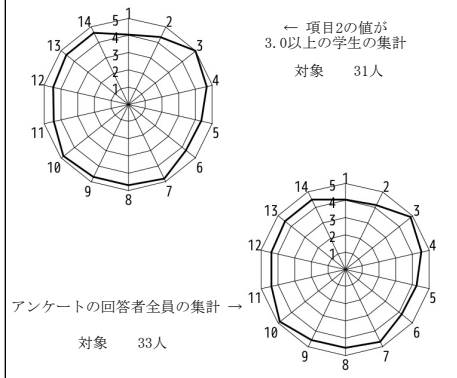
授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標に関しては、オンライン授業という異例な形式ながら、目標を達成することができた。毎回の講義に対して小テストを課し、時間的余裕を持たせて解答させた。また、質問や感想なども記入できるようにして、次の講義までに寄せられた質問に関しては講義のはじめに答える努力をした。毎回提出する小テストに20%配点し、期末レポートに80%配点した。そのため、学生の小テストに対する解答が充実したものになったのは評価できる。学生の感想には以下があった。「パワーポイントが丁寧であったこと。質問をWebClassでする事で次の時に質問を返してもらえる点。質疑応答がとても詳しい。質疑応答が充実していた点。内容もとても興味深く面白かったです」。講義内容に関しては、「近現代の哲学のあらましをわかりやすく知ることができた点。例えなどを用いていて分かりやすかった。教授がわかりやすい例えを用いて説明してくださったので難しい問題も早く理解することができました」という感想があった。設問項目の平均値に関して言えば、2と5と6が若干低かった。講義の改善すべき点としては、予習復習のポイントを明示して学習効果を高める努力をすること、PowerPointに図式や画像などを増やし視覚的にも興味を抱きやすいものにすることが挙げられる。Zoomに関しては、予約が確認できるように工夫されたので、登録ミス（二重登録で学生の取り残しが発生する事態）が避けられるようになった。今後はこれらの経験を生かして、対面授業でもオンライン授業でもいかせるようにして行きたい。

人文学部 キリスト教学科
HERA, Marianus Pale　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　聖書入門B(新約聖書入門)
授業コード　21A02-001
教員名　HERA, Marianus Pale
教員コード　102689
登録人数　34
回答数　33
回答率　97.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は途中まで対面で行い、途中からオンラインに切り替わりました。従って、最初に計画していた小テストや期末テストを実施することができませんでした。小テストの代わりに課題を与え、期末テストの代わりにレポートを書いてもらいました。授業形態の変更をなんとか対応できたと思いますが、授業目標の達成にはやや影響があると思いました。

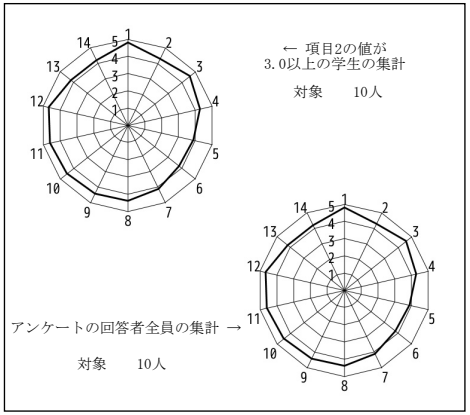
授業評価について、ほぼ全員が評価を行い、自由記述のところで、学生が書いたコメントを次回授業運営の参考にしていきたいと思っています。評価の結果から見えてくる一番大きな課題は、いかにして学生に興味を持たせ、課題などを通して積極的な学びを促すのか、ということです。

対面授業の時に使っていた教室のスクリーンがうしろに座る学生からみると暗いということや、席がやや密接しているという声があることなど、教室環境にももう少し気を配る必要があると思いました。しかし、全体的に学生の評価から、この授業の到達目標に達成できたと思います。

人文学部 キリスト教学科
SUSAI, Raj　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　神学入門
授業コード　21C01-001
教員名　SUSAI, Raj
教員コード　101347
登録人数　13
回答数　10
回答率　76.9%
休講回数　1　回
補講回数　0　回



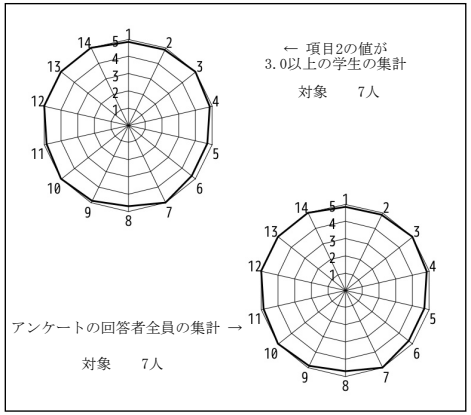
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第一クゥアタの神学入門の授業はその到達目標に達することができたと思われる。また授業概要を中心にして授業を進めることができた。学生の評価にもあったが、シラバス通りに授業を進めなかった理由の一つは学生全員のキリスト教に対する知識が非常に浅い（全くない人もいた）ためシラバスを変更して一からの出発だった。シラバスの通りに授業を進めていれば到達目標に達することができなかったと思われる。学生の積極的な参加を毎回促したことで、授業に活気が見られた。遠隔の授業でも一ハイブリッドーあったためインタネット環境があまり良くなく困難に直面した学生もいた。せっかくの新学年の授業を楽しみにしてたのがコロナ禍でいろいろな変更を伴われたため心の整理に追われた時もあった。初めてのキリスト教授業で楽しく学んだ学生が多かったと思われる。今後も新たな方法で授業を楽しくかつわかりやすく実施したいと思う。全体的に授業を時間通りに完了し、学生にわかりやすく教えたことが非常に良かったと思う。

人文学部 キリスト教学科
加藤　久美子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　旧約聖書学(歴史書)
授業コード　21C22-001
教員名　加藤　久美子
教員コード　103475
登録人数　10
回答数　7
回答率　70.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期の授業は、途中で緊急事態宣言が発令された影響で、9回が対面、4回がオンライン、合計13回であった。授業形態の変更と回数の減少に対応し、計画をわずかに変更したが、到達目標は概ね達成できたと思われる。このことは設問14のよい評価にも見てとれる。

設問1、2への回答にも現れているように、今期は授業内容への関心の高い少数の学生からなるクラスだった。予習、講義、リアクション・ペーパーを合わせて、内容の理解をめざす方式に、履修者が全般によく取り組み、数値データおよび自由記述欄のよい評価を得ることができた。以上から今期の授業は肯定的に評価できると考えている。

この科目は司祭養成課程の神学生の必修科目であり、日本語を母語としない履修生が多いという特徴がある。昨年度の同科目はすべてオンラインで、こうした学生への配慮が難しかったが、今期は対面の授業で個別に補足や助言を行うことができ、それがよい効果をもった。クォーター途中での授業形態の変更は、教員の負担を増すが、教育的観点から実施すべきだと思われる。

今後は、読書経験が少ない学生が増す中で、古典として読み継がれてきた書物を自ら読むことへと動機づけるために様々な方法を試していきたい。

人文学部 キリスト教学科
KUCICKI, Janusz　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	新約聖書学(書簡A)
授業コード	21C26-001
教員名	KUCICKI, Janusz
教員コード	101877
登録人数	12
回答数	3
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

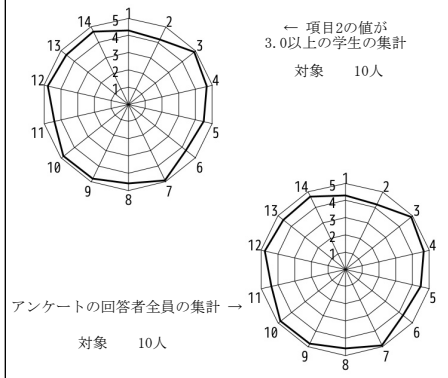
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」の結果によると、「新約聖書学（書簡A）は全般的に良い評価を得た科目であったと思われる。科目の内容と教え方については問題がなかった。この科目は全学生のための必須科目であり、キリスト者でない学生たちもこの科目を登録しなければならない。学生授業評価の結果によると、学生たちは授業の準備と自主的な学習に対して動機を持っていなかった。したがって、この授業の目的は達成されたと思われる。

人文学部 キリスト教学科
RAJCANI, Jakub　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教倫理学(各論A)
授業コード	21C52-001
教員名	RAJCANI, Jakub
教員コード	103281
登録人数	26
回答数	10
回答率	38.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



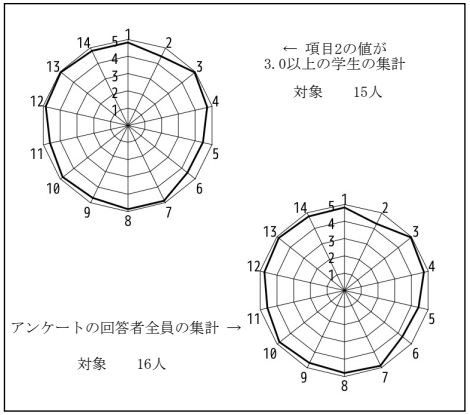
授業評価結果を踏まえた点検・評価

感染拡大や緊急事態などのため、最初はハイブリッド授業、終わりには完全にオンライン授業になったので、いろいろ運用しにくかったです。特に出席の確認とか、同時にズームと対面を考えることとか、手間がかかりました。しかし、内容は例年の範囲を扱って、予定していたテーマを全て講義できたと思います。
学生の評価が概ね良く、伝えたかったことを伝えられた印象を受けています。特に熱意を感じ取ってもらえたことが嬉しいです。微妙な言葉遣いのニュアンスについての誤解もあったかもしれません、母国語ではないので寛大にみて欲しいなと思っています。
今回はパワーポイントを減らし、話を聞いてノートを取ることを中心に考えていたのですが、オンライン授業では仕方なくパワーポイントを使わざるを得ませんでした。感染が収束した時に再び資料や画像を必要最低限に減らし、その場で話の内容を理解し、批判的に考えることを目指したと思います。さもなければ、見ている文字だけに集中し、後でも読めるしと安心してしまい、話を聞かないという効果を生み出してしまわないとも限りません。

人文学部 キリスト教学科
KISALA, Robert　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教学
授業コード　21C55-001
教員名　KISALA, Robert
教員コード　018275
登録人数　24
回答数　16
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

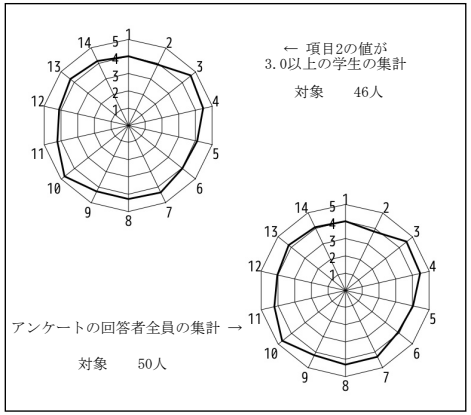
本講義の到達目標として「学問としての宗教学を理解する」と「現代宗教について考察する」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号５：平均値４．４４；設問番号６：平均値４．３１）から、学生らは到達目標を十分理解して授業に取り組んでいたことが言えるであろう。しかし、まだ改善する余地があるので、講義の内容の丁寧な説明と毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認することに努める。一方、自由記述式設問の回答結果からは特にパーワーポイントの使用は積極的に評価されていると言える。また、毎回のディスカッションを通して講義の内容に関する自分の考えをより明確にして他の学生の理解・考えを確かめることができた、という点も積極的に評価されている。

本講義の改善点として、学生が講義の到達目標を意識させるためにさらなる工夫を考えっている。学生が到達目標を授業の内容と繋げられるような説明、または毎回に講義の到達目標を確認することにする。

人文学部 キリスト教学科
守屋　友江　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教史I
授業コード　21C57-001
教員名　守屋　友江
教員コード　104474
登録人数　110
回答数　50
回答率　45.5%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



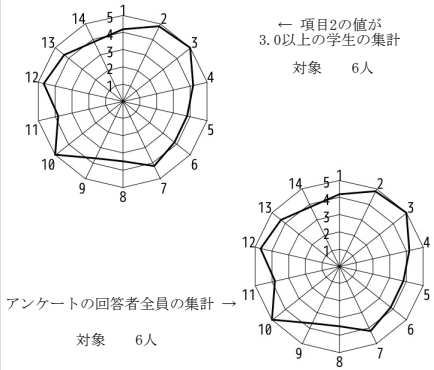
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①コロナ禍によるオンライン授業であったが、受講生は内容を理解し自分なりの考察もできたと思われるので、目標は達成できたと評価できる。この授業の目標は、まず近代日本宗教史を学び、現代の宗教がどういう経緯で今日の姿をとるに至ったのかを理解する、次にキリスト教、仏教、神道、民間信仰など諸宗教の相互関係と、宗教的な多文化共生の意義を考察できるようになるという2点である。これらに関連したレポートを課したところ、学生は努力して取り組んでいた。
②数値データと自由記述によると、授業資料の配布やパワーポイントの提示、マイクといったオンライン環境での授業にともなう問題点はほとんどなかった。そのため内容が理解しやすく、また課題に取り組みやすかったのではないかと思われる。音声が小さかったという要望があるので、マイク音量設定をもう少し高めにする必要がある。
③今後も、学生側が理解しやすい資料を提示し、パワーポイント等も見やすさを考えた形式で作成する予定である。

人文学部 キリスト教学科
SOUSA, Domingos　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教思想A
授業コード　21C59-001
教員名　SOUSA, Domingos
教員コード　100753
登録人数　16
回答数　6
回答率　37.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



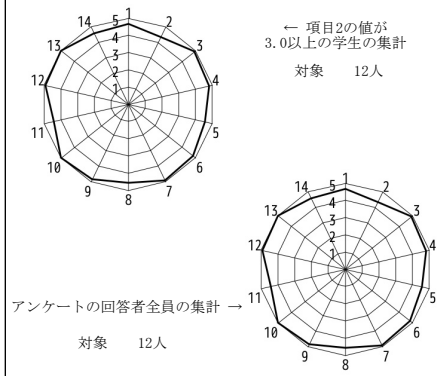
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、多面的宗教現象を広く検討するとともに、宗教の起源や本質を解明しようとする。代表的宗教学者や思想家の文献を解読することによって、様々な宗教領域に必要な基礎的知識を習得するとともに、文献の分析力を高めることを目指している。
講義に対する学生の評価結果は、全体として良好な評価であると思われる。自由記述には肯定的評価として「流れがあって理解することができた」「授業感想を丁寧に返しくださる点」、「スライド分かりやすい、資料が豊富である」等があげられる。否定的な評価としては、「説明の際にスライドを共有せず話されており、スライドがアップロードされていることもないので内容が分かりづらくなってしまう点」等があげられる。画面共有の不具合があり、パワーポイント利用は不可能であったので、授業についていくのが難しかった時もあったであろう。オンライン形式の授業は継続するならば、この問題への解決策を見つける必要である。

人文学部 キリスト教学科
清水　美佐　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教美術I
授業コード　21C78-001
教員名　清水　美佐
教員コード　152757
登録人数　15
回答数　12
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　本授業は今年度からの新規科目であり、前年まで「キリスト教芸術A(美術)」で扱っていた内容を「キリスト教美術Ⅰ」「キリスト教美術Ⅱ」の2科目に引継いで内容を充実させたものである。設定目標自体は前年度と同じく、
・キリスト教主題の主要な図像について、内容を読み取り、説明できる
・図像の典拠となる資料にふれ、描かれた主題内容の理解を深める
とした。例年より試験の難易度を上げたが、出来具合は例年と同程度に良く、履修生全体として十分に目標に到達したと考えられる。

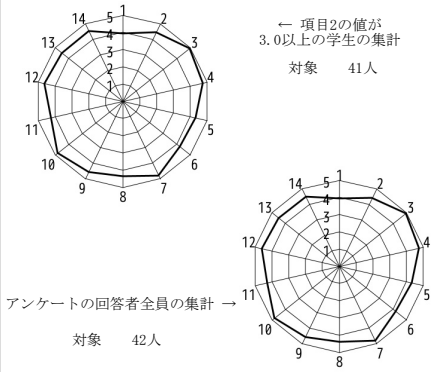
②　前年までの「キリスト教芸術A(美術)」より良い数値となっており、概ね適切な授業運営ができたと思われる。昨年12月の全学FD「学生の主体的な学びを助けるよい授業とはどのようなものか」において伺ったスライド作りを参考に、文字スライドの情報量を絞って一目で要点をつかみやすくするなどの改善を行なっている。
自由記述のうちに1件、「対面でやりたかった」という意見があった。本科目は当初ハイブリッドを希望として出したもののオンライン開講となっている。本授業の内容からして、履修者の受信画面が大きければオンラインで十分な教育効果を得られるが、それぞれの環境によって差が生じる。対面希望者は少数の可能性が高いが、オンライン／対面について履修生が自由に選択可能になると望ましい。

③　引き続き、見やすく充実した資料づくりと時間をかけた説明を心がける。

人文学部 人類文化学科
斎藤　喬　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化の比較3
授業コード　13A01-003
教員名　斎藤　喬
教員コード　103192
登録人数　69
回答数　42
回答率　60.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



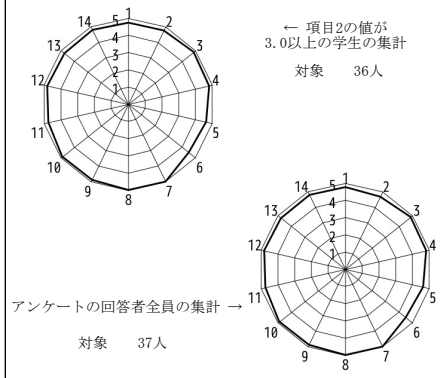
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業は当初からオンライン形式となっていたため、特に回数が減ることもなく、通常通りに運営することができた。ミニテストと期末レポートの記述内容を見る限り、シラバスに掲げた二つの到達目標（①日常生活のいたるところで体験する「文化」の根本問題を理解し、文化を異にする「他者」に関する具体的なイメージをつかむ。②「自死」や「排除」といった身近な社会問題についての事例に触れることで、自分自身が「文化的な存在」であることの意味を考える態度を身につける。）について、85%は到達できたと考える。
②2021年度Q1では履修者数69人で、回答数は42であった。開講主体別平均値で見ると、学際科目の設問1-14の平均値が4.55、設問3-14の平均値が4.59である。当科目は4.50、4.46と平均値を下回っている。特に、設問１の履修前における授業への興味が圧倒的に低い点については、シラバスの文面を変更するなど改善が必要であるが、自由記述を見る限り授業内容は例年通りに伝わっていると考える。
③学際科目の平均登録人数が116.1で、平均回答数が50.7である。開講主体によってあまりにも回答率にバラつきがあれば、授業評価アンケートの質に悪影響が生じるだろう。この授業では、参加している生徒には積極的に回答を呼びかけ、今後も平均回答数の向上に貢献したい。

人文学部 人類文化学科
奥田　太郎　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と倫理問題1
授業コード　13A03-001
教員名　奥田　太郎
教員コード　100642
登録人数　65
回答数　37
回答率　56.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



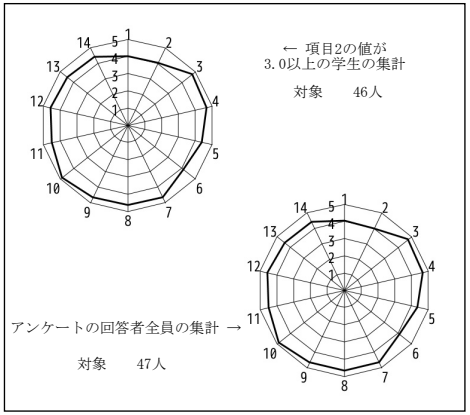
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初設定した目標は、１）われわれが生活する日常の中に重要な問題が潜んでいることを知り、考える力を身につける、２）他の人々がどのような考えをもっているのかを聴く力を身につける、３）自分の考えを他の人々に伝わる形で言葉にする力を身につける、の３点であった。今回の授業を経て、受講者の多くは、これら３点を継続的に達成する入り口に立てたのではないかと判断する。
（２）授業内容について、数値データおよび自由記述回答ともに、受講者から良好な評価を得た。特に、受講者の主体的な参加を促す内容であった点、および、（開講期間の前半だけだったが）対面授業ならではの内容であった点について、高い評価を得た。
（３）個別のコメントとして、受講者の主体的な参加を促す授業の仕組みにあと一歩の工夫を求めるコメントもあったことを踏まえ、次年度以降、さらに多様な受講者の参加を促進するための工夫を施したい。また、この授業は対面授業を前提に構築されているため、今後、オンラインで実施せざるをえない場合に備えた準備もしておく必要があると考える。

人文学部 人類文化学科
藤川　美代子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本との出会い1
授業コード　13B01-001
教員名　藤川　美代子
教員コード　103115
登録人数　150
回答数　47
回答率　31.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



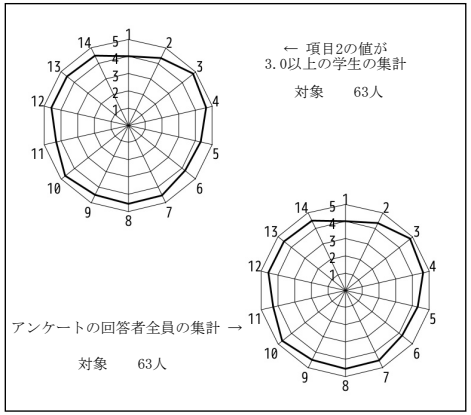
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初に設定していた「自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること。日本の中にある異文化を理解することで、自らの文化や考え方を相対化する姿勢を身につけること。」という到達目標は達成できたものと考える。②１００分間のオンライン授業となり、いかに受講生の集中力を持続させ、飽きさせないような内容を提供するかが課題であったが、映像を使用することにより講義やレジュメで示す内容について関心が高くなり理解度も上がったことがアンケートからも読み取れた。教室での講義は学生が着席し落ち着くのを待ってから始めざるを得なかったが、オンライン授業では時刻どおりに開始し、終了することができ、効率のよい授業運営ができたが、一方で受講生の疲労の具合などを見極めることができず、内容を詰め込みすぎる傾向になったかもしれない。この点は自学期以降、留意したい。③１００分授業に合わせて、前回分の質疑応答・講義・映像の視聴などを効果的に組みなおし、受講生の集中力と関心を維持させることを目指したい。

人文学部 人類文化学科
中尾　央　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　科学の諸相1
授業コード　13E08-001
教員名　中尾　央
教員コード　102505
登録人数　151
回答数　63
回答率　41.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
設定していた目標は以下である.
・利他性と文化の進化の基本について理解をしている.
・利他性と文化の進化がわれわれの社会に対してどのような含意をもたらしうるか考察できる.
到達目標を達成できているか否かの項目評定平均は4を超えているようなので，概ね達成できたと考えている.

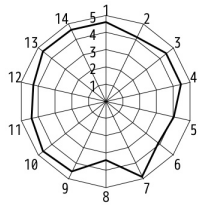
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データは全て概ね4を超えているので，大きな問題はないと考える．自由記述については以下．（1）質問に答えてくれなかった（＝毎回150人以上のコメントに目を通していると，正直見落としはある．が，今後注意したい．ただ大半の質問には答えられていたようでもある）．（2）資料に関して説明不足があると感じた（＝授業で触れられなかった資料のことだと思うが，授業を聞かずに資料だけ見られても説明不足に感じるのは仕方ないだろう．実際コメントを見ているとそういう方が一定数おられるようだ）．（3）動画の音量が大きく、同時進行で話されると聞き取ることができない（＝最初に指摘を受けて改善した（つまり，同時進行で話さないようにした）はずだが，なぜまだ書かれるのかよくわからない）.

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
声を大きくした方が良いそうなので，その点は気をつけたい.

人文学部 人類文化学科
黒澤　浩　先生

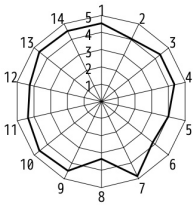
2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　博物館概論
授業コード　15M07-001
教員名　黒澤　浩
教員コード　100758
登録人数　95
回答数　84
回答率　88.4%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　80人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　84人

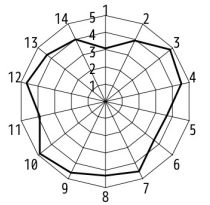
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業はハイブリッドで実施し、オンラインで聞く学生と教室にいる学生とで反応が違ってくることも危惧されたが、回答を見ている限り、大きな差はなく、概ね好評だったようである。ただ、途中で私自身がケガをしたため、4回ほどオンライン授業に切り替えたり、その後もケースバイケースでオンライン授業としたりして、学生を混乱させてしまった可能性については反省したい。また、自由記述で音声が良く聞こえないことがあるという意見があった。意識して大きな声で話しているつもりではあったが、改善すべき課題であろう。

人文学部 人類文化学科
浅石　卓真　先生

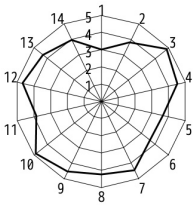
2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報組織化論
授業コード　15P02-001
教員名　浅石　卓真
教員コード　103263
登録人数　53
回答数　47
回答率　88.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　44人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　47人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
設定目標として「1.情報資源組織化の代表的な方法である目録法について理解できる」「2. 書誌情報の作成、流通、提供の概要を理解できる」「3. 多様な情報資源を組織化する方法や、図書館・博物館・文書館における情報組織化の特徴を理解できる」の３つを挙げた。提出されたレポートを見る限り、成績分布は平年と同様で、概ね達成できたと考えている。

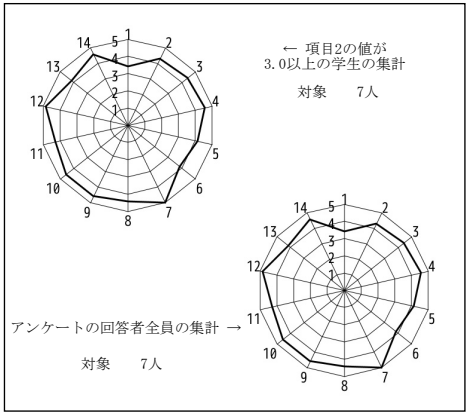
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
例年「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」に対する評価が3.02と低い。これは資格科目でありかつ学部の選択必修科目であるために必ずしも興味を持って受講しているわけではないためと考えられる。
自由記述を見ると例年と同様、「テキストが詳しい」「動画やウェブサイトが理解の助けとなる」「質問に丁寧に答えてくれる」といった点の評価が高く、滑舌の悪さが改善点として指摘されている。
なお、今年度から100分授業となったため、途中で休憩時間を５分程度設けたが、自由記述を見る限り好評だったようである。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の評価が3.62とやや低いため、各回の初めに全体の到達目標と本日の講義の位置付けを確認する機会を作りたい。

人文学部 人類文化学科
青柳　宏　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語学概論
授業コード 22B01-001
教員名　青柳　宏
教員コード 017004
登録人数　17
回答数　7
回答率　41.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



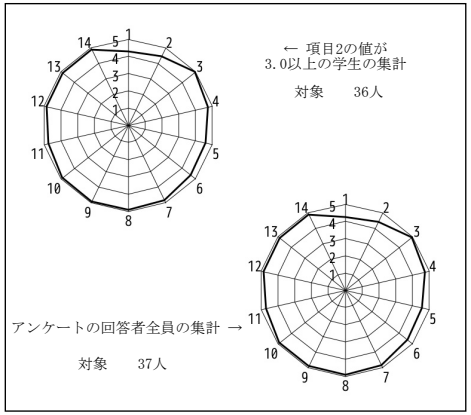
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業目標と到達度について
今期は次の２点を目標に掲げた。
１．日本語や英語といった身近な言語だけでなく、他のさまざまな特徴を持った言語があることが理解できる。
２．世界の言語には多様性があるばかりか、普遍性があることを理解できる。
到達度を測定するために、毎回の授業後の小テスト(20%)、期末テスト(80%)を課したところ、平均点は71.29(100%)であり、昨年度を10ポイント近く上回り、概ね目標は達成できたと思われる。
②総合的な自己点検・評価
項目1～14、3～14の平均値はそれぞれ4.37、4.45であった。なかんずく報告者が重視している項目6, 7, 13, 14の平均値は3.86, 5.00, 4.14, 4.57であり、このうち項目6と13は履修生の自己評価に係る数値で、これらの数値が相対的に低いことから、自己肯定感の低さが看て取れる。自由記述欄にも毎回授業の冒頭で前回の質問に真摯に答えていた点を評価する記述があった反面、授業目標が分かりにくいという記述もあった。初回講義でシラバスの授業目標を確認するのみならず、毎回の授業でも目標を掲げているにもかかわらず、このような学生がいることは遺憾である。
③今後の改善点
本講義は対面式であれオンラインであれ質問やフィードバックを取り入れているが、今後もさらに双方向性を高める努力を続けたい。

人文学部 人類文化学科
和泉　悠　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　論理学
授業コード 22C18-001
教員名　和泉　悠
教員コード 103645
登録人数　46
回答数　37
回答率　80.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



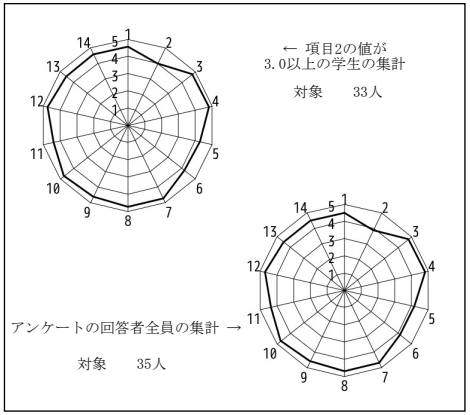
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①に関して、フォーマットや設問が少しずつ異なるため直接比較はできないが、例年より明らかに期末テストの平均点が下降した。これは前年度、急遽オンラインに移行して行ったときの結果と比較しても、下降したように思われる。オンラインでの授業期間が延び、学生側の対応や授業をどのように受けるのか、といったことが変化しているのかもしれない。厳密に数値を出して検討してはいないが、特に学期途中オンラインに以降したあとの範囲の問題に、苦労している学生が多い印象である。例年と同程度の難易度でありながら、設問を解くことができない学生が増えた。オンライン授業をどのように受けているのか（あるいは受けていないのか）といったことについて、来年度以降もオンラインが続くならばさらに考察し対応策を考えなければならない。②に関して、全体的に良い印象を持ってもらっていると思われる。③しかし、問題はこちらの工夫に応じてくれる学生への対応ではなく（このようなアンケートにも積極的に参加し、授業内容を理解してくれる人たちについては安心しています）、オンラインになることによって、ほぼ授業へ参加していない（テスト結果を踏まえると）可能性がある人々への対応である。こちらが単に単位を落とすだけで解決する問題とは思えないので、全学的対応が必要であると考える。

人文学部 人類文化学科
宮沢　千尋　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史人類学
授業コード　22C37-001
教員名　宮沢　千尋
教員コード　019562
登録人数　47
回答数　35
回答率　74.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については、履修者47名中（登録変更者除く）42名が単位取得し、B以下の成績の者も数名であったのでほぼ達成できたと考えている。ただし設問５は4.20で、３をつけた者が５名、２は１名いるし、設問14は３が3名、２は1名いるので、さらに理解度・満足度が上がるように努力したい。

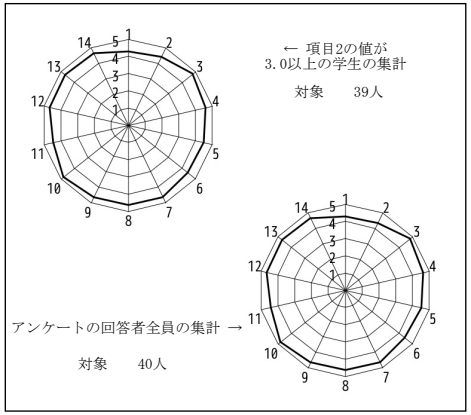
自由記述欄の「授業の良かった点、評価できること」としては、「説明が丁寧で、内容がわかりやすかった」「大事な主張は何度も繰り返していた」「資料がわかりやすく充実していた」「質問の機会が多かった」などが挙げられている。しかし、設問１－14、3－14の平均はそれぞれ学科平均より0.02低いので、さらに改善を心がけたい。「改善したほうがよい、困った点」としては、「話しているときに共有画面にラインマーカーなどで色をつけたほうがもっとわかりやくなる」という指摘があった。全くやらなかったわけではないが、忘れがちであったので、今後は改善したい。オンライン開講ということで、人数が一定数集まってから授業を始めていたため、毎回開始が3分ほど遅れることになった。この点に関しては「ログインできない学生を待つという方針を否定する気はないが、授業時間を延長するのはやめてほしい」との意見があった。この点も改善したい。

以上、全体に高評価をいただいたが、授業内容も含めて、さらに改善していきたい。

人文学部 人類文化学科
ANTONY SUSAIRAJ　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域の文化と歴史(南アジア)
授業コード　22C45-001
教員名　ANTONY SUSAIRAJ
教員コード　103820
登録人数　68
回答数　40
回答率　58.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



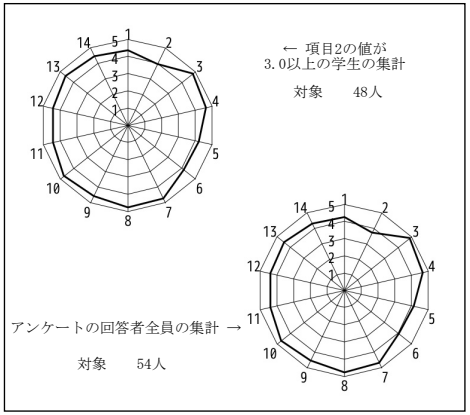
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of the course is to introduce the history, culture, political and social issues of the South Asian countries to the students. The special focus was given to India, the biggest country of South Asia. Students acquired sufficient knowledge on the South Asian Countries by attending the lectures, listening to the guest speaker, and doing the self studies on the topics and evaluation on the subject. Thus,the goal of the course is achieved to the great extent.

人文学部 人類文化学科
後藤　明　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域の文化と歴史(オセアニア)
授業コード　22C46-001
教員名　後藤　明
教員コード　101380
登録人数　97
回答数　54
回答率　55.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年同様、オンラインの講義となった。今年度は100分授業であることもあって、前回までの流れを復習する十分な時間がとれたことがよかった。講師の授業に対する熱意などに関しては高い評価が得られたのがよかった。

資料はＰＤＦ化して事前に講義資料管理にアップしておき、学生にはその都度、次の講義の資料を読んで予習するようにと指導したが、相対的に予習復習のポイントが低かった。どの程度各自が読んでいるかどうかの確認はなかなかできなかった。しかしチャットによる質問の中には確実に事前学習をして興味をもっている学生がいたことが読み取れた。

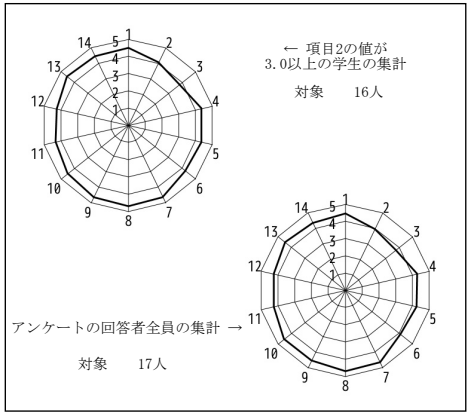
出席はとっていないが、随時数十名は出席していた。講義中の質問については、昨年は講義の終わりに口頭でしてきた学生が複数いたが、今年度は講義の終わりに質問の時間をとったが、質問した学生は一人もおらず、すべてチャットで質問が行われた。ただしその質問も「レポートの課題はいつわかるか」という講義の内容とは関係ない質問がたびたびあった。

来年度はできる限り学生と直接コミュニケーションがとれる形で講義を進めたい。

人文学部 人類文化学科
西江　清高　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人類文化学特殊講義(中国的世界の形成)
授業コード　22C72-001
教員名　西江　清高
教員コード　019356
登録人数　36
回答数　17
回答率　47.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価の各項目をみると、全体としては学内の平均的な数値にちかいものであった。評価項目のなかでも、担当者としては評価項目13や14といった総合的な評価に特に注目しているが、それらは今回、特に芳しい結果といえるものではなかった。受講生が十分な知的刺激を受けていたかどうかという点を重要視するならば、評価項目13や14の結果は満足すべきものとは言えない。「特殊講義」という講義の性格から、学問研究の最前線の内容に触れることを意識しながら、毎年の授業内容に小変更を繰り返してきたが、次年度では受講生の期待するものをもう一度見直して、講義内容の大幅な更新を試みたい。一方、質問項目３にある授業の開始、終了時間等に関する項目が低い評価となっている。これは、「ハイブリッド形式」の授業において、私の不慣れもあってpcを含むオンライン器機の準備と操作にトラブルが頻出し、結果として時間通りの授業進行ができなかった場合のあったことと関係している。またこの授業は、1限と2限の2コマを連続させた形式であったが、授業の前半と後半の中間の休み時間を、ときに担当者の考えで時間割とはことなる時間に設定した場合があった。自由記述ではこの点の指摘があり、時間割通りにしてほしいという。当然ながら受講生として受講上の都合もあったに違いない。今後は指摘のようにしたいと思う。

人文学部 心理人間学科
ABRAHAM, Joy Plathottathil 先生

2021年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教に見る人間の尊厳<国際科目群>
授業コード	10D01-902
教員名	ABRAHAM, Joy Plathottathil
教員コード	104278
登録人数	4
回答数	2
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

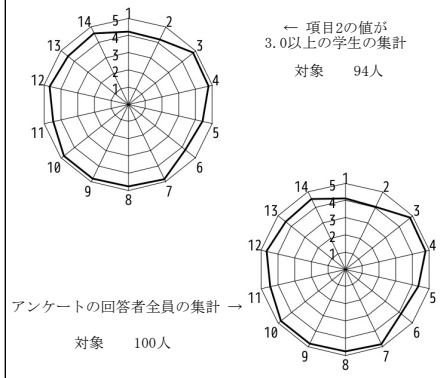
授業評価結果を踏まえた点検・評価

宗教における人間の尊厳という科目が2021年第１クォーターで初めて行い、学生の人数は少なかったが無事に終えることができた。本授業では、宗教における人間の尊厳科目としてキリスト教が人間の尊厳的な存在のために必要であると説いている事柄について考察した。現代社会に生きる若い人々が自分自身の命をかけがえのない唯一の宝として大事にし、守ることや他人の命も同じように大切にする生活スタイルを生かすことを本授業の目標とされている。更に、人間はどんな状態にあっても尊厳を失うことができないという理解の重要性を伝えるために現代世界における事例を用いて、授業を行った。毎回の授業レビューや期末レポートなどは英語で書いて提出することが望ましいが、学生にとっては少し難しいかも知れません。

人文学部 心理人間学科
西脇 良 先生

2021年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育・文化における人間の尊厳6
授業コード	10D07-006
教員名	西脇 良
教員コード	100623
登録人数	187
回答数	100
回答率	53.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では，①学童期の発達課題、教育上の問題，文化面での諸問題に関する基礎的知識を習得していること，②自身の生育経験との照合をおこなうことで，教育に対する自らの見解を深めていること，を学修目標としました。

学生の皆さんからの評価ですが，全体としては「まあ良し」との判断であったように思います（全設問の平均値＝4.54）。評価対象科目全体の平均値（4.39），「人間の尊厳」科目の平均値（4.45）をいずれも若干上回っていました。設問2（主体的な授業参加＝4.04）のみ，いずれの開講主体平均値よりも低く，課題が残りました。

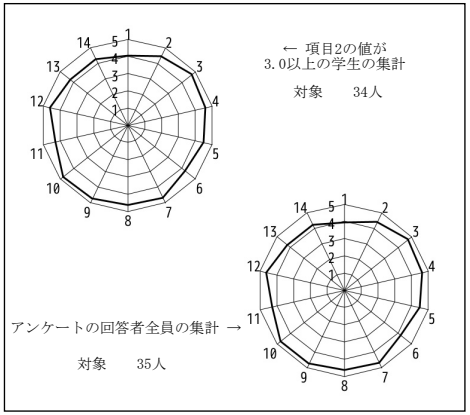
自由記述についてですが，まず肯定的な意見として，「自分の子ども時代をふり返る良い機会となった」「資料も豊富で楽しく学べた」「先生が優しく丁寧で，真摯に教えてくれた」「授業の進度も適切だった」「しっかりと休憩時間が確保されていた」「実体験を含めユーモアある語りぶりが良かった」等の評価を多数頂戴いたしました。これからも，最新データを紹介しつつ，皆さんを知的に刺激できるような授業を追求して参りたいと思います。

他方、改善すべき点として、「（オンライン授業で）話を一方的に聴くだけになってしまうのでリアクションなど工夫をした方がよい」「各回の課題の評価基準（締切後の提出に対する減点の有無など）をもう少し明確にした方がよい」等の意見を頂戴いたしました。リアクションボタンの活用，意見発表の導入など，今後工夫して参ります。評価基準については，お一人おひとりのオンライン環境，生活環境に配慮してのことでしたが，そろそろ次にステップ（オンラインを前提とした学習規律）へ踏み出すべきかと思います。参考にさせていただきます。

人文学部 心理人間学科
高橋　亜希子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IA
授業コード　23A04-002
教員名　高橋　亜希子
教員コード　103582
登録人数　41
回答数　35
回答率　85.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



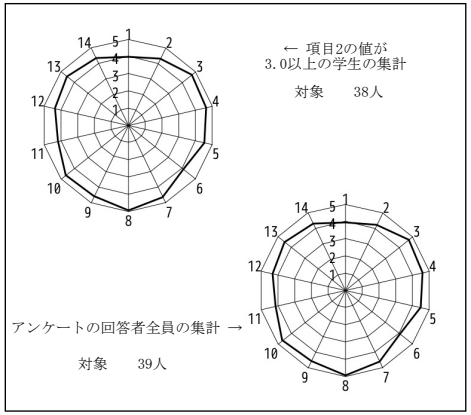
授業評価結果を踏まえた点検・評価

自身初担当の授業であり、また、1年生にとっては初めての必修の授業の一つであることもあり、①学生同士の関係づくりや教員との信頼関係づくり、②文章作成の指導を行うことを目標とした。①に関しては、項目４，７，９、10、12の得点が高く、「友達と相談しあい、先生にも気軽に質問でき、丁寧な授業だった」という自由記述の回答もあり、説明が丁寧だったという回答も複数頂き、達成できたのではないかと考える。②に関しては、「文章を書く際の基本的な知識が身についた。」「レポートの書き方を基礎から学べた」と感想で書かれ、達成できたのではないかと考える。他方で、授業への満足度や内容の指導については他項目より平均点が低くなっており、その理由を考察すると、初担当の授業だったこともあり、授業の内容、目標を理解しながら進んでいたため、のちに出てくる内容を踏まえた指導などが十分にできなかった点があると考えられる。その点を次年度以降改善していきたい。

人文学部 心理人間学科
池田　満　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IA
授業コード　23A04-003
教員名　池田　満
教員コード　103141
登録人数　40
回答数　39
回答率　97.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



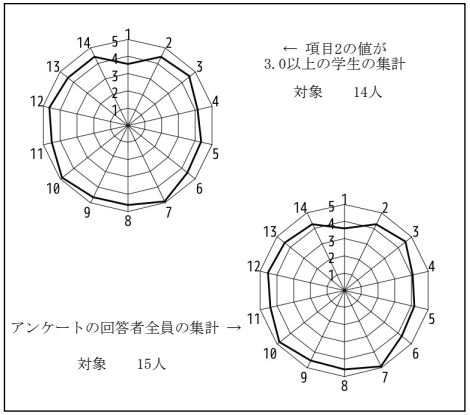
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①1. 文献の要点を論理的にまとめることができる。
　2. 発表レジュメやレポートを作成するための基本的なスキルを習得している。
という二つの到達目標を設定したが，概ね全員がこれらの目標を達成できている。
②この授業は，1年次の最初の必修科目の一つであるとともに，「文献を読み，内容を正しく理解し，要約する」という，学びの基礎の獲得を目指しているため，学科の専門性に関わる内容は若干乏しい。したがって，「事前に興味をもって」選択的に履修する類の科目ではない。そうであるならば，設問１で「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」と尋ねているが，事前にどの部分に興味があったのか（シラバスを読んで興味を持ったのではなく，漠然とした期待を抱いていただけの可能性はないか），実際に受講してみて，その興味と一致したのかなどが明らかになることで，質問項目の妥当性が高まるだろう。
③この授業に限らず，調査対象となった授業の多くは，「次クォーター・学期」には開講されず，翌年度に開講されるのが一般的であろう。それであるにもかかわらず「次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など」の記載を求めるということは，この授業の改善ではなく，教員という人に対する改善を求めているということを意味するのではないか。
その他の点を見ても，「学生による授業評価」が，本学では「授業の」評価ではなく「教員の」評価になっている。教員評価であるならば，そうと明示するべきではないだろうか。授業評価という偽りの看板で教員個人の評価を行うことに対して，問題提起をしたい。

人文学部 心理人間学科
土屋　耕治　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード　23A08-001
教員名　土屋　耕治
教員コード　102287
登録人数　27
回答数　15
回答率　55.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は，心理人間学科の必修科目として開講されている。4クラスが同じ教材を用い行われ，論述文が書けるようになることが目標とされていた。

(1) 目標と到達の程度
新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じるかを問う項目13の平均値が4.40であった。これは比較的高い得点と言え，論述文を書くという目標をある程度達成できたと言ってよいだろう。

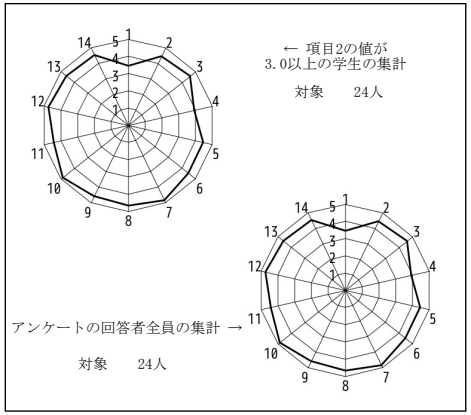
(2) 総合的な自己点検・評価
本授業では，演習形式の授業で，学生が作成した原稿を相互に批評する機会を多く設けていた。「グループで、自身やメンバーの書いた文章をお互いに見て、アドバイスしあえたところ。」という良かった点に関する自由記述コメントにあるように，一定の評価を受けていたと言える。

(3) 改善点、今後の抱負
コロナの影響もあり，対面とオンラインをミックスした，いわゆるハイブリッド形式の授業も行った。学生からの改善点として「オンラインで授業に参加した際、先生の声が聞き取りにくかった。またグループと全体のzoomに交互に入るため、先生の言葉を聞き逃すところがあった」という言葉にあるように，ハイブリッドであっても，授業内容に集中できるような方略を考えていく必要があるだろう。

人文学部 心理人間学科
楠本　和彦　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード　23A08-002
教員名　楠本　和彦
教員コード　055780
登録人数　27
回答数　24
回答率　88.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

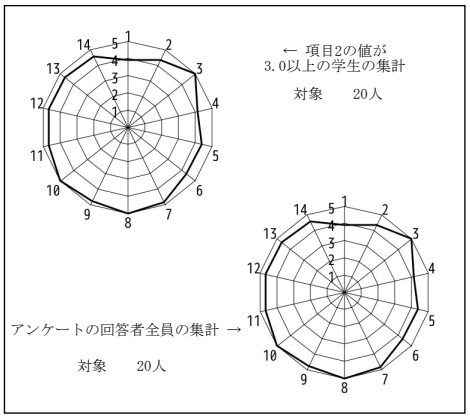
当科目は、 ４クラス同じプログラムで実施しているacademic writingに関する心理人間学科の必修科目である。到達目標は以下のものでる。
・論述的文章とはどのようなものかを知っている。
・論述的文章を自分の文章として書くことができる。
・文献を引用のルールにしたがい、自分のレポートに活用することができる。
・テキストのテーマに即して、自分の視点から自分の言葉で文章を作成することができる。
・明快な文章の構成とはどのようなものであるかを理解し、自分と他者の文章を推敲することができる。

当クラスの平均が、全学平均を大きく下回った設問は、 １と４である。１から学生が履修前には授業内容にあまり興味をもっていなかったこと、４から予定と実際の授業進行にずれがあったことに学生が改善点を感じていることがわかる。
当クラスの平均が、全学平均を０．2ポイント以上高かった設問は、 2、5、6、７、12、13、14であった。この授業では、一定程度の宿題を課したため、設問2が高くなったと考えられる。各回のおける到達目標が明示され、到達目標に向けて授業が順をおって展開されるため、 設問5、6が高くなったと考えられる。設問７や12が高いところから、質問や相談の機会や課題、実習等に対する事前・事後指導などを含めた授業に取り組む担当教員の姿勢に学生は誠実さ、真剣を感じていたことがわかる設問 13に関して、学生が授業課題を行い、提出課題に教員がコメントをつけることなどを通して、academic writingに関する知識や能力を向上させることができ、全体として授業に満足できたと考えられる。

人文学部 心理人間学科
中村　和彦　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード　23A08-003
教員名　中村　和彦
教員コード　055731
登録人数　25
回答数　20
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理人間学科２年生が４クラスに分かれ、各クラスにおいて同じ内容で授業が行われている基礎演習である。論述文のレポートや論文を作成する力を養うことを目指し、論述的文章を理解し書けること、文献を引用のルールにしたがい活用できること、などを到達目標として設定している。到達目標に向けて力が付いてきているかを尋ねる項目６の平均値は4.35であり、のびしろがあるものも、ある程度の力を身に付けたと学生が自己評価している。

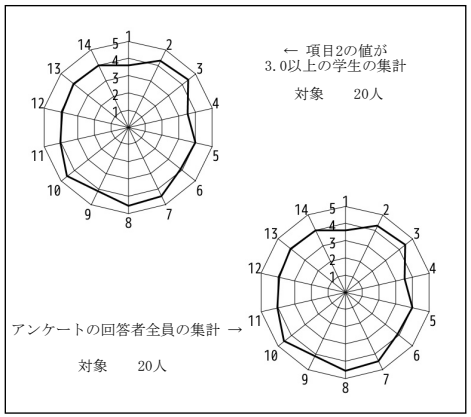
項目14（全体としての満足度）の平均値は4.55（同項目について2018年度は4.61、2019年度は4.83）であった。また、項目3～14の平均は4.68（2018年度は4.76、2019年度は4.79）であり、2018年度や2019年度に比べて今回の評価は若干下がっている。自由記述からは、緊急事態宣言の発出による休講で授業回数が１回減ったことにより、授業の進行ペースや課題提出が慌ただしかったとのコメントがあり、そのことが一因となっている可能性がある。

過去の結果よりも改善された点は、項目10（授業の妨げとなる学生の行為への適切な対処）であり、2018年度が4.84、2019年度が4.66に対して、今回は5.00であった。自由記述では、グループワークでの学び合いについて肯定的なコメントが4件あり、私語が少なく、効果的なアクティブラーニングが実施できたといえる。これは、昨年度１年間をオンライン授業で過ごしてきた２年生が、学生同士の対面での関わりや学び合いを望んでいた結果であるとも解釈できる。

人文学部 心理人間学科
加藤　隆雄　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード　23A08-004
教員名　加藤　隆雄
教員コード　019349
登録人数　26
回答数　20
回答率　76.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



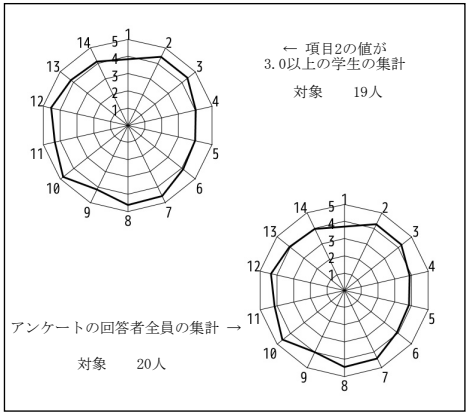
授業評価結果を踏まえた点検・評価

大半の項目について平均点で4点を越えているので、事前に設定した目標は達成したと考えられる。本演習は今年度初めて担当したが、全体の構造が十分呑み込めていなかった。また、細かな作業が非常に多く適切な指示が十分にできなかった。Q2「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」の回答にそれが反映されているのかもしれないが、ただ、おそらくは5/13に休講の指示が出て、スケジュールが詰まってしまい、課題と課題の間の時間が短くなってしまったことによることの方が大きいように思う（自由記述にもそのような指摘がある）。2コマ連続の授業なので、200分の欠損はQ5・Q6にも影響しているように思われる。アカデミックスキル科目なので、内容の面白さという点でのQ1・Q11がやや低いのは致し方ないかもしれない。自由記述では「自分が書いたレポートを添削していただけてとても嬉しかったです。自分の力が高まったように思います。」「教科書や授業資料を適切に活用していた点。レポートの書き方について段階的に教わったため、理解しやすかった。」など評価する意見が多数あった。改善を求める意見としては、対面授業である必要があったのか、授業スケジュール通りに進まなかった、課題の締め切りが短かった、グループ活動の時間が短かった、などがあった。次年度は担当するか決まっていないが、担当するのであれば今年度得た授業全体の構造についての理解をふまえ、よりシステマティックな指導ができるものと考える。

人文学部 心理人間学科
浦上　昌則　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理調査法I
授業コード　23C47-001
教員名　浦上　昌則
教員コード　018788
登録人数　39
回答数　20
回答率　51.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業および心理調査法IIでは，心理測定およびデータ分析についての理解を実践的に深めるとともに，質問紙調査について演習を通して理解することを目的としている。心理調査法Iで調査の計画から実施までを行いデータを収集するまでを行う。質問紙調査法についての理解を深め，それを使った研究計画を立案できるようになること，適切な質問紙を作成できるようになることを目標としている。

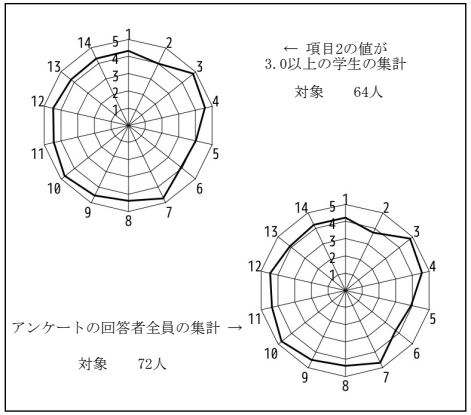
授業評価の回答は，概ね平均値が4程度であり，まずまずの評価を得られたと考える。講義と演習を含む内容のため，課題の量もかなり多く，自主的な取り組みの程度が成果に大きく反映されると推察できる。良かった点として「教授からの課題はおそらく最低限のものであろうが，その内容が奥深く，非常に自分のためになる点」といった意見があったのは成果といえよう。

なおQ1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」の評価が最も低く，3.70であった。必修科目ではなく，調査研究を行うには不可欠な授業と考えているが，数名，1をつけていた。なぜこのような受講生が生じるのか，検討してみたい。

人文学部 心理人間学科
藤田　知加子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　知覚・認知心理学
授業コード　23C59-001
教員名　藤田　知加子
教員コード　100382
登録人数　166
回答数　72
回答率　43.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」という評価項目に対する学生の平均評定値は3.75と，やや低い値であった。とはいえ，72%の学生が，評定4以上をつけていたことから，おおむね到達できたと考える。

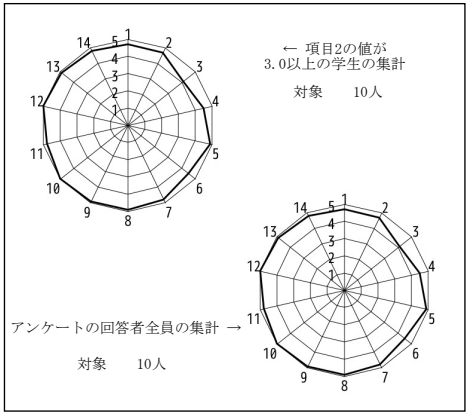
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由記述では，授業資料の豊富さ，説明のわかりやすさ，フィードバックの丁寧さ，授業内での小実験の実施などが高く評価されており，オンラインであっても質の担保ができていたと思われる。総合的には，授業準備としてこちらが配慮した点を評価されていたように感じる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
オンラインであることから，カメラオンを毎回伝えてはいたが，様々な事情でそうすることもできない学生がいることを踏まえ，あまり強くは求められなかった。自由記述の中には，あまりにもカメラオンで参加する学生が少なすぎるという意見もあり，この形態での開講が来年度も続くようであれば，なんらかの工夫が必要であると考えている。

人文学部 心理人間学科
青木　剛　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理臨床実践概論(公認心理師の職責)
授業コード　23C79-001
教員名　青木　剛
教員コード　103923
登録人数　10
回答数　10
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



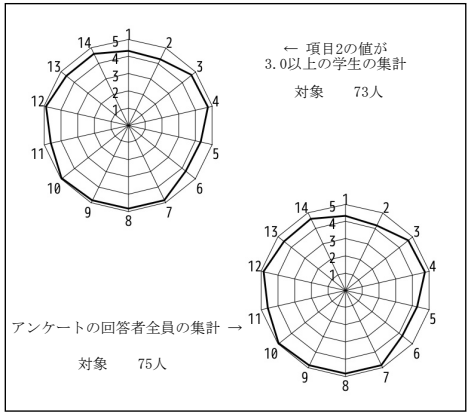
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目では、これまでに修得した知識を活用して、公認心理師の各職域で求められる職責について発表およびディスカッションを行い、職責の理解を深めることを目標としていた。実際に学生は、熱心に取り組んでおり、概ね本科目の到達目標は達成できたのではないかと思われる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
アンケート結果は全て4以上であり高い評価が得られた。また、自由記述からも、知識の獲得だけでなく現場で求められる思考力について理解できたことが伺えた。本科目は公認心理師資格取得のために修得必要な科目であり、法令により定められた内容を網羅する必要があった。緊急事態宣言の発令に伴い全学で認められている資格関連科目と同様に当初予定された時間割通り・受講形態での授業運営ができればよかったが、学科科目であるために適わず、イレギュラーな対応をせざるを得なかったために授業時間の設定等での善処を求める記述があったものと思われる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上述の通り高評価が得られた一方で、授業時間の設定等に関する自由記述が認められた。特殊な状況下でやむを得ないことではあったが、本科目は学科科目とは言え受講生にとっては教員免許や司書資格などと同じ国家資格に関する授業であるため、それらの資格と同様の対応が可能となることが望ましい。

人文学部 日本文化学科
平子　達也　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語の多様性
授業コード　20A10-001
教員名　平子　達也
教員コード　104112
登録人数　131
回答数　75
回答率　57.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



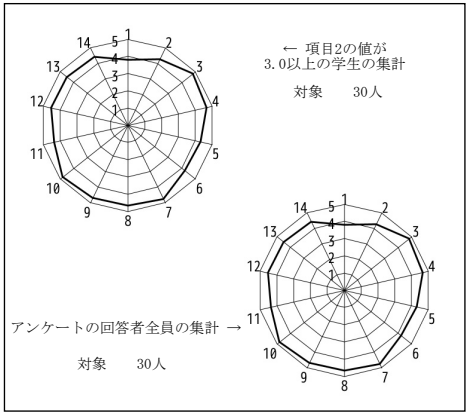
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標として「ことばが多様であるとはどういうことか，ことばが多様であるのは何故か，ことばはどこまで多様か，ことばが多様であ必要はあるか，という点について，受講者自身が自ら考えることができる」ということを設定していた。この目標の到達の程度を測るために「ことばが多様であるとはどういうことか」「ことばが多様であるのは何故か」「ことばはどこまで多様か」について，授業内容を踏まえた上で，自らの言語経験について語ってもらう課題を４回，そして，それらの経験を踏まえた上での「ことばが多様である必要はあるか」ということについての自らの考えを述べることを最終レポートとして課した。提出された課題・レポートからするに，多くの学生がある程度は上述の目標に到達しているものと考えられる。
　数値データを踏まえると，着任後３年目にして，ようやくある程度「まとも」な授業ができるようになったかと自己評価する。自由記述では，slidoを用いた質問受付とそれに対する授業内でのレスポンス，同機能を用いた授業内でのクイズ・アンケートが好評であったようだが，これは対面授業でも応用できるものと考えている。ただ，クイズへの回答のうち（学問的な立場から）妥当でないものを修正する際，教員が発する表現に対して，それを「批判的」とする印象を持ったとする意見が１つあり，この点は今後の指導などでもやや注意をしたいと考える。また，mmhmmを使って，スライド提示時に教員の姿を映すようにした点についても良い評価をするものがあった。
　既に述べたとおり，ようやくまともになってきたところなので，学生から寄せられた様々な意見，特に上記のような否定的な意見に留意しつつ，学生の理解が深まり，興味・関心を促すような授業ができるように，努力したい。

人文学部 日本文化学科
松田　京子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文化史B
授業コード　24C12-001
教員名　松田　京子
教員コード　100789
登録人数　65
回答数　30
回答率　46.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では、教員作成の配布プリントとそれへの解説を中心に、適宜、関連する映像資料の視聴を行いながら、テーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後に小レポートを実施し、各回の授業の中心的なトピックに関する感想、視聴した映像資料に関する感想、その他自由な観点からの感想や質問等を受講生全員に書いてもらい、次回の授業の冒頭で感想の一部を紹介しながら復習を行うとともに質問に答えるなど双方向の授業展開を試みた。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画はほぼ予定通りに進行することができた。

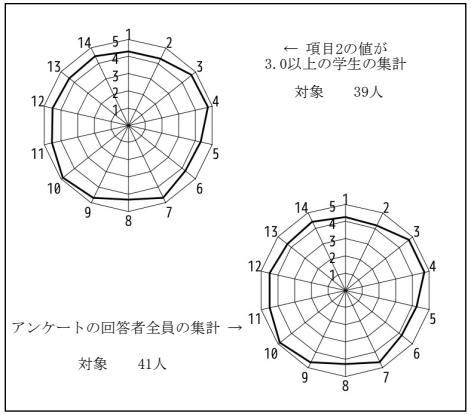
②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.67、設問7の4.77、設問9の4.70という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。この点については、「学生による授業評価」の「自由記述欄」に、映像資料の視聴や小レポート・授業冒頭の復習などに関する好意的な意見を、複数の学生が寄せてくれていたことからもうかがえる。まだ授業運営についても、授業の開始・終了時間に関する設問3の4.83、授業の妨げとなる行為への対処に関する設問10の4.80と比較的高い数値であった。反面、設問11については平均値4.37と、設問11に関する全学の平均値4.26は上回っているものの、改善の余地がある数値であり、この点は反省点である。

③以上のような反省から、今後は受講生のより積極的な授業参加や自主的な学習に繋がるよう、具体的な事例をさらに組み込んだ授業展開や、情報提供のあり方に工夫していきたい。

人文学部 日本文化学科
坂井　博美　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　表象文化論
授業コード　24C20-001
教員名　坂井　博美
教員コード　102981
登録人数　112
回答数　41
回答率　36.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



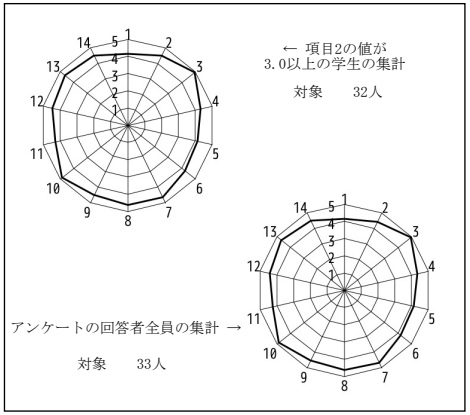
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、概ね達成できたと考える。アンケートの数値から授業構成・進行速度や資料提示等はおおむね肯定的に捉えられており、自由記述においても、配布資料が多い点に触れた記述が多くみられた。授業は主に近現代の史料を使い、歴史的な観点から考察したが、それらを通して同時に現在の社会を考える視点を養うということも課題としていた。自由記述では、普段通り過ぎてしまうような日常を立ち止まって考えるようになった、見方がかわった、といったような意見があり、この点、一定程度成果があったのではないかと考える。オンライン授業において、質問や要望が積極的に出されたことはよかったと思う。課題をこなす時間の確保については、確保できていたという意見があった一方で、時間が足りなかったという意見もあり、今後、適切な方法を考えていきたい。また、音声が遅くなることが時々あったとの意見が複数あった。この点については、その後、ネット環境を改善したが、受講生の方々にはご不便をかけたと思う。

人文学部 日本文化学科
籾山　洋介　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語分析A
授業コード　24C50-001
教員名　籾山　洋介
教員コード　041806
登録人数　56
回答数　33
回答率　58.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



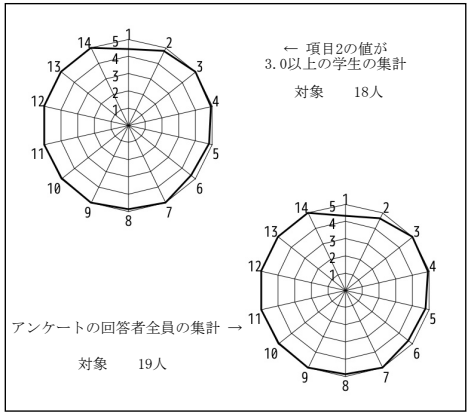
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「レポート」（2回）、「質問・コメントシート」（毎回）から判断して、授業の目標に十分達した受講者が60%以上であった。その他の学生もこの授業の内容を部分的に身に付けた。授業に対して、「多く例が用いられていて、より理解を深めることができた」「必要に応じて、補助資料を配布して下さり、理解を深めることができました」というコメントがあった。今後も用例および資料をさらに充実させたい。また、「授業の最初に、前の週のリアクションペーパーのフィードバックがあり、自分の意見が読まれるワクワクと、先生の意見や他の学生の意見を聞ける面白さがとても良かった」という意見もあった。受講者の質問・コメントに対して、今後も丁寧に対応していきたい。一方、「授業のコメントを紹介する時間が長すぎた」というコメントもあった。20分をめどに行っていたが、超過してしまうこともあった。今後、授業の時間配分についてさらに工夫していきたい。

人文学部 日本文化学科
上田　崇仁　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語教育史
授業コード　24C64-001
教員名　上田　崇仁
教員コード　103619
登録人数　50
回答数　19
回答率　38.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



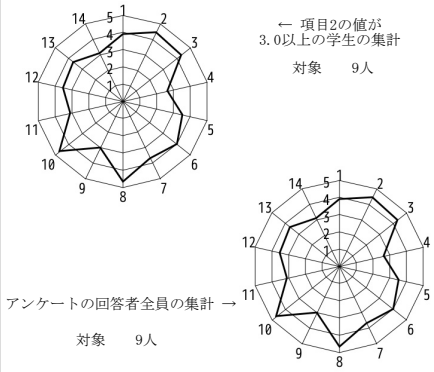
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートについては授業時間を割いて行ったのだが、半数に満たない回答数であった。この根本的な部分の解消をまず、次回は検討したい。オンライン授業であったために、学生の行動が把握できないということが原因だと思われる。ほかの先生方の工夫があればぜひお聞きしたい。
①　毎回の授業において、出欠確認のためにコメントを送ってもらうこととした。その内容は、回を重ねるごとに量を増し、半ば個別指導のような形で学生の関心に沿った知識の広がりと深まりを感じることができた。当初に設定していた目標と到達の程度については、そのコメントを見る限り、ほぼすべての学生が到達できていると思われる。
②　日本語教育史の授業に対する関心が授業前にはあまり高くないことがよくわかった。結果として、自由記述などを見る限り、肯定的なコメントが多かったことから、関心が低い状態から身近な問題として関心を高めていった様子がうかがえる。喜ばしいことだと認識しているが、一方で、シラバスを見るだけではあまり学習意欲のわかない授業だったのだろうと思い、シラバスの書き方、内容の示し方に工夫をしたいと考えた。
③ただ、これも、どうしようもないことではあるが、対面授業を想定して示したシラバスであり、実際の授業がオンラインになるという変化もあり、それぞれに向いた内容というものがあると愚考する。シラバスにどの程度のものを盛り込むのか、実際の授業が始まった時に、そこにかかれているものの半分が内容が変わったり、扱い方が変わったりということがどの程度許容されるのか、無難なものにしておくと今回の繰り返しになりそうで悩ましい。自由記述では、予想を上回るコメントをいただいた。さらに努めたい。

外国語学部 英米学科
COCHRANE, Robert　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A I3
授業コード	31A01-003
教員名	COCHRANE, Robert
教員コード	104483
登録人数	28
回答数	9
回答率	32.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



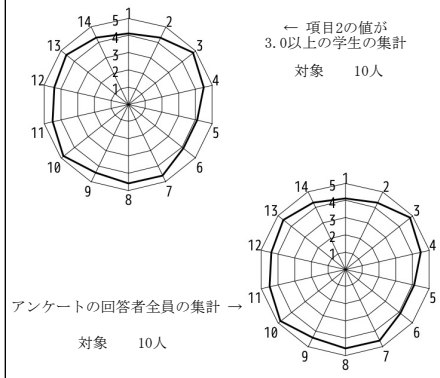
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of the course was to introduce and prepare students to produce Academic English content. They will be introduced to critical thinking and academic production processes. As these ideas are unfamiliar, some challenges are to be expected. This is also my first experience teaching this course (textbook) and these students so I also faced challenges.
Overall the students responded well to the challenges but were overwhelmed with the amount of content in the textbook so the pacing of the course and this was reflected in student comments.
The one area below 3 was Q4. This will be alleviated in Q2 by more class discussion, pair/group work and class time allocated to cooperative project work. The amount of content in the following textbooks is also significantly reduced so the issue of pacing will be improved.
The points that I will specifically address is giving students more opportunities for peer work and review and more in depth discussion of their assignments and projects in class.

外国語学部 英米学科
TEE, Ve-Yin　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture C2
授業コード	31C08-002
教員名	TEE, Ve-Yin
教員コード	101626
登録人数	30
回答数	10
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



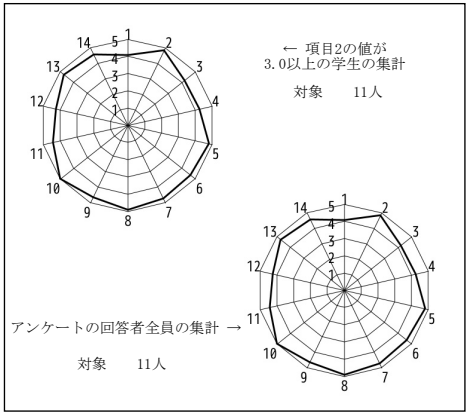
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goal of the course is to raise awareness in students on LGBTQ issues, especially how they affect people and society in general. The high level of satisfaction, as well as the written comments (which were all positive), matched my impression of this being a tremendously rewarding course to teach. Students found the poetry discussions not only informative, but also pleasurable. I related quite a few personal experiences of mine to help them understand the thinking of someone in a marginal position in society: Amy Levy, the poet they were studying, was lesbian and one of the first Jewish women to go to Cambridge University at a time when women were expected to marry and have children, and England was a much more homogeneous country than it is now. I was especially relieved by the fact that students felt they had learnt something important from this course considering how two classes were suddenly cancelled because of the worsening coronavirus situation. The quality of the written work was affected by this though: due to the cancellation of classes, I wasn't able to teach students how to write a literary analysis essay, nor did I have sufficient time to cover MLA and APA referencing conventions.

外国語学部 英米学科
手塚　沙織　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Contemporary Japan B1
授業コード	31C22-001
教員名	手塚　沙織
教員コード	103911
登録人数	22
回答数	11
回答率	50.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



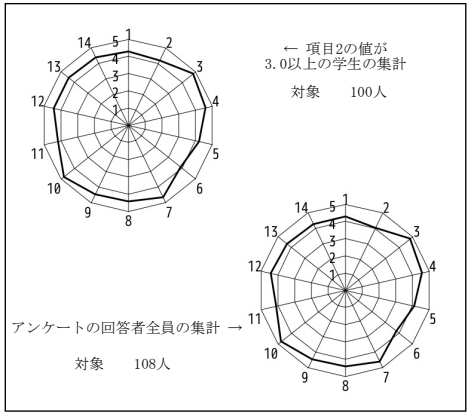
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、１）議論を引き起こしているトピックの議論・討論を通じ、現代日本社会への理解を深めること、２）問題の捉え方と分析方法、議論・討論の仕方を習得することである。これらを達成するため、授業毎（縦コマ）に、ペア議論、チーム議論、チーム討論を行なう。授業後半には、関連論文が課され、その理解を深めた上でのチーム議論と討論をする。ペアやチームは、授業毎に異なるため、協調性やリーダー性といったチームワークが求められる。学生からの評価では、「しっかりとしたディベートができること。大変だったからこそ授業が終わった時の達成感はとても感じられた。また日本とアメリカだけでなくあらゆる観点からraceの問題を知る良い機会だったと思った。」や「英語力が少し高まった気がする。トピックは難しかったけど確実に力がついた」など、日本だけでなく、欧米やアジアでも議論が未熟なトピックを取り上げているため、学生はトピックの難しさを理解しつつも、その分実力がついたと本授業を評価した。ただ、Q1では、関連論文を授業内で読む時間を設けたが、それを授業外でも良いとする学生がいたため、Q2の本授業では関連論文を事前課題とした。また、Q1では、全学生にペア議論の発表時間を設けたが、これは時間の制約上、全学生にする必要がないという学生もいたが、この点はQ2の本授業では変更していない。なぜなら、全学生に人前でアカデミックの英語を話すことに慣れさせるためである。Q2では、この点を学生に話し、趣旨を理解させた。Q1の本授業の改善点をQ2では取り入れ、より良い授業になったと自負する（Q1/Q2を比較する上で、Q2の学生評価が欲しかったところではある）。

外国語学部 英米学科
原田　健二朗　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	歴史研究の基礎（イギリス）
授業コード	31D10-001
教員名	原田　健二朗
教員コード	104468
登録人数	143
回答数	108
回答率	75.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、①古代から現代までのイギリス通史を修得し、②イギリスの国内諸地域と帝国・コモンウェルスの構造を理解すること、③イギリスを中心とする英語圏地域への関心を深めることであった。最終レポート課題を見る限り、多くの学生にとっておおむね目標は達せられたのではないかと考えるが、項目6の平均値の低さは学生自身による謙遜の表れではないかとも感じる。

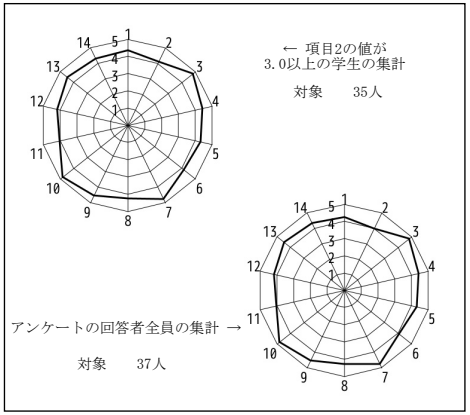
本授業は主に1-2年生向けの入門講義でもあり、知識の教授と主体的学習への動機づけを両立させることは常に大きな課題であった。知識をわかりやすく伝えることを重視したため、より高度で発展的な主題を取り上げることは不足気味であったと感じる（項目2、項目11）。ただ、自由記述を見る限り、映画・映像作品の紹介や時事ニュースの解説などを通じて、徐々にでも学生の知的関心を刺激することはできたのではないかと考える。授業でも指摘したように、講義を一つのきっかけとして、自主的な学問に取り組んでくれることを望む。

本科目は初めて担当する科目だったが、履修および回答してくれた学生全員に感謝したい。今Qの評価結果を活かし、よりよい授業となるよう努めていきたい。

外国語学部 英米学科
上村　直樹　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アメリカの外交
授業コード　31E05-001
教員名　上村　直樹
教員コード　102463
登録人数　111
回答数　37
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



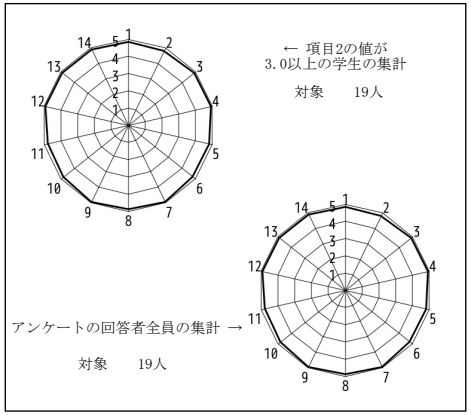
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の開講に際して設定した到達目標は、①アメリカ外交の展開の歴史を理解している、②アメリカの外交をめぐる国内の諸制度や国内政治との関係や国際システムとの関係について理解している、③近現代の国際関係においてアメリカが果たした役割や国際社会との相互的な影響について理解している、の3点であった。こうした到達目標に関して、多くの学生が概ね十分な内容理解を示すレポートを提出していたため、特段の問題を感じていなかったが、今回の調査の結果を見ると、到達目標に直接係わる設問のうち、5の「到達目標を理解したか」が4.32であったの対して、6の「到達目標に向けて力がついてきているか」の方が4.08と低目の数値となっている。この結果は、学生側の主観的満足度がやや低いことを示しているとも言え、設問11の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す」ことに関する数値が4.05と低いこととも合わせて考える必要があろう。授業全体としては、設問13の「知識や理解の深まり」、設問14の全体の満足度がそれぞれ4.46、4.32と比較的高い数値が出ており、今後、設問6や11に係る受講生の主観的な満足度を向上させるための更なる工夫が必要と言えよう。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
CARDENAS, Abel　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　上級スペイン語III2
授業コード　32A26-002
教員名　CARDENAS, Abel
教員コード　017525
登録人数　25
回答数　19
回答率　76.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



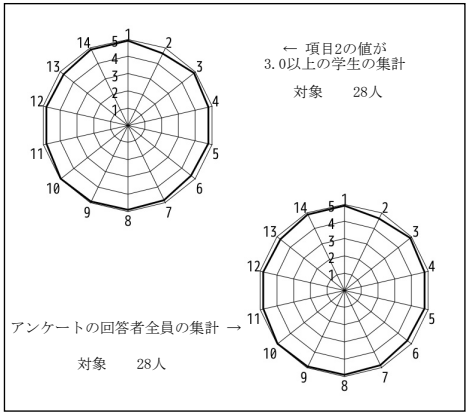
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to help students further develop their reading comprehension and oral skills in Spanish. This was achieved by using authentic reading materials as well as a variety of tasks centered on the development of successful reading strategies and oral activities to express their ideas in Spanish. The results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all the aspects included in the three major categories of the class evaluation received an average score of 4.89, which is higher than the average achieved by other courses in across the university campus. In addition, comments provided by the students in the open-ended questions of the survey confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were the use of groups work that enabled students to learn from each other, the various tasks and activities that helped them prepare for the reading comprehension section of the DELE exam and the appropriateness of the responses and explanations provided.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
小阪　知弘　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語翻訳法I
授業コード　32D10-001
教員名　小阪　知弘
教員コード　103689
登録人数　29
回答数　28
回答率　96.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



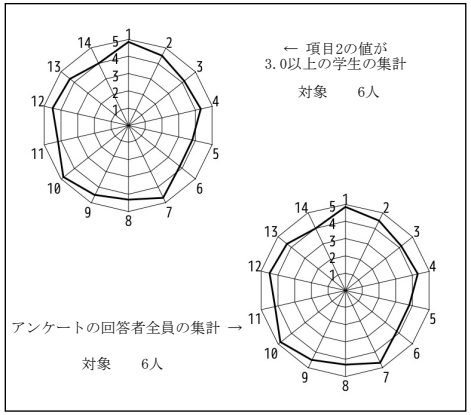
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、当初設定していた目標は到達できたと判断している。なぜなら、現代スペイン語の翻訳だけでなく、予定していた通り、黄金世紀のスペイン語の翻訳にも踏み込むことができたからである。また、目標であった無生物主語構文を自然な日本語に訳出する作業もうまくおこなうことができたため、目標達成できたと判断している。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価に関しては、全ての数字データが４．６以上を達成し、多くの数字は４．９以上も獲得することができたため、それなりに評価できると自負している。自由記述も好意的な記述が多く、翻訳作業の合間にスペイン語の音楽などを組み込んだ点を評価してくれた点は自分なりに良かったと判断している。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、翻訳作業と並行して、さらに翻訳理論にも着手していきたいと考えている。また、これまで通り、スペインのスペイン語とラテンアメリカのスペイン語の翻訳作業を交互に交えて講義を進展させたいと考えている。

外国語学部 フランス学科
REBOLLAR, Patrick　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級フランス語IA1
授業コード　33A11-001
教員名　REBOLLAR, Patrick
教員コード　100084
登録人数　20
回答数　6
回答率　30.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



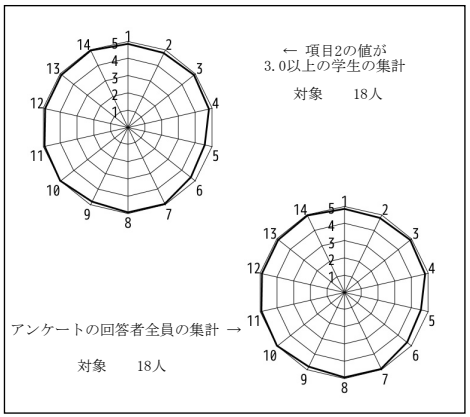
授業評価結果を踏まえた点検・評価

As it is in the program (syllabus), we followed the three first lessons of the course book "Saison 2", with many educative activities (vocabulary, grammar, expression, communication, pronunciation, culture and society knowledge) through exercises of the exercise book. Also using a web homepage, there was a regular anouncement for the verbs to prepare for dictation sentences, and the corrected version to compare in the following days. In the same webpage, students may find lists of exercises to prepare if they were absent from class.
Due to the pandemic situation, the Quarter period started with normal classes, and also in hybrid mode, using a computer with Zoom to connect the remote students and make them participate and communicate with the students who were present. It is a big loss of time but quite fun for the students, which is good for their motivation to learn French.
The following weeks, until the end of the Quarter, we had classes with Zoom for all the students. This means a more communicative class situation, because safer than speaking through masks, specially to perform and improve pronunciation, seeing face expressions and lips of the speaker and the interlocutor.

外国語学部 フランス学科
小林　純子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級フランス語文法I1
授業コード　33A17-001
教員名　小林　純子
教員コード　102488
登録人数　30
回答数　18
回答率　60.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

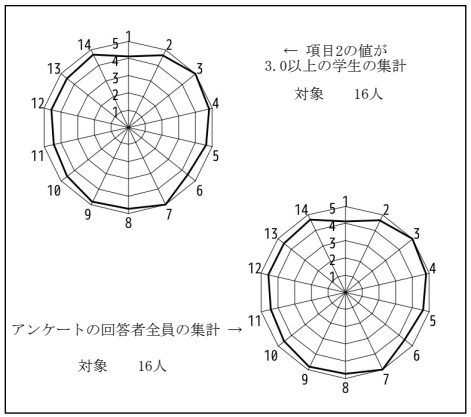
本講義は、基本的な文法事項を既習の大学2年生が文法的な理解をさらに深めることを目的としている。学科の必修科目として共通シラバスを使用する語学科目であることから、指定された教科書を用いて説明を加えつつ教科書の練習問題に取り組むスタイルを基本としながらも、学生の主体的な学ぶを促すためにグループワークを取り入れ、学習した文法事項と関連性の高い歌を紹介するなど学習への動機付けの工夫も行った。

自由記述を踏まえると、グループワークは受講生の学習意欲の向上に貢献しており、また歌は一般的なフランス語への興味関心の高まりにとって一定の役割を果たしていたことがわかった。進度については受講生によって受けとめ方が異なるため、難易度の高い項目を扱う単元では復習を重点的に行うことをより意識的に実施するよう心がけたい。また数値データから、受講生には到達目標がややわかりにくいものと捉えられている可能性を指摘できる。今後は教科書を含めた適切な教材の選択と検証にも取り組む必要がある。

外国語学部 フランス学科
吉澤　英樹　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語圏研究
授業コード　33C10-001
教員名　吉澤　英樹
教員コード　103584
登録人数　51
回答数　16
回答率　31.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



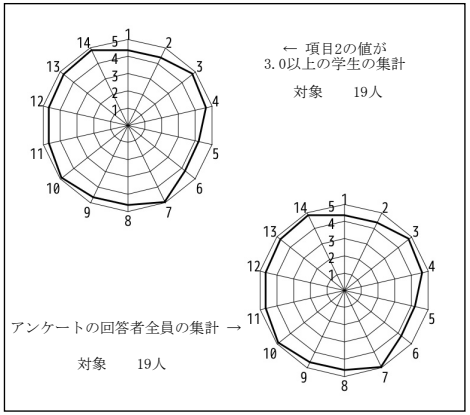
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①シラバスの記述にあるように以下の二点を目標とした。　1.フランス語圏の成立過程と現況を理解する。2.フランス語圏が直面する諸問題とその未来のあり方について、自身の考えと意見を持つことができる。１に関しては授業内で解説し、それに関する課題を履修者が提出することによって到達できたと言える。２に関しては「未来のあり方」に対する見解については学生に自律的に考えてもらうためにあえて教員は自分の解答を提示しなかった。そのため一部の学生にその目標とするところが不明瞭に映った可能性がある。ただし授業内では前回の授業の課題に対する学生の記述で興味深いものを紹介し、学生側のフィードバックと授業の進行が噛み合うように工夫したことは言い添えておきたい。②平均値が全学並びにフランス学科の平均を上回っているため一定の評価が得られたと理解している。ただ一部の学生から内容が難しいという意見もあったため、自宅で学習する際に道標となるようなものをもう少し授業内で紹介ないしはハンドアウトで対応したい。③ハイブリッド形式の授業は初の試みで手間取ることも多かったが、今後この形式の授業形態が増えることも想定し、教室・自宅どちらかの学生が不利になることのないように工夫していきたい。

外国語学部 ドイツ学科
中屋　宏隆　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ研究の基礎（歴史・社会）
授業コード	34A08-001
教員名	中屋　宏隆
教員コード	102885
登録人数	19
回答数	19
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本講義は、ドイツ研究をする上での基本的な考え方を身に付けることを目標としている。またそのために必要な基本知識を身に付けることも目標としている。具体的には、テキストを用いてドイツ史の基本的な内容理解を進めた。その他、配付資料を用いながら、現代ドイツが抱える社会問題について洞察を深めた。到達の程度に関しては「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という問いに対して4.26なので、まずまずであるが、もう少し引き上げることを企図したい。

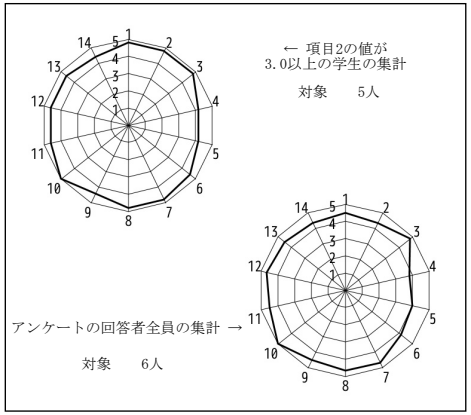
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。アンケートの平均値が「項目1から14の平均4.62、項目3から14の平均4.66」となっており、学生には概ね満足のいく授業が提供できたのではないか。各質問においても2の評価と3評価を記入した学生が、19名中1-2名いたが、そうした学生も、14番目の「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という質問には4以上を記入しており、一定の満足度を得ていると言えよう。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
しかしながら、現状のアンケート結果に満足すること無く、さらに平均値を引き上げるべく、来年度は新しい内容を盛り込むなど、さらに講義密度を上げていく方法を検討していきたい。

外国語学部 ドイツ学科
BAYERLEIN, Oliver　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション論
授業コード	34A14-001
教員名	BAYERLEIN, Oliver
教員コード	100842
登録人数	43
回答数	6
回答率	14.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



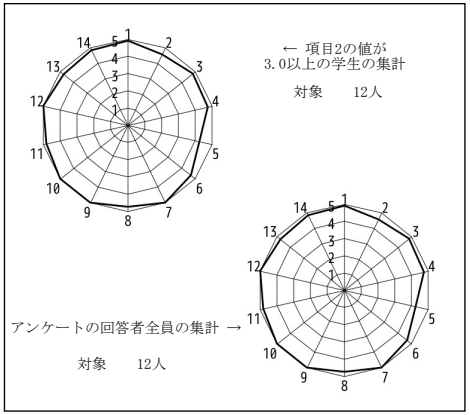
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Unfortunately, out of twenty-four participants, only six responded, so it is not really possible to get a representative picture of students' opinions about the quality of teaching. This low participation perhaps suggests a certain weariness among students regarding such surveys. If this is also the case with other courses, one could give some thought to the usefulness of this type of evaluation and possibly consider other types of evaluation.
If I am to draw conclusions from the statements of the few students, then I can be quite satisfied with the result of the class. The lessons are planned as a substitute for the missing opportunity to go to Germany. Of course, such a substitute lesson can never recreate the real experience of a stay abroad. As far as it was possible, I tried to do that in the lessons. I hope that next year the students will be able to go to Germany again.

外国語学部 アジア学科
中　裕史　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I語法1
授業コード　35A07-001
教員名　中　裕史
教員コード　017830
登録人数　14
回答数　12
回答率　85.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



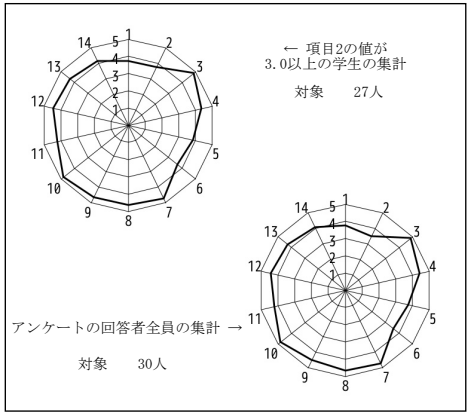
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講にあたって設定した本授業の到達目標は以下の2点である。１．動詞を中心とした構文やテンス、アスペクトを使いこなせること。２．中国語検定3級程度に相当する文法の知識を持っていること。アンケートの結果を見ると、設問5が4.25、設問6が4.67となっていて、この到達目標は概ね達成できているといえるだろう。設問9や設問12の評価も高かったことから、学生の理解度に対する配慮の仕方や、質問の機会を随時設けていたことも、到達目標に向けて力がついてきたと学生が感じる要因になったものと思われる。最後の2週間がオンライン授業になったが、学生と距離をとって接していた対面授業よりも、Zoomではむしろ発音の矯正が効果的にできたことも高評価につながっているのだろう。自由記述を見ると、教科書の語法事項の説明を、教員がせずに学生にさせたこと、および語法の説明の中にリスニングの時間を取り入れて聞き取りの練習をするとともに中国や台湾の最新の話題を共有したことも好評であった。ただ、Zoomでの聞き取りの際には、単語を口頭で説明するのでなく書いて見せてほしかったという声もあり、今後そのような場面では生かしていきたい。

外国語学部 アジア学科
江口　伸吾　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国社会研究
授業コード　35C15-001
教員名　江口　伸吾
教員コード　104423
登録人数　38
回答数　30
回答率　78.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



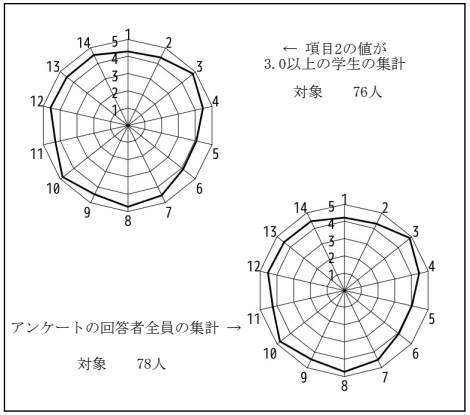
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業の目標と到達の程度
本授業では、(1)中国理解の前提としての日中関係の推移の理解、(2)中国の政治社会の多角的、複眼的、構造的な考察、(3)中国語の新聞・雑誌にもとづく等身大の中国社会の観察といった各目標を設定した。開講当初の目標の達成度は、リアクションペーパー、レポート、授業アンケートの結果から、8割程度と判断している。
②本授業に関する総合的な自己点検・評価
「項目1～14」「項目3～14」の平均値は、4.26と4.36となった。自由記述解答では、「資料が豊富であった」「テーマ一つ一つに対して内容が深掘りされていた」「中国社会の抱える問題を歴史的観点や現在のニュースから理解を深めることができた」「色々な人のリアクションペーパーを共有し、自分とは異なる視点がわかりよかった」といった評価がある一方、「わからない単語や知識が多くあまり理解できなかった」「対面の授業で席が遠いとパワーポイントの文字が見づらかった」といった問題点も指摘された。多くの受講生にとって、本授業がこれまであまり触れることのなかった内容でもあり、基礎的な知識のより丁寧な説明が必要であることが課題として残った。
③次クウォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負・方針
上記を踏まえ、基礎的な知識の説明に関する改善を踏まえながら、今後も受講生が資料を通して多角的に考察する機会の提供に努めてまいりたい。

経済学部 経済学科
實多　康弘　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学A2
授業コード　12C08-002
教員名　實多　康弘
教員コード　100751
登録人数　129
回答数　78
回答率　60.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



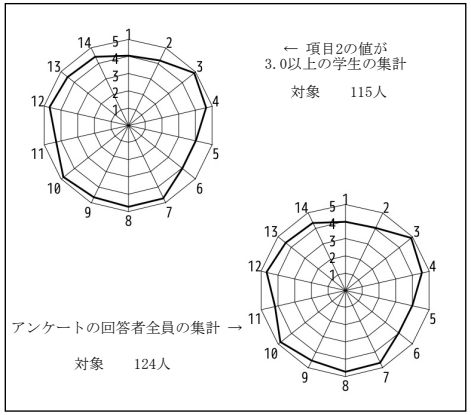
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度に引き続き担当した講義で、今回で5回目の担当となる共通教育科目である。オンラインでの講義となり、昨年度からの試行錯誤の結果、Zoomのホワイトボードに手書きで書き込んで講義した。手書きの講義ノートは、講義資料としてアップロードした。重版を毎年している評判のよいテキスト『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣）を参照してもらい、講義を行った。学生からの記述評価で、スライドを事前に配付・印刷して書き込むような授業よりも、集中して聴くことができ、また、アップロードした講義資料で自分のノートを改めて確認できて復習ができた、と高い評価を得た。ただ、電子ペンでの手書きのため、きれいに字などを書くことが難しい場合があり、分かりにくい字があったとの指摘があった。電子ペンでの記述を改善するために、今後は、よりゆっくり丁寧に記述するように心がけるようにする。開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。オンラインであることから、内容を絞り込んで講義を行った。その結果、授業の内容と進行速度について高い評価を得た。また、理解度の確認のためのレポートを課して提出を求めた。提出後に、授業内で解説を行った。質問も多くあり、チャットなどのすべての質問に丁寧に対応した。全体的に非常に高い評価を得たので、今回の授業を、オンライン授業だけでなく、対面授業でも生かしていきたい。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

経済学部 経済学科
相浦　洋志　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マクロ経済学1
授業コード　40B02-001
教員名　相浦　洋志
教員コード　103642
登録人数　153
回答数　124
回答率　81.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



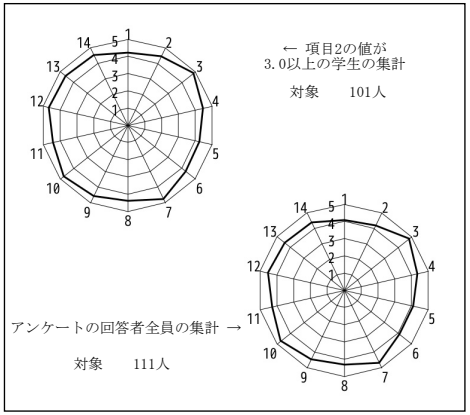
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本クォーターで担当した授業は１年生向け必修科目「マクロ経済学」であった。この科目は今後の基礎をなす科目であり、学部として学習内容が定められている。期末試験の結果を見る限り、指定されている学習内容について身についたのではないかと思われる。アンケートの結果をみると、"授業内容への興味","到達目標への理解"などの項目の点が低かった。これは、この科目は必修科目であり、学生の興味関心とは関係なく受講しなければならないので、当然ともいえる。一方で、"新しい知識を得たり、理解が深まった","全体を通しての授業満足度"は学部平均より0.1ポイント以上高く、受講生に対し満足できる授業が提供できたのではと考える。
この授業は、オンデマンド型の授業教材視聴とZoomによるリアルタイム講義のハイブリッドの形式を取った。このやり方に対する評価として、自由回答欄に「授業の最初に小テストがあり、回答後すぐに解説してくださるので、そこでビデオ学習の復習ができたのが良かった。」「予習用の動画があったため、授業内容の吸収率が良かった。」などの高評価を得られた。このやり方は、いわゆる反転学習であり、対面授業でも有効であると感じるので、今後もこの形式をできうる限り取り入れていきたい。

経済学部 経済学科
蔡　大鵬　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学のための数学3
授業コード　40B04-003
教員名　蔡　大鵬
教員コード　103260
登録人数　121
回答数　111
回答率　91.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



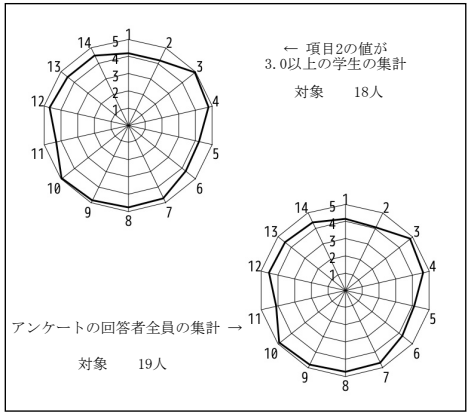
授業評価結果を踏まえた点検・評価

［１］授業目標および達成度
　本講義は、経済学において、数学的な手法がいかに応用されているのかに焦点を合わせながら、①1変数関数について、積の微分、商の微分、合成関数の微分を計算することができる、②1変数関数の極大と極小、そのための必要条件と十分条件を求めることができる、③2変数関数の極大と極小、そのための必要条件と十分条件を求めることができる、また④ラグランジュの未定乗数法による条件付き最適化問題の解法を理解し、応用できることを目標としています。授業評価の結果と定期試験の成績から、一部の学生を除き、上記の目標をほぼ達成できたと考えられます。
［２］点検・評価
　授業評価の結果として、設問1から14の平均値は、「4.39」であり、また「設問4」と「設問8」を除き、学部平均を上回り、ある程度満足してもらえていると理解しています。
［３］次学期以後に向けての改善点等
　この授業は、「何らかの形で受験に数学を利用した」者を対象としているが、履修者の中に、数Ⅲの知識を持っている学生と持っていない学生が混在しており、授業内容が易しすぎるとの声がある一方、難しすぎるとの声もありました。中間時点で、履修者全員に対してアンケート調査を行い、それに基づき授業内容の微調整を行いましたが、この調整について、評価されているようです。一方、入試の出題範囲から数Ⅲの内容がなくなる予定なので、今後、数Ⅲの内容について、さらに丁寧に解説することが求められると考えられます。
　また、チャート欄での質問が殺到し、その応答で講義時間が短くなり、自覚していませんが、挽回するために進度が急に早くなったこともあったようです。さらに、数回質疑応答の時間を設けたが、足りていないようです。今後、Zoomで質問できる時間を増やす等で対応していきたいと思います。

経済学部 経済学科
林　順子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本経済史入門
授業コード　40D03-001
教員名　林　順子
教員コード　101007
登録人数　64
回答数　19
回答率　29.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



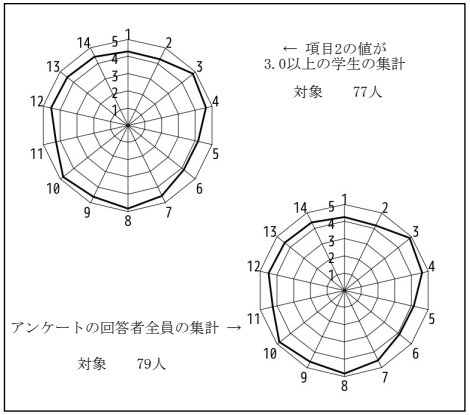
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講で設定していた目標は「江戸時代以降の日本の経済的な現象とその背景や影響の理解」「歴史的な視点から、現在の日本経済の成り立ちの考察」であった。試験結果からは、ほぼそれを到達していると判断できる。評価の数値データは全体平均以上で、自由記述でも好印象のコメントが多かった。例えば、毎回講義内容のプリントを配布した点、毎回講義の最後に書いてもらった質問に次回講義で全て回答した点である。PowerPointの字幕機能を用いたのも、本講義では評価が高かった。但し、字幕については第2Qの別講義においては学生の希望がわかれた。集中力が落ちるとの声のほうが多かったため、字幕を用いずに実施した。今後もオンラインが続くことがあれば、学生の意見を聞きながら字幕機能の使用は決めていきたい。自由記述欄には、講義のレコーディングと公開を希望するコメントがあったが、講義時間に参加するのが本来の講義の形であり、これに関しては受け入れられない。最後に、今回はアンケートの回答率が非常に悪かった。アナウンスと時間が不十分であったと反省している。今後は複数回アナウンスをおこなって回答を促したい。

経済学部 経済学科
都築　栄司　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　金融論A
授業コード　40D28-001
教員名　都築　栄司
教員コード　103265
登録人数　168
回答数　79
回答率　47.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　開講当初に予定していた講義内容は過不足なく取り扱うことができた。また、中間・期末レポートの結果から、大半の受講生が当初予定していた到達目標に到達できていることがうかがえる。

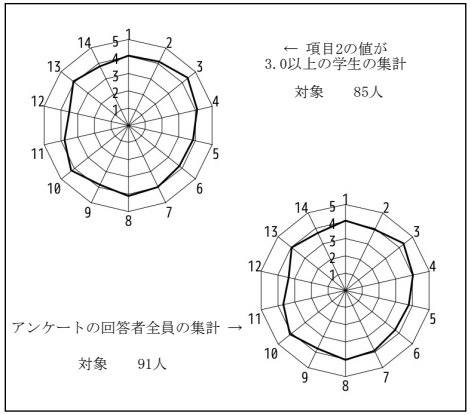
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　この科目の受講には若干の数学的な予備知識が要求されるため、数学を用いた議論が苦にならない人とそれを苦手とする人とで、理解の速さに差が出ることは仕方がない。この点については、シラバスや初回のガイダンスで十分にアナウンスしている。毎時限、理解度の確認のための練習問題を配布しているが、授業内で解説をするだけでなく、各自で自習ができるよう、煩雑にならない程度に、講義資料に幾分詳細な説明も含めるなどの工夫をしている。これは好評のようなので続けていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　債券等の金融商品の実際の購入方法などについて知りたかったとの意見があった。確かに、この講義では実践的な話をする機会は少なかった。そのような内容は、金融論Bの方で詳しく論じる予定である。しかし吸収した知識を応用して実際に身の回りの問題解決に役立てる力を磨くことは、学問の習得におけるもっとも大きな意義の1つであると思われるので、今後はそのような内容を充実させていきたい。

経済学部 経済学科
岸　智子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　労働経済学A
授業コード　40D30-001
教員名　岸　智子
教員コード　100346
登録人数　232
回答数　91
回答率　39.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



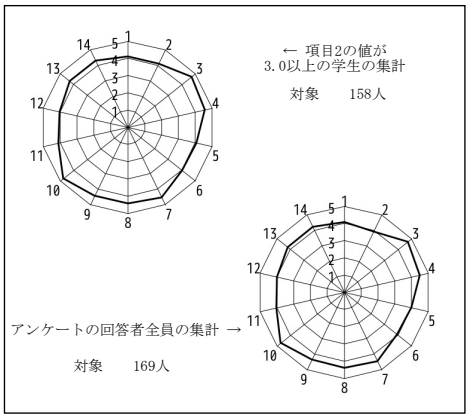
授業評価結果を踏まえた点検・評価

ここに書くべき内容ではないかもしれないが、以下、事実を記録しておきたいと思います。
この授業は当初、オンライン授業でしたが、途中から、「対面＋オンライン」の形式になったのです。そこで、学生番号によって受講者を半分に分け、半数は対面授業で残り半数はオンライン授業、ということにしました。そのとき、「対面授業の学生に悪いので、今後はZoomのチャットに答えない」と宣言しました。というのは、チャットには、遅刻・欠席の届や試験の形式などに関する内容が多かったからです。
5月6日、Zoomにチャットがありましたが、自分はあまり気に留めていませんでした。ところがそれは、オンラインの学生からの「聞こえない」というクレームでした。1－2分後に対応しましたが・・・その日、教室で受講していた学生が意見を書いてきました。
「オンライン＋対面」の授業において、先生はZoomのチャットに応えるべきである。先生は、「対面授業の学生に悪い」と言いながら、オンラインの学生に悪いことをした。Zoomにきちんと対応できない教員がいるとは、ひどい大学である。
これを見て、自分は深く反省しております。対面授業を行いながら、Zoom上のチャットに気も対応する・・・それは自分にはまだできていないことです。これからも「対面＋オンライン」という形式の授業が続くとしたら、夏休みの間に練習をしておこうと思っています。

経済学部 経済学科
岸野　悦朗　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	租税論A
授業コード	40D34-001
教員名	岸野　悦朗
教員コード	103035
登録人数	438
回答数	169
回答率	38.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



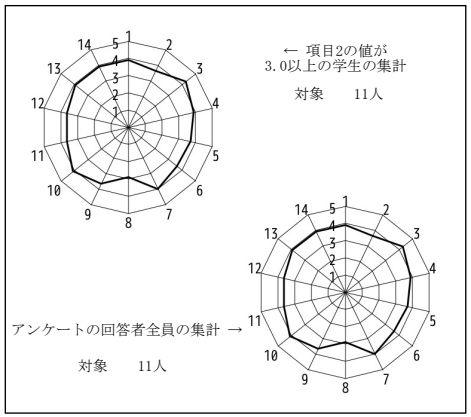
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　この授業は、我国の租税制度全般及び所得税並びに相続税といった個人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。
　授業に際しては、昨年度に引続きオンラインで行い、14回の授業としつつ学生にも理解できるようにパワーポイント資料を見直す等改善に努めた。また、評価方法は幅広く理解する観点から、1回の定期試験ではなく、授業期間内において5回の課題テストを行った。課題テストについては、講義直後に行ったことから理解度が向上したのではと評価している。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　数値データはほぼ例年通り。自由記述欄ではパワーポイント資料に対する評価、改善要望等両方意見があったが、本年度はこれまで以上に評価する声が多く、オンライン授業では対面授業以上に資料を中心に学修していると感じたことから、今後資料の構成、内容、形式等更なる改善を行いたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　次学期以降、各科目について充実した内容となるよう上記評価を踏まえて取り組んでまいりたい。なお、授業前の新聞記事のコメントは評価が高く、次学期以降も引続き実施したい。

経済学部 経済学科
上田　薫　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	産業組織論A
授業コード	40D36-001
教員名	上田　薫
教員コード	016832
登録人数	54
回答数	11
回答率	20.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



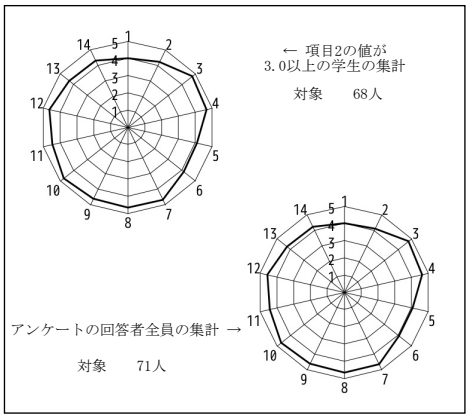
授業評価結果を踏まえた点検・評価

　この授業は寡占の理論と競争政策の関わりについて、ミクロ経済学およびゲーム理論の基本的知識を踏まえた理解を行えることを学修目標としている。企業および独占市場の理論、さらに非協力ゲーム理論の入門的知識の概説を行なったうえで、寡占市場の理論とそこから導かれる競争政策に関する含意と実践について学ぶという構成である。昨年度から遠隔に対応するために講義ノートの記述を大幅に書き足し、自宅学習に対応できる内容にすることを試みており、今年度も講義4回分程度の差し替えを行っている。
　自分の研究室を使用した遠隔授業として始めたが、この形態については昨年度第４クォーターから音声がほとんど聴き取れなくなるという学生からのクレームが発生しており、今回は開始1回目から頻発したため、ハイブリッド授業に切り替えた。それでも音声状態に関する不満は払拭できなかったようで、設問8の異例の低評価になった。また、ハイブリッド授業に提供された大教室ではPC画面を見ながらの授業が不可能であり、学生からの質問等への対応の困難、ホワイトボードの映り方のチェックの困難という問題につながった。設問9、11、12の評価の昨年度からの大幅低下には、授業管理に関するこうした不如意による部分が大きいと考えている。
　全体として今回の授業は、機器の作動不良、授業形態の途中変更、これらへの教員自身の適応の不十分さなどが重なり、不本意なものとなった。遠隔授業に伴うトラブルを前提とした授業準備の必要を痛感しており、対応の改善を心掛けたい。

経済学部 経済学科
太田代　幸雄　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際経済学A
授業コード　40D44-001
教員名　太田代　幸雄
教員コード　100347
登録人数　167
回答数　71
回答率　42.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



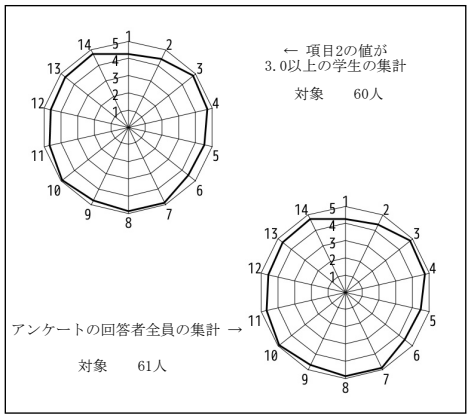
授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】
　この科目は，経済学科2年次生以上向けの選択科目であり，国際経済学の基本的理論を学習するために設定された科目である。特に，比較優位という重要概念について，数値例も用いながら学習することにより，この学問領域の理解が進むと考えられる。今回の講義は，リモートでの講義ということもあり，進度・聞こえやすさ・スライドの見易さ等に十分に注意しながら進めたつもりである。数値データで見ると，全設問の平均値4.91（設問3－設問14の平均値4.47）ということで，リモートによる講義ではあったが，受講生にとって充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。
【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】
　データとしては，回収率が全受講生中約44%と，ここ数年で見て平均的な値であったことが挙げられる。ただし，ここ数年回収率が低いことは確かであるので，この点は改善して行かなくてはならないと考えている。また，アンケート結果としては，全項目で学部平均値以下であった設問が4問（設問1，5，13，14）存在していた。特に，設問13，14はより重要な設問であると報告者は考えている。より受講生に興味・満足を持ってもらえるような講義造りを試みたい。ただし，全ての項目で4を上回っていることを考えると，大学側のオンライン授業のための準備等は報われているといえるのではないだろうか。その他，理解度をいつも学生の表情で確認してきたため，対面で講義できないことの不自由さを非常に痛感している。
【次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など】
　自由記述欄を見ると，スライドが判り易かったという反応が多く，今回の講義で気を付けてきた点で効果が出てきたことが分かり，非常に安堵している。今後，さらに受講生の理解が進むよう，更なる修正を試みたいと考えている。

経済学部 経済学科
稲垣　一之　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際金融論A
授業コード　40D48-001
教員名　稲垣　一之
教員コード　104110
登録人数　103
回答数　61
回答率　59.2%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
受講生は、本講義の当初目標水準に十分に到達することが出来たと考えられます。期末試験の範囲は、講義中に扱った全てのトピックスとしましたが、期末試験の結果は良好であったため、受講生は本講義の内容を十分に理解することが出来たと判断されます。
また、ハイブリッド形式の講義でも（途中から始まった）オンライン形式の講義でも、おおよそ9割の学生が毎回の講義に参加していました。特に、オンライン形式の講義では、講義中や講義後にチャットを通じて質問する学生が多く、その質問に対するやり取りを聞くために講義後でもzoomに残る受講生が多数いました。このような環境も、学生の理解度の向上に役に立ったと考えられます。

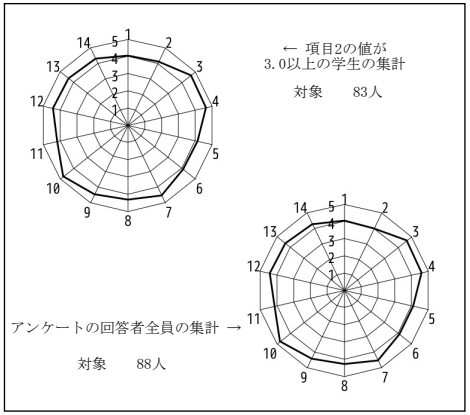
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
質問項目13と14が、それぞれ4.66と4.72であり、学科平均を大きく上回っていることから、学生による授業評価は極めて高いと判断されます。自由記述においてもポジティブな意見ばかりであり、特に「授業が分かりやすい」という意見が多数寄せられました。このことが、学生の関心を高めて、結果的に知識の定着につながったのかもしれません。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
特に問題もなく、学生の評価も良好であったため、この調子を維持できるように引き続き精進してまいります。

経済学部 経済学科
阪本　俊生　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　消費社会論A
授業コード　40D68-001
教員名　阪本　俊生
教員コード　017020
登録人数　189
回答数　88
回答率　46.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



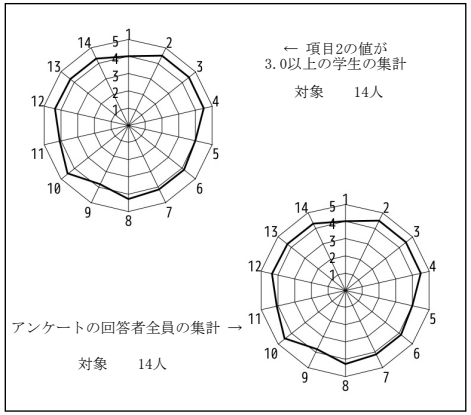
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　開講当初に設定していた目標と到達については、概ね達成できたと考えている。
②　数値データについては、全項目が4以上であり、全体としての満足度も4.26と全体の平均値には及ばないものの、まずまずであったと考えている。受講生の多い授業であり、項目2や11の主体的参加に関するところがネックになっていると感じた。自由記述では、配布のレジュメについて「充実していた」、「わかりやすくまとめられていた」、「内容が濃かった」また「進行速度が適切だった」、説明についても「丁寧」「わかりやすかった」といった記述が多く見られた。全体についても「面白かった」「楽しかった」といった回答もありうれしい。その反面、「授業始まる数分前に、講義資料をアップロードされても困る・・・自分勝手だ」という意見もあったが、レジュメは常に前日にはアップしていたので、これは事実に反する。あと、当初インターネットの接続が、不安定になることがあり、数分間切れてしまったことがあったが、4度目の講義からはネット環境を変更し改善したが、これの指摘が何件もあった。ただし、その部分に関しては、再度講義したので内容の途切れはなかったが、学生にとっては不安であったのだろう。
③　今回、前回までの評価や意見をふまえて、講義内容も見直し、資料も充実させるように改善してきた。今後もさらにこれらを改善していきたい。

経済学部 経済学科
赤星　立　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　市場の経済学A
授業コード　40D72-001
教員名　赤星　立
教員コード　103866
登録人数　35
回答数　14
回答率　40.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　本講義で学生に課していた目標は次の3点である．（1）複数財の消費問題を理解し，需要曲線が消費者の行動の帰結として導かれることを理解する．（2）「消費者の理論の応用」として扱われる複数のトピックスについて（何も見ずに）講義できる．（3）（エッジワースボックスにおいて）厚生経済学の第1定理について説明できる．
　試験結果を見る限り，学生は一定水準の理解に達することができたと言える．したがって目標は十分に達成されたといえる．

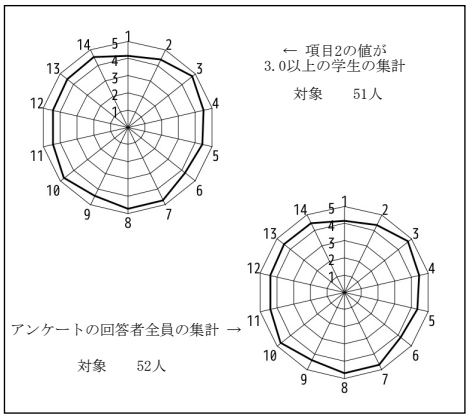
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　履修登録者数35名のうち14名の学生が回答してくれているが，毎回の講義出席者は30名程度であったことから鑑みるに，回答者は実際の受講者の半数に満たない．授業中に数回アナウンスしたが，効果的ではなかったようだ．評価については概ね満足している．どの項目についても高い評価がなされている．独自のアンケートも2回実施したがオンラインでの講義方法などについて学生から高い評価を得られたと感じている．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　アンケート実施およびその周知の仕方について再考する必要がある．一昨年度までと同様に授業中に回答時間を取った．しかし，顔が見えない中では（原則カメラオンであることを伝えても，ほとんどの学生はカメラをオンにしない．色々と事情があるのだろう）実際に回答してくれているのか判断が難しい．

経済学部 経済学科
小林　佳世子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法と経済学
授業コード	42E08-001
教員名	小林　佳世子
教員コード	100487
登録人数	165
回答数	52
回答率	31.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、経済・経営・法の3学部にまたがる専門科目であり、専門も前提知識も興味関心もかなり異なる学生さんが集まるという、少し難しい授業運営が求められる状況の中で、これだけの高い評価となったことには、素直にうれしく思っています。

コメントをみても、「これほど経済学を実際の社会のトピックと結びつけて学ぶことができるとは思わなかった」「考えさせられたし、経済学をより真剣に勉強しなければいけないと思わされた」「目から鱗な内容がとても多く、とても充実したものとなりました」「すごい授業を受けてしまったなと思いました。視野の広がった授業でした」など、講義から刺激を受けた様子が伝わり、講義の目標は果たせたように思います。

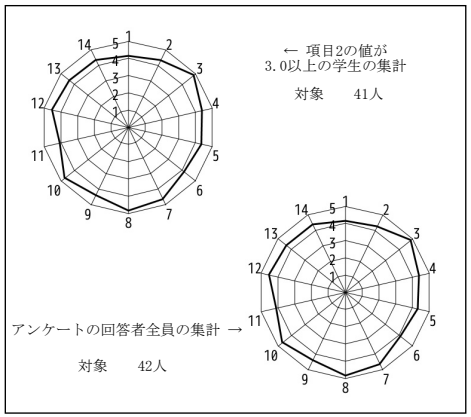
「経済学へのイメージが変わった」「経済学への興味がとても沸いた」「経済学の視点で考えることで、今まで思い浮かばなかったようなことまで考えることができるのだなと感動した」といったコメントも多々もらえたことも、とてもうれしく思っています。

オンライン講義となり、手元を映してノートをとりながら授業を進めること、学生さんに質問をしてチャットで答えてもらう形で行いました。「先生から質問があったため、考える時間もあり、主体的に授業を受けることができた」「講義の中で板書していくように進める方法は、自分でレジュメを作っていく感覚になり、他の講義よりも理解度や意欲が上がりました」「先生が書きながら説明していく授業スタイルは個人的に理解が進みやすく、とても良いなと思いました」といったコメントは、こうしたやり方が一定の評価を得たたように思います。ただカメラの解像度の関係で文字が読みにいことがあったというコメントもあり、オンライン下での工夫はさらに続けていこうと思っています。

経済学部 経済学科
宮崎　浩伸　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学A / Economics A
授業コード	48C28-001
教員名	宮崎　浩伸
教員コード	101892
登録人数	53
回答数	42
回答率	79.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価結果は、設問1～14の平均値が4.43、設問3～14の平均値は4.47であった。今年度は途中で対面授業からオンライン授業に変更となり、授業内容を一部削らざるを得なくなり、開講当初に設定していた目標を達成することはできなかったように思う。しかし、受講生の皆さんがこうした状況についても理解してくれ、非常に協力的であったため、授業の雰囲気も良く、たいへん楽しく授業を行うことができた。個々の授業評価項目では、設問6、11で低い評価となっており、何らかの対策が必要である。そこで、今後の改善すべき点としては、以下の2つが挙げられる。

1.授業の到達目標を理解し、到達目標に向けて、力がついてきたことを実感してもらう。

2.学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導・情報提供を行う。

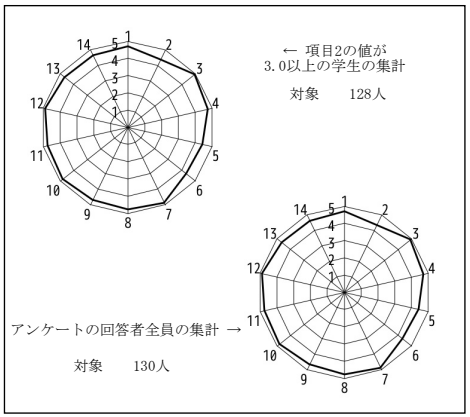
これらの課題には、例えば、授業内で到達目標を繰り返し明示し、その目標に向けて、理解度が上がっていることを実感できるテストを数回実施することや課題レポートを課すことが有効かと思われる。

最後に、自由記述欄では多くの好意的な意見をもらい、中でも「一つの事柄に対して例示が多く理解しやすかった。」、「内容を簡単な例で何度も説明していてわかりやすかった」といった意見が多くあったので、この点は今後も継続していきたいと考えている。

経営学部 経営学科
中尾　陽子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学B2
授業コード　12E04-002
教員名　中尾　陽子
教員コード　064188
登録人数　196
回答数　130
回答率　66.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、心理学を知識として理解するだけでなく、日々活用できるようになることを目標としました。また、オンライン授業となりましたが、一方的に教員の話を聴くだけではなく、わかちあいによって受講生同士の関わりを通して学び合うことにも取り組みました。自由記述には、このわかちあいが非常に有効であったとの思いが多く記されていました。他者の多様な考えに触れ、自分の考えの幅が広がることに驚きや喜び、今後も続けるべきとのご意見を多数いただきました。

毎回のわかちあいは、50程のBORに分かれて実施するため、私は幾つかのルームを回ることが精一杯でした。言い換えれば、教員の目が行き届かない中でも、自分たちで意味ある時間を創りあげてくださっていたということです。このように主体的かつ学びや他者への関心高いみなさんがいてくださるから、このような授業を実現することができました。

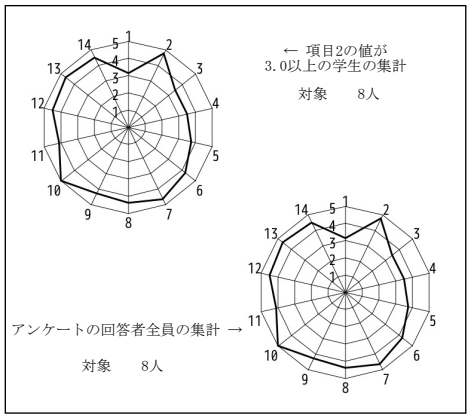
一方で、授業内容、私の話し方や授業の進め方に対する厳しいご意見も頂きました。非常に具体的なご指摘により、自分の言動が想像もしていない影響を与えていることを知りました。受講者全員のニーズに応えることは本当に難しいですが、まずは、100分の授業における時間配分を再検討し、より意味ある授業を考えてみます。

本当に授業をご一緒くださった方々には感謝の思いしかありません。今後とも意味ある授業実現のために、ご協力をお願いいたします。

経営学部 経営学科
長谷川　高則　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報機器の操作1
授業コード　14D02-001
教員名　長谷川　高則
教員コード　000162
登録人数　11
回答数　8
回答率　72.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．授業目標

この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。今回はハイブリッド授業であったが、対面とオンラインで同時に質問があり、オンラインでの指導が後回しになってしまい、進行状況は遅れ気味であった。

２．目標達成度

出席状況は大変良好であったが、対面とオンラインでの個別指導の切り替えに時間がかかり、演習時間に影響を及ぼしてしまった。開講当初に設定した授業計画は80%ぐらいしか達成することができなかった。レポートの内容は高評価のものが多く、演習課題も頑張った内容のものが多かった。

３．授業評価

前回のアンケートと比較すると、教室内での人との間隔・移動の制限等も影響しているのか、全設問の平均値は4.45から4.21に大きく低下した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問10（授業の妨げになる行為への対処）5.00、設問2（主体的に授業に参加）4.75、設問13（新しい技術や能力を得た)4.63等であり、評価が低いのは設問1(授業内容への興味）3.13、設問4（授業の構成や進行速度）3.50等であった。設問1の評価を改善するのは履修前の事ではあるが、ICTを活用し事前学習用の資料を工夫して提供している。設問4は受講生のスキル差も有り難題ではあるが、デジタル教材を充実させ改善中である。

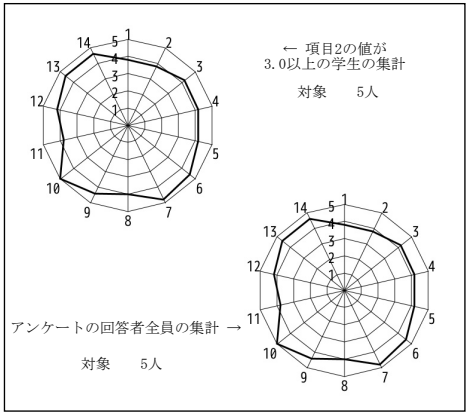
４．今後の抱負

ハイブリッド授業で得た問題点、必要性、可能性を再認識し、次世代の学びのあり方・地域の創生に対応する内容も取り入れ、エドテックを使ってもっと興味がわき理解しやすい効率的な授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

経営学部 経営学科
池田　亮一　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済原論I
授業コード　42B05-001
教員名　池田　亮一
教員コード　101880
登録人数　24
回答数　5
回答率　20.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



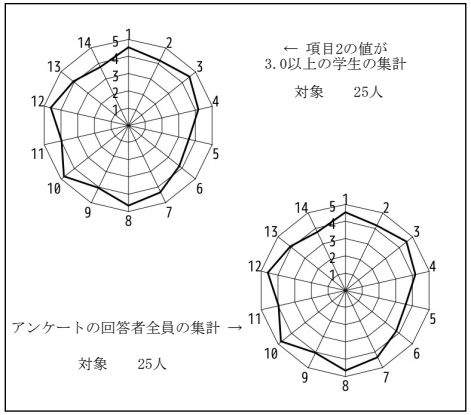
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標は「1. 財やサービスの価格や消費量がどのように決定されているかを論ずることができるようになる. 」および「2. ナッシュ均衡, パレート優位・劣位などゲーム理論の基礎概念を論ずることができるようになる. 」であったが, レポート問題を計算問題等ではなく上記の概念に関して具体的にかつわかりやすく記述させる問題としたところ, 概して試験の出来がよかったため, 学生はこれらの内容について十分な理解ができたものと考えられる. 自由記述欄にコメントを残した学生が少なく残念だが, 「例が分かりやすい」という記述があり, 概念の理解の助けとして気の利いた例が重要であることを改めて認識した. ただし, 授業で扱った代替の弾力性が無限大であるような2財として挙げたボルビックとエビアン（共にミネラルウォーター）を知らない学生が多数いたことは衝撃的であり, 今後は例の更新を定期的に行う必要があると感じた. 今学期最も問題と感じたことは, 昨年度と比較した受講生の著しい減少である. 昨年度は初回登録時に250名ほどいたが今年度は40名程度に留まっており, 学部基本科目として位置づけられているにも関わらず少数の学生しか受講しないのではもはや基本科目とは言えない. コロナ禍での対面授業というのが毛嫌いされたのだとしても, 初回時に学生の心をつかむような工夫を考えることが必要かもしれない.

経営学部 経営学科
竹澤　直哉　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ファイナンスA
授業コード　42C07-001
教員名　竹澤　直哉
教員コード　101191
登録人数　79
回答数　25
回答率　31.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年はハイブリッド授業であったため、学生が質問しやすいように配慮することを目標に設定した。

ハイブリッド授業であったため、、学生の理解を深めるために例年よりも高い頻度で課題を出しつつ、授業内容や課題に関する質疑応答に多くの時間を割いた。こうした配慮は、記述式の回答や項目4,10,11,12の高い評価につながったと推測される。全体的には、過半数の学生が4または5と評価していることから、目標はおおむね達成されたと評価する。

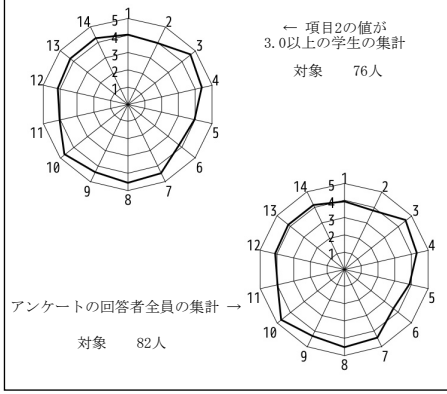
一方、平均を押し下げた項目は設問5,6である。中央値は4であることから到達目標に対する理解は過半数の学生にあったものの、この項目で「１」と評価した学生も一定数いることから、一部の学生は到達目標を理解できなかったことがわかる。こうした学生の理解不足が全体評価に影響を与え、その評価を下げた可能性があると考えられる。

以上の分析を踏まえると、今年の授業目標は概ね達成できたと評価する。今後は、授業で得た知識が確実に身についたかどうかを自覚できるように、到達目標をより一層丁寧に説明することを目指す。

経営学部 経営学科
中島　裕喜　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営史A
授業コード　42C15-001
教員名　中島　裕喜
教員コード　103065
登録人数　172
回答数　82
回答率　47.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンライン中心の講義を余儀なくされたので、自由記述欄で好意的な評価としては聞き取りやすいという意見を多くもらったことは良かった。これからも早口にならないように、ペースを考えて講義を進めていけるように努力したい。反対に低い評価として、資料が見にくいという意見もあった。自分が投影しているパワーポイント資料と学生が自宅のパソコンで見ているものの映り方が微妙に異なるのかもしれない。モノトーンにした配布資料も作成しているので、活用してもらうように働きかけたい。レーダーチャートでは設問項目６「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の評価が低いことが残念であった。経営の歴史を理解するという本講義の課題そのものに対して学生の十分な関心が得られていないのではないかと考えている。設問項目３「オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか」など講義の態度については一定の評価を得ているので、学生に本講義の魅力を伝えられるように努力したい。

経営学部 経営学科
赤壁　弘康　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　デリバティブ
授業コード　42C33-001
教員名　赤壁　弘康
教員コード　100788
登録人数　5
回答数　1
回答率　20.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

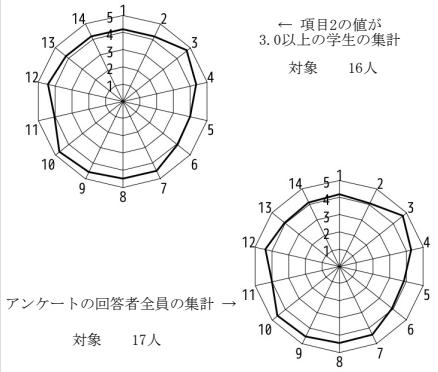
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①受講生はファイナンス関連の科目を履修していなかったため、ファイナンスの基本概念を説明することに時間を要した。また、オンライン授業への移行のため1回休講になり、当初予定していた講義項目をいくつかスキップしたが、当初予定していた目標を達成するため最後は駆け足になってしまった。
②当該講義は少人数であるため、ほぼ毎回出席確認できた。数学の利用が避けて通ることができない科目であるため、受講生には多少負荷がかかったと思われるが、デリバティブがどういった金融商品であるかを含め、当初設定した学修目標はクリアでき、デリバティブの存在と意味を理解してもらえたと自負している。
③講義資料は自作のノートをWebClassにアップして受講生にダウンロードしてもらっている。毎年改訂を加えてより良い資料になるよう努力しているが、ミスプリをなくすことができず、受講生に迷惑をかけた。講義資料をアップする前にさらに慎重に確認する¥ことで、講義中の無用の混乱を避けたい。

経営学部 経営学科
安田　忍　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　外部監査論
授業コード　42C39-001
教員名　安田　忍
教員コード　101561
登録人数　44
回答数　17
回答率　38.6%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



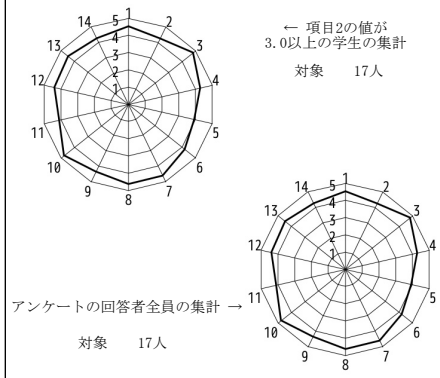
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、監査の目的、実施プロセス、監査報告・監査意見の内容など、外部監査（財務諸表監査）の全体像について監査基準をベースに学習し、財務諸表監査の基本的な枠組み、監査基準の内容、監査の課題について理解することを目標とする。
アンケート回収率は約39%で17名からの回答にとどまっているが、アンケート結果では、到達目標に向けて力がついていると思うかという設問6は3.94となっている。これは必ずしも高い数値とは言えないが、新しい知識、理解4.06、満足度4.12であり、また、定期試験の代わりとしたレポートの出来具合からみれば、当初のj授業の到達目標は達成されたと思われる。
配付レジュメでは、毎回の授業ごとにその授業での「学習のポイント」を示し、授業ごとの到達目標を明らかにしてきたつもりであるが、設問5授業の到達目標の理解が3.88であったのは意外である。「学習のポイント」を示した意図が学生に伝わっていなかったのかもしれないので、来年度からは授業ごとの目標と学習内容のつながりがより明確に意識できるようにしたい。

経営学部 経営学科
石垣　智徳　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マーケティング・リサーチ
授業コード　42D08-001
教員名　石垣　智徳
教員コード　101889
登録人数　46
回答数　17
回答率　37.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



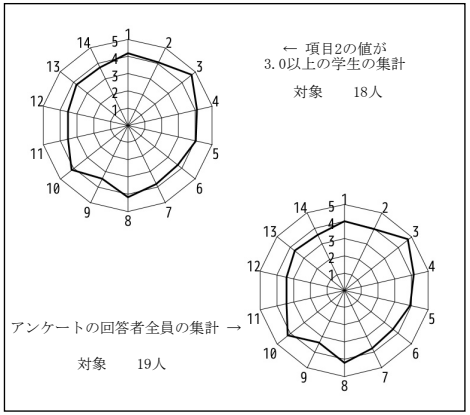
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の設定した目標は、マーケティング・リサーチのプロセスを実行するできる能力を養成と習得した技術を応用するかたちで、消費者や競争市場に関する情報を収集、分析、解釈することを通じて、マーケティング意思決定を支援できるようになることである。最終レポートから判断すると全員が到達目標に達しているとは言えないが、6割程度の学生が、目標を達成できて言えると判断している。しかし、アンケート調査の結果、「この授業の到達目標を理解することができましたか。」という設問だけが、3点台であり、もう少し丁寧に到達目標を説明すべきであったと反省している。その他の項目については、4点以上であり、全体評価（設問14）は4.24であるのである程度は評価されていると認識できた。時期以降に向けての改善点については、授業中にExcelやSPSSを使用したのだが、演習する際の例題が少なく理解が乏しい学生が散見されたため、さらに演習を増やしていきたい。

経営学部 経営学科
澤井　実　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(総合商社論)
授業コード　42F01-001
教員名　澤井　実
教員コード　103270
登録人数　117
回答数　19
回答率　16.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は2年連続のオンライン授業となった。本授業の目標は、（1）日本に何故総合商社という独特の業態が誕生したのか、（2）製造業の成長にともなう「商社・冬の時代」を総合商社はいかにして克服してきたのか、（3）急拡大する中国経済と総合商社の関りの3点を理解することであった。アンケート結果からするかぎり到達程度はほぼ平均水準であったと思われる。

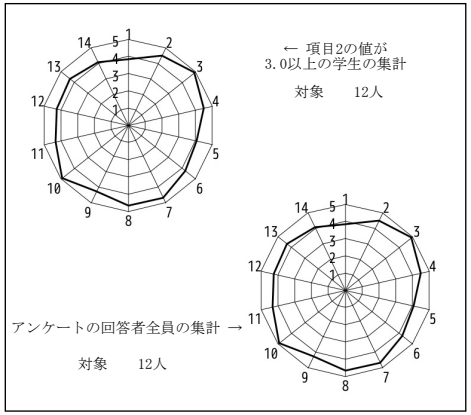
質問の機会が良く確保されていたかとの問いに対する回答が低水準であることが気にかかる。Webclassを通した質問では10名弱の学生から頻繁によい質問が寄せられ手ごたえを感じていたので、この回答結果はやや意外であった。チャットでの質問に答えていると、授業の流れが分断されることがあり、対応策が悩ましい。

今後の抱負、改善点として、現状を語りながらあくまで歴史的視点を失わないようにしたい。また中国経済成長の意義と限界について、勉強不足を痛感している。省政府と中央政府の関係、海外ビジネスを誘致する際の東南アジア諸国の諸政策との異同等について、今後の授業の改善を図りたい。

経営学部 経営学科
高田　一樹　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　職業指導
授業コード　42F09-001
教員名　高田　一樹
教員コード　102887
登録人数　67
回答数　12
回答率　17.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



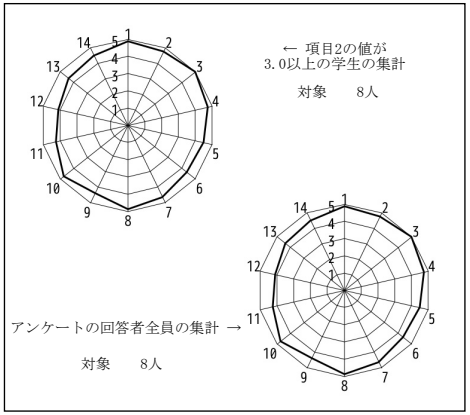
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 高等学校教職課程（商業科）の必修科目である。高校生のキャリアを指導する教員志望者を対象としつつも、例年、教職履修者は限られる。そのため卒業後の人生設計に興味を持てるよう、キャリアに関する多様な考えかたの修得を開講目標の1つに掲げた。昨年度までの反省を踏まえ、開講計画や進行方法を子細に説明した結果、受講者の履修意欲をある程度高く保つことができ、全体的な目標の達成度は良好だったと考えている。
② 過年度との比較において全体的に授業評価の数値に低調であった。一因として回答者数の少なさとともに、回答する動機が考えられる。自由記述欄では「講義レジュメがとっても詳しく細かく書かれている」「大学に入って一番努力した科目であり、一番勉強になった」「資料が豊富で、理解しやすくなっていた点」と肯定評価がある半面、数値評価で極端に低評価を付した回答が見られた。本講義に強い関心を示した受講者とその対極に位置していた受講者とが今回のアンケートに積極的に回答し、多数の受講者は回答に応じなかったことが推測される。
③ オンライン開講に配慮し過年度よりも課題量を減らした。しかしながら自由記述欄を見ると少なからぬ受講者に負担を感じさせたことが伺われた。課題の分量や設問内容を今後検討したい。また、アンケートへの回答を口頭と文書でたびたび求めたものの、回答率が伸び悩んだ。引き続き回答率向上への工夫を検討したい。

経営学部 経営学科
BIERI, Thomas　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語Iリーディング1
授業コード	42G02-001
教員名	BIERI, Thomas
教員コード	102517
登録人数	25
回答数	8
回答率	32.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



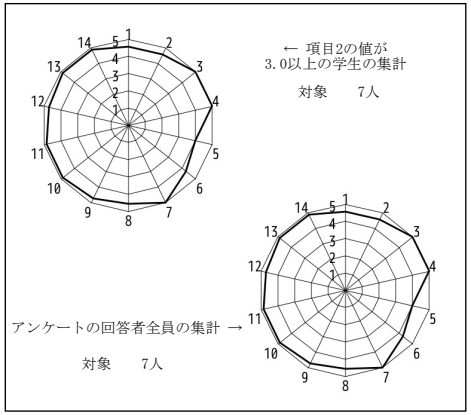
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. All but one student reached the minimum, and 18 of 25 exceeded the maximum, reading target. Most students met vocabulary learning goals. 20 of 25 students met or exceeded overall achievement goals for the whole course. In spite of the challenge of changing modes of delivery during the quarter and numerous challenges with delivering effective lessons under the coronavirus-related restrictions, overall achievement was high.
2. Only 8 students responded to this survey. However, a final reflection was a required part of this course and I had further data from that. For this survey, my scores were all above departmental averages. Items 11 and 12 represented my lowest scores, and 4.25 and 4.13 respectively. The very restrictive nature of the face-to-face lessons in this quarter made it exceedingly difficult to provide individualized assistance and opportunities for questions and for peer-supported, cooperative learning and practice activities that normally take place. In spite of that, learners were generally satisfied and feel they have made progress.
3. More time for vocabulary preview/review and text exercises (requested by students). More pair and group activities by using Zoom.

経営学部 経営学科
KHONDAKER, Rahman M.　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	International Management A＜国際科目群＞
授業コード	42G17-901
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	10
回答数	7
回答率	70.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



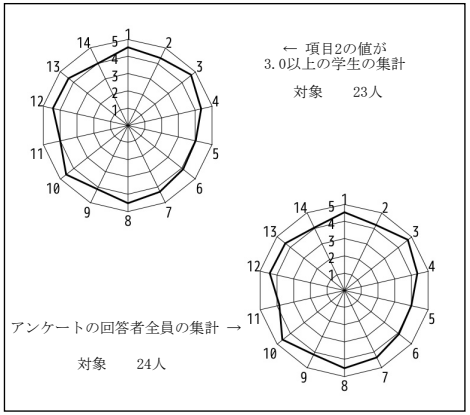
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course, among others, is to help students understand a range of complex factors that underlie operation and management in any multinational enterprise. As planned, I took fourteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.20 and 4.14 for the courses in the band of 42001～42H04-999, the scores of this course were 4.57 and 4.57. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.74, 4.45, 4.09, 4.02, and 4.54 for all courses, the scores for this course were 5.00, 5.00, 4.00, 4.29, and 5.00. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.60, 4.34, 4.70, 4.15, and 4.36 for all courses, the scores of this course were 4.57, 4.71, 4.86, 4.86, and 4.71. Regarding “overall evaluation” (Q13 to Q14), compared with scores 4.31 and 4.25 for all courses, the scores of this course were 4.86 and 4.86. It appears that compared with the other courses in this band, the evaluation of this course was very high. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students did make any comments. At this moment, it seems to me that the course contents, study materials, and class delivering styles are very sound. I would like to introduce some new features in most of these areas. Finally, I am eagerly looking forward to delivering more effective lessons in the coming year.

経営学部 経営学科
白木　俊彦　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　商業簿記中級I
授業コード　42H01-001
教員名　白木　俊彦
教員コード　101090
登録人数　27
回答数　24
回答率　88.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



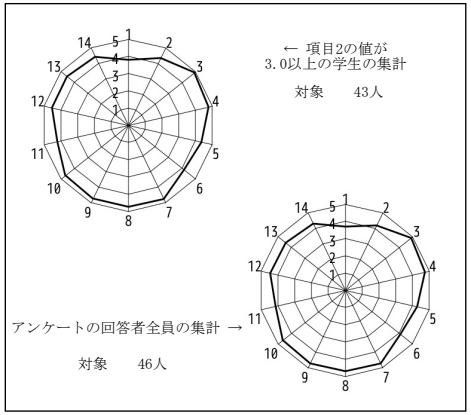
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、会計原理I、IIの理解を基礎として、商業簿記の理論的・技術的構造につき、中級程度の範囲で資格試験に合格できるレベルの実力をつけることを目標とした。対面およびオンライン授業による講義、演習、試験となり、すべて対面授業のようには講義進行は難しかった。参加開始時間は守られていたが、内容の理解については、講義ごとの質問、感想などを提出させ、各講義内容の理解を確認しつつ進めた。授業評価結果においても、その点は評価されており、自由記述の回答においても、質問内容について丁寧な解説であったという評価もみられ、対面授業よりもむしろ各自の質問に回答できたように感じられた。試験結果からみると、十分な成果を得られていないように思われるが、パソコン操作による時間がとられていたことも配慮する必要があるかもしれない。
全体の数値評価は比較的良かったと思うが、全体の平均値からすると改善の余地がある。
今後の課題としては、簿記のような技術を習得する内容は、各自が演習を繰り返すことが要求されることから、理解できる仕訳についてはオンライン授業も効果があると考えるが、理解が難しい仕訳の場合の説明では、対面による解説が望ましいと思われた。

法学部 法律学科
MERE, Winibaldus　Stefanus　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[FB・FF・FG]1
授業コード　10A01-004
教員名　MERE, Winibaldus　Stefanus
教員コード　101180
登録人数　135
回答数　46
回答率　34.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The goal and its results
The overall course had been carried out according to the set-up goal that was to allow the students to have general knowledge about world religions and to have a proper understanding about their meaning and roles in the world. All the topics were covered according to the schedule in the syllabus.

(2) Overall assessment and self-evaluation
From the numerical data and comments from the students it can be said the course had been carried out in a meaningful way and contribute to the broader knowledge of the students about world religions. This also can be seen from students reaction paper at the end of each classes. Most students knew that there are many religions in the world, but they did not know what are those religions about. By the end of the courses, as can be seen from their final report (examination), their knowledge about religions had been broadened and this may help them to understand and cope with people from different religions.

(3) Necessary improvement forward
Due to Covid-19 pandemic, no much interactions and discussions was carries out. Hopefully this can be done during the next quarters.

法学部 法律学科
ALVA, Reginald　Joaquim　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	倫理学<国際科目群>
授業コード	12A09-901
教員名	ALVA, Reginald　Joaquim
教員コード	102369
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

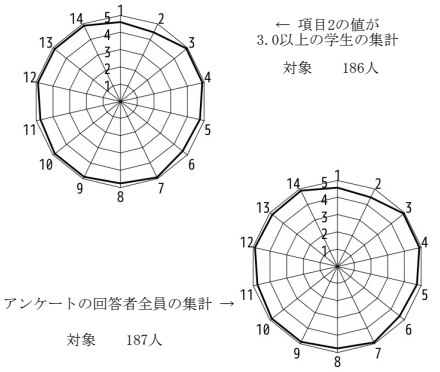
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、倫理学国際科目群の授業をまずハイブリッド形式でやり、後にオンライン形式でやらせていただきました。学生たちの意欲を引き出せるためにに授業の内容を分かりやすく説明し、また学生たちが授業の内容について自ずと考えるように工夫いたしました。その結果、学生たちは内容をよりよく理解できたと思います。。以下の学生たちのコメントからも同様な印象を得られると思います。「先生が生徒一人一人に丁寧に対応してくださいました。授業の進行速度も、生徒の理解度に合わせてくれてとても有難かったです。」キリスト教のコンセプトを一から説明して頂いたため、キリスト教を学んだことがなかった私でも理解を深めることができた。」「I liked how we each took turns and read the paper, also sharing what we understood because it made us think twice. The participation of all students were high standard.」

法学部 法律学科
森山　花鈴　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生命と倫理問題2
授業コード	13A03-002
教員名	森山　花鈴
教員コード	103223
登録人数	444
回答数	187
回答率	42.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



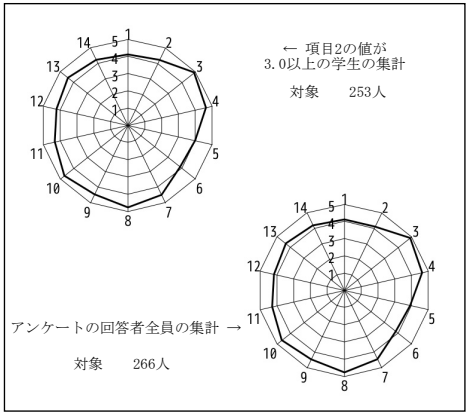
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標については到達していると考える。生命と倫理問題について、学生自身が深く学び、考えていることが授業中のチャット、オンラインでのリアクションペーパー、最終課題から確認することができた。
②評価については、大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値をすべての設問で超えることができた。自由記述欄では、良かった点として、レジュメの内容に関する評価や、課題の量や授業内容についても「課題の量が丁度良いぐらいだった。動画や図などもたくさん使われていてとても分かりやすかった。」等の意見があがっていた。
受講人数が多く、オンライン授業だったものの、チャットやウェブクラスを通じた質問受付により、「授業に対する質問がしやすい環境があり、その解答もタイムリーに行ってもらえるため授業に関して困ることがなかった」等の評価も多くあった。また、録画も用意していたので、「生徒の忙しさを考慮して授業を録画しておいてくれたりと、生徒への配慮が十分に感じられた」との評価もあった。
なお、インターネット環境には注意し、授業については大学のネット環境で配信をしていたため、学生側のネット環境以外にオンライン授業の際の授業環境への不都合な点は特になかったようであるが、一度だけ大学自体の無線LAN環境が悪化することがあった。全体的には「オンライン授業の不安点について真剣に対応していた」点への評価も高かった。
③質疑応答の時間をしっかりと設けることについては毎回評価が高いので、次クォーター以降も形式を検討しながら引き続き実施していきたい。

法学部 法律学科
小原　将照　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　裁判法
授業コード　44A12-001
教員名　小原　将照
教員コード　102897
登録人数　292
回答数　266
回答率　91.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定している目標について、本年度はメイン教室とサブ教室に分けたこともあって、十分に達成できたのか不安な点がある。ただ、昨年のように完全オンラインでない分、学生の満足度や理解度は、かなり上昇している手応えがある。その意味では、目標への到達度は、様々な環境を考えると及第点に達していると思われる。

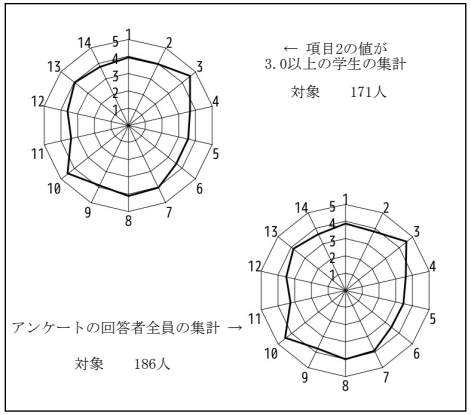
例年、自由記述で肯定的な評価が多く、ありがたいと思うが、他方で、改善点も少なくない点が挙げられている。ただ、それらの改善点を修正したとしても、同時に別の問題点が発生するだけの指摘が多い。これらを改善するかどうかというより、授業自体の方針について学生にしっかり理解させる方が大切ではないかと考える。

今後については、現在の授業形態を継続するかどうか、微妙な状況であるように思われる。一部の学生から、「威圧的」「煽る発言」をやめて欲しい、という自由記述が見受けられる。催眠音波を出しているような退屈な授業を淡々と続ける方がよいのであればそちらに切り替える。だが、それが多数意見とは思われず、むしろ少数意見である印象を持っている。学生全体にどのような方針で授業を実施するのか、現在の形態を維持すべきかどうか再考するタイミングかもしれない。

法学部 法律学科
副田　隆重　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民法総則
授業コード　44A21-001
教員名　副田　隆重
教員コード　045880
登録人数　299
回答数　186
回答率　62.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



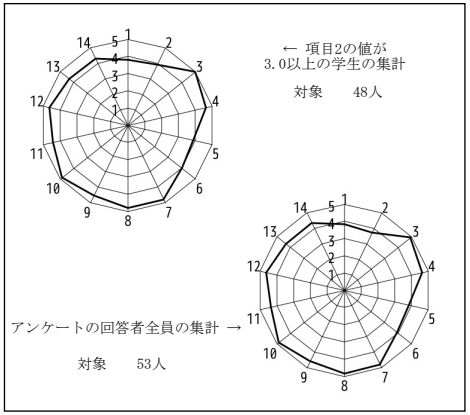
授業評価結果を踏まえた点検・評価

平均値の数字が示される14項目の全体の平均値が3.79であり、必ずしも満足のいくものとはならなかった。最も高い評価を受けた項目は授業開始・終了時間の順守（項目3の4.53）であり、一方、低評価は項目11（3.26/積極的な授業参加・自主学習を促すための指導や情報提供）であった。個別意見では、レジメがわかりやすいことゃ、授業開始時にまとめて配布された点、具体的な事例が多用されていてイメージがとらえやすかったこと、レジメに沿って丁寧に授業が進行した点などが好評価をうけた。半面で、全体の進行が遅い、話が淡々と単調である、声が聞き取りにくい等々の意見も少なくなかった。進行速度については、盛り込みすぎの講義にありがちな早口になることを回避し、丁寧にゆっくり進めたためか時間が足りなくなってしまったこと、民法総則は、従来は民法総則Aと同Bの計4単位であったものを、今回から4単位分の内容は維持しつつ２単位としたこともあり、もともと時間が足りないものであった。この点についての担当者の配慮が行き届かなかった点は否定できない。以上の点を含め、必要な改善に努めたい。

法学部 法律学科
洪　恵子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際法総論A
授業コード　44B13-001
教員名　洪　恵子
教員コード　103537
登録人数　130
回答数　53
回答率　40.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



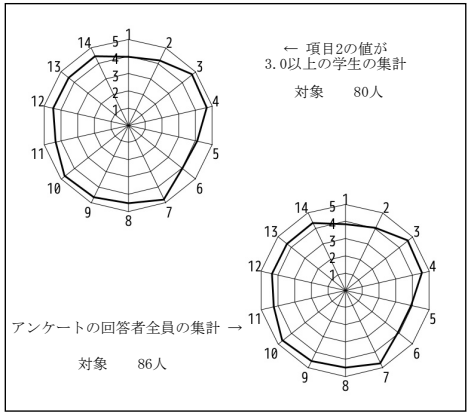
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回のアンケートの回答数が53と受講生のほぼ半数となり、回答数に大幅な改善が見られた。
①について多くの受講生から積極的な回答があった。②オンライン講義も２年目となり、受講生と私の双方が良い意味で慣れてきたように思う。自由記述欄の改善してほしいことについても、以前は（匿名性を利用した）授業への単なる文句や罵詈雑言が見られたが、今回はほぼ授業の進め方への意見であり、受講生が授業によく集中していたことがわかった。
③学生の関心を促すために毎回時事問題を取り上げたが、非常に好評だった。これまでの対面授業でも時事問題を取り上げていたが、オンライン授業だったので、ニュースの画面や資料を豊富に提示することができた。大教室の授業（講義）では私語の問題が深刻だが、オンライン授業ではそれに煩わされることなく、多くの受講生が集中して学習できたことが見て取れ、それがアンケートの結果につながったと思う。100名を超える「講義」科目について、（コロナ感染症拡大が収束しても）オンライン授業をより適切な授業方法として残すべきか議論すべきと思う。

法学部 法律学科
王　冷然　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　不法行為法
授業コード　44B19-001
教員名　王　冷然
教員コード　103577
登録人数　256
回答数　86
回答率　33.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



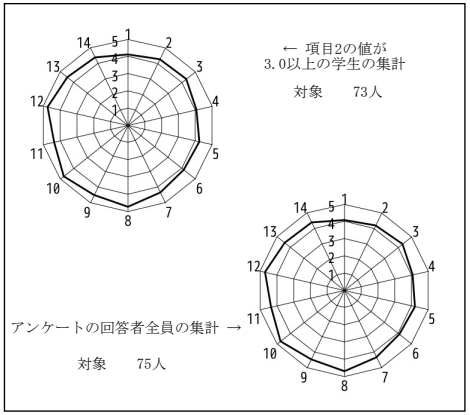
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果と定期試験の成績から見ますと、「不法行為、不当利得、事務管理に関する制度趣旨、要件、効果を理解することと、具体的な法律問題について、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと」という当初設定していた目標はおおよそ到達したと思われます。
設問項目1から14の平均値と項目３から14の平均値はすべて法律学科全体より高く、「項目7（担当教員の授業に取り込む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」）は4.71、項目4（毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか）は4.56という数字や、「説明やレジュメが分かりやすい」などの多数の自由記述から見ますと、当該講義は学生に評価され、一定の効果が得られた思われます。ただ、授業の途中、緊急事態宣言が出されたことにより、１回分の講義が余儀なく休講された関係で、練習問題に関するフィードバックを行う時間が十分とれませんでした。このことについて、自由記述の中に学生さんに指摘されました。
今後、当該科目を担当する場合、今までの工夫と努力を維持しつつ、練習問題のフィードバックを充実するように心掛けます。

法学部 法律学科
家田　崇　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　企業法総論
授業コード　44B22-001
教員名　家田　崇
教員コード　102459
登録人数　242
回答数　75
回答率　31.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



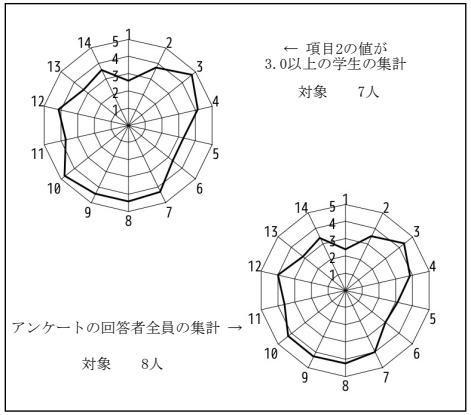
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね良好な評価となったが、個別の事象を検証して、今後改善していく点を追求していくとともに、今回寄せられた数値データおよび自由記述等を踏まえて、概ね良好な評価となった結果から、今後より望ましい評価が得られるよう新たな手法をどのように展開されるかなどについてなど、次クォーター・学期以降に向けて今学期に導入した新たな教育手法などを踏まえて総合的多角的に検証していきたい、今学期に得られた評価からさらに数値データおよび自由記述等を踏まえて多角的な視野から総合的な検証を実施し、飛躍的な効果が得られる教育手法の導入を次クォーター・学期以降に向けて具体的に実施することによってプラン・ドゥ・チェック・アクションのいわゆるＰＤＣＡサークルを構築し次クォーター・学期以降に向けての開講当初に設定していた目標を遥かに超える結果が得られるように邁進するように努めていきたい。

法学部 法律学科
田中　実　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　西洋法史A
授業コード　44B35-001
教員名　田中　実
教員コード　017038
登録人数　38
回答数　8
回答率　21.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



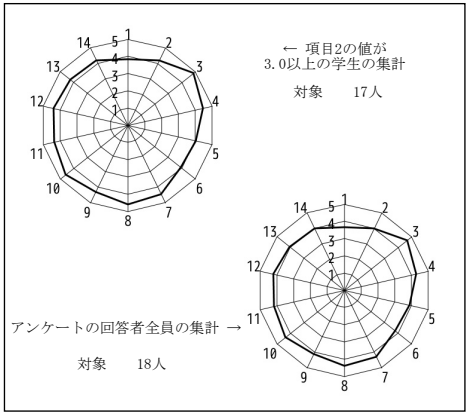
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、対面とZoomの併用授業、その後のZoomのみの授業と、形態の変更を余儀なくされたことに加え、機器の扱いの不手際、不具合などで事務の方にご迷惑をおかけし、その間、受講生を待たせることになり、申し訳なく思っている。また、ほとんどの学生が2年次生であり、例年になく受講生が少なく、しかも急な傾斜の階段教室であったことなど、変則的な対応に追われた。法学部の講義科目としては、特殊な歴史の科目であり、一定の関心を持つ学生を念頭に講義をしているが、最初の設問1の数値が低く、受講のあり方を分析を行い、対応したいと考える。授業参加については、従来型の大学講義スタイルを基本としているが、この点、工夫を試みたい。新しい知識を得たかにつき、評価が低いのは、高校までに触れる機会のない内容のはずで、回答の趣旨を分析したい。自由記述につき、板書の少なさの指摘を受けた。併用となり、板書を従来よりも控えたこともあり、反省材料である。実定法に結びつく議論につき、配付資料に道筋を付けたものの、当該科目や自習を促すのみのことが多く、この点も反省材料である。筆記試験に変えるレポート試験となったが、概ねよく書けている答案が多く、この点は安心している。

法学部 法律学科
西村　邦行　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治思想史A
授業コード　44B44-001
教員名　西村　邦行
教員コード　104090
登録人数　73
回答数　18
回答率　24.7%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

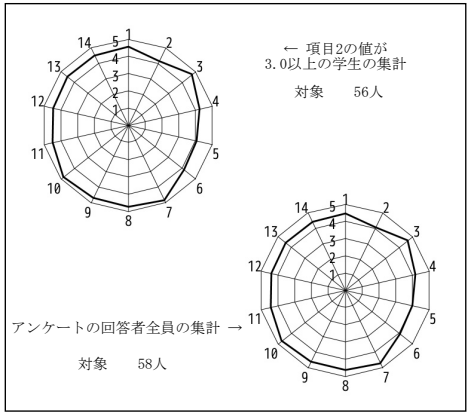
政治思想史Aでの授業評価アンケートは今回が初めてだったが，受講生の方で際立って問題を感じるような項目がなかったようでほっとしている。ただ，他の授業でも見られる傾向だが，到達目標についての理解とその達成度合いに対する実感が他の項目に比べて低めとなっているので，今後はより丁寧な説明を試みるとともに，授業の中でもどの内容がどのような形で到達目標に対応しているのか，自分自身でも意識しながら授業全体の構成を見直すなどしたい。特に今回，自身でも理解が足りていないように思われた箇所もあったので，そのあたりを改善して，学生の側にもより明確に内容が伝わるようにすれば，評価にも反映されてくるのではないかと期待している。

なお，今学期も昨年度と引き続きオンライン授業の形で行ったが，この形だと学生も動画で復習をしやすく，またこちらも学生からの疑問を集約しやすいとも感じている。対面形式がよいのかオンライン形式がよいのかは，授業の趣旨や内容によって変わるとも思われ，また，昨年度2Qに関する報告でもオンライン授業により評価内容が向上している点が触れられていたため，感染症の今後の状況に拘わらず，有効な授業形式のひとつとして恒常的に取り入れていく可能性を大学本部には望みたい。他方，授業評価アンケートに関しては，授業中にZoomの画面と並べてアンケート画面を開くよう要求することもし辛く，回収率を上げる方法をこちらで模索する必要があるとは感じている。

法学部 法律学科
水留　正流　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　刑法各論A
授業コード　44B90-001
教員名　水留　正流
教員コード　101566
登録人数　101
回答数　58
回答率　57.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．本科目の到達目標は、個人的法益に対する罪につきその成立要件を理解できるようになることにあった。一般的な講義形式に加えて、今年度から刑法各論の授業でも任意の事前課題を提示し、寄せられた解答例に授業内で言及することを試みた。また、2年生にとって初めての大教室対面講義の機会でもあり、授業内で学生同士が話し合う機会を例年以上に設けた。自由記述をみると、これらはおおむね好意的に評価されたものと考えている。

２．評価結果は全項目平均で4.41点であり、一応は満足できる結果になった。ただし、回収率が5割を切ってしまった（45.4%）のは残念である。

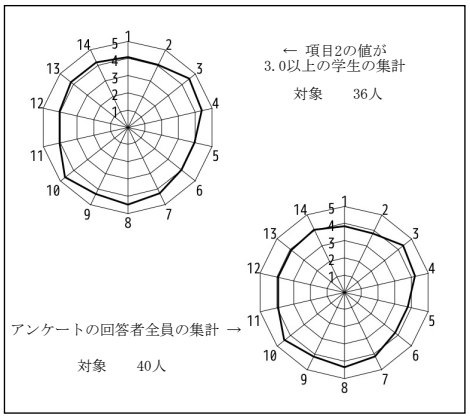
本科目の受講者数は100人強にとどまった。とりわけ、法学部2年生のうち本科目の履修者は約3割にとどまった。本科目は法律基本科目の一翼をなし、一般的に言えば法学部生の多くが履修することが望まれるため、この点はかなり残念な結果である。結果として最初から受講意欲の高い学生のみを対象にこの授業が展開されたことになるので、アンケートでの高い数値を単純に喜ぶことはできない。

３．したがって、来年度に向けて、学生に系統だった学修の意義を1年生のうちから伝え、法律基本科目の履修への学生の意欲を盛り立てていくことが重要になる。とりわけ、担当者がQ3/Q4で実施する「刑法総論」では法学部1年生全員が履修することから、そうした場も用いてこのメッセージを伝えていきたい。

法学部 法律学科
佐藤　勤　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　会社法（設立・株式）
授業コード　44F07-001
教員名　佐藤　勤
教員コード　101599
登録人数　108
回答数　40
回答率　37.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、項目番号６の評点が3.78と全質問中最低の評点となったこと、および評点分布においても、4点が16人、40%であることから、次年度以降、改善すべき点であったと反省している。ただし、学生側の取り組みスタンスについても、項目番号１および２が3.85、3.75と項目番号の評点と同程度であったことから、学生側の取り組みスタンスの改善も望まれるところである。

数値データおよび自由記述欄を踏まえた本講義の総合的な評価については、本講義の平均的な出席率に見合った単位修得率（C評価以上の成績を得た学生÷履修登録者数）であり、また好成績を得た学生（A評価以上）は例年より多かったことから、当初の設定した目標については、定量的には達成したものと考えている。

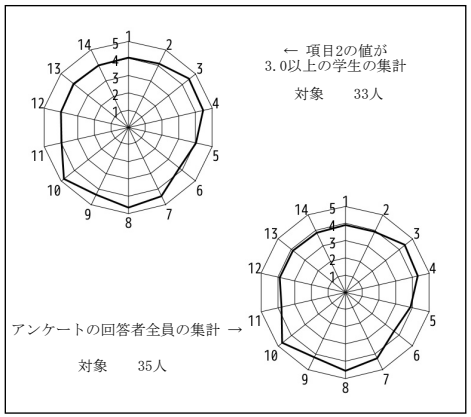
なお、最終の試験において、問題の字句訂正が試験時間中に数件見つかったことについては、学生からの指摘もあり、次回の講義には、より慎重な点検を行い、ミスのない試験実施を行うこととする。

また、本講義の内容は、手続的な事項も多く、かつ範囲も多岐にわたることから、授業の進め方については、限られた時間内ではあるが、更なる工夫が必要であることを認識し、授業改善に取り組みたい。

総合政策学部 総合政策学科
井上　洋　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済と人間の尊厳6
授業コード　10D04-006
教員名　井上　洋
教員コード　100177
登録人数　112
回答数　35
回答率　31.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



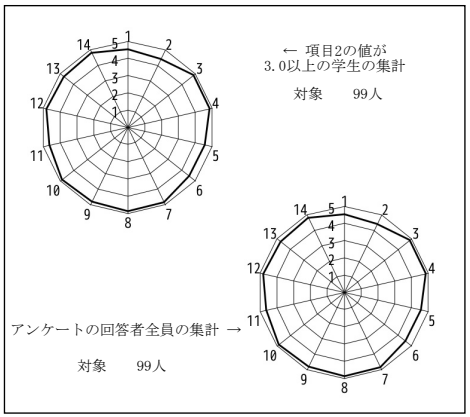
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度はズームを使った授業であった。大教室のときに比べると、授業に正対しようとする者が、授業を単位取得に矮小化する者の妨害を受けにくいという点ではかなり大きなメリットがあることを感じている。政治経済と人間の尊厳6では、人間の尊厳を獲得するための原動力であるところの社会運動を、アパルトヘイト、公民権運動、新自由主義的失業政策に対抗する労働運動に例を取り、それぞれ映像資料を使用してイメージをつかめるように工夫した。今レポートの採点を終えて顧みるに、わたしの希望するインパクトとはたいへんかけ離れたものしか彼らには伝わっていないと感じる。授業に正対し、何らかのメッセージとインパクトを受け取ったのは、多く見て1割というところだと思う。残念な数字であるが、授業者と受講生の問題意識の隔たりを表す数字として受け止めたい。これをどう改善していけるかはむずかしい。受験から大学での授業まで、求められている答えをいかに答案に書くかのスキルを競うのが勉強であるという、学習イメージを内面化している本学のほとんどの学生に対しては、話や映像を見てはっとすること、えっと思うこと、そこから考えること、それを自分につなげて受けとめること、そのようななかで今までもたなかった言葉と文章を獲得することこそが真の勉強だという主張などは、それを捉える枠組みのないことから、素通りされてしまうものであるように感じている。とはいっても、話すべきことと、話をする態度は、これ以外にはないから、1割であっても聞く感性を持った者の存在を信じて語り続けていきたいと思う。

総合政策学部 総合政策学科
三輪　まどか　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法学A2
授業コード	12C01-002
教員名	三輪　まどか
教員コード	102263
登録人数	227
回答数	99
回答率	43.6%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に予定していた目標達成度については、全体評価で4.58とやや低かったため、何度か目標の確認が必要なのかと思われる。しかしながら、自由記述欄を見ると、本授業が目的としている「大学生に必要な法的知識を身につけること」や「法学が実生活に身近であると認識すること」が十分に達せられた学生もいることもわかり、いかに多くの学生の皆さんに認識してもらえるかを意識して、講義に臨む必要があるように感じた。

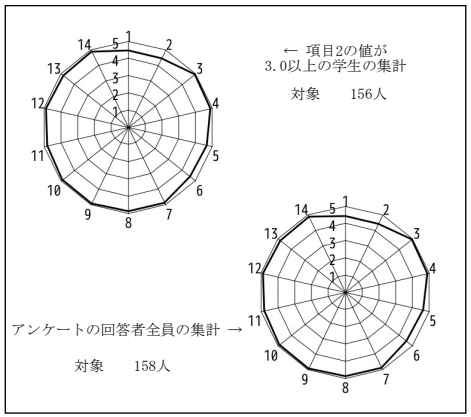
全体の満足度に眼を向けてみると、回答数はやや少ないものの（回答率は50%弱程度と思われる）4.81と高評価を得ており、これもひとえに学生の皆さんのご協力によるものと思われ、感謝している。自由記述欄でも、スライドの見やすさ・わかりやすさ、毎回の振り返り問題の設定、事前の資料のアップロードなど、授業準備や配慮について、目を向ける記述も多く、こうした地道な準備や配慮が学生の皆さんにとって良かったのだと思われる。また、授業中もできる限り質問時間を設けるとともに、「双方向」を意識した授業運営を行ったことが、この評価につながったものと思われる。

今後は、自由記述内での要望、テストの難易度やレポート・記述式の問題の中の記述の紹介など、学生同士の交流ができるような工夫にも取り組みたいと思う。加えて、「顔出し」についての要望があったが、合理的はそれを授業の前提（ルール）とした教務よりなされるべきであり、学生に対してもう少し丁寧に説明をしてくださるよう、私からも要望したい。

総合政策学部 総合政策学科
狭間　諒多朗　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会学概論
授業コード	46D07-001
教員名	狭間　諒多朗
教員コード	104124
登録人数	288
回答数	158
回答率	54.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「①わたしたちの身近な問題を、社会学の視点から考察し、批判的に捉える力を身につける」「②課題を通して、事象について適切な根拠づけや理屈だて（論証）ができるようになる」の2つの到達目標を掲げている。①については、家族や労働、教育といった様々なトピックについて社会学的な見方を紹介することができ、受講生の理解も進んだと考えている。②については、各トピックについての統計データなども見せながら解説することを心掛け、こちらも受講生はきちんと理解できていたように感じている。

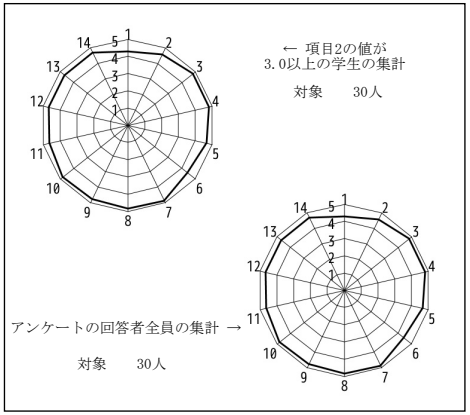
本授業では準備を入念に行ってから授業に臨むことを心掛けた。その結果、項目番号9の平均値が4.92となっており、非常に高い評価を得ている。また、チャット機能を用いた受講生からの質問時間を設けたほか、毎授業後の小課題について必ず次の授業で解説するようにした結果、項目番号12の平均値が4.91とこちらも極めて高い評価になっている。これらの工夫が全体的な満足度の向上につながったと考えている。（項目番号14の平均値は4.87）。

一方で、自由回答をみると、受講生からの質問に答える時間が長いという意見も数件あった。今後は、要点を絞って質問に答えるようにしていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
O’CONNELL, Sean　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策英語I1
授業コード　46F01-001
教員名　O’CONNELL, Sean
教員コード　100448
登録人数　38
回答数　30
回答率　78.9%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



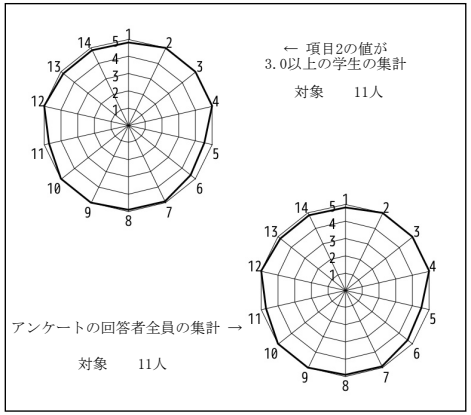
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goal of this course was to expose students to a range of key international, public and environmental policies established in Japan and what they mean to people residing in Japan. Students read texts and conducted pair and mini-group discussions related to the topics covered. They also gave two individual presentations on topics related to foreign and public policy during the quarter. The learning goals sought to enhance their reading comprehension, discussion and presentation skills in English.
The overall average score of 4.68 suggests that the goals were met and that students were satisfied with the content and the way in which the class was conducted. Some students mentioned that they would live more pair and mini-group discussions in smaller chunks. This is something that I will work on in the future. Students were positive in their approach to the class which made it a delight to teach.

総合政策学部 総合政策学科
原田　直枝　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策中国語I1
授業コード　46F04-001
教員名　原田　直枝
教員コード　018754
登録人数　17
回答数　11
回答率　64.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　この科目は、総合政策学的アプローチの視野を広め、政策実践、プロジェクト研究の成果を深めるための中国語運用力の養成をめざして、
1年次共通教育科目の中国語（選択必修外国語科目）で習得した中国語の基礎力をもとに、総合政策に関連のある時事的な情報を収集・分析し、さらには発信するレベルに向かうために必要な、中国語の運用スキルを学習する目標を掲げて行なった。授業内の学生たちの取り組み、小テスト、期末テストにおいて、2年次にⅠからⅢまである科目の第1段階としての到達が認められる。②　評価項目の反応、自由記述欄いずれからも、1年次にオンラインのみで初習外国語に取り組むというおそらく初めての経験をした学生たちにとって、この科目で対面式の中国語学習が体験できたことは少なからぬ喜びだったことが窺われる。担当者としては、せっかくの対面式でもあるので、オンラインでは手が及びにくかったかもしれない説明を意識的に加えるなど工夫したが、ある程度、歓迎されていたようで嬉しい。③　後続科目Ⅱ、Ⅲでは、さらに充実した学習内容を提供できるように準備し、授業の場では学生たちの反応に留意して、「中国語で社会科学的な話題に取り組む」力が養成できるようにしたい。

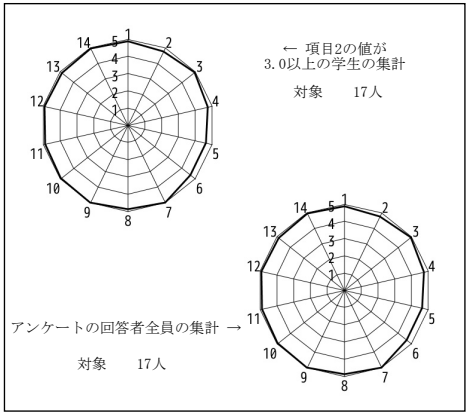
【授業概要】
この授業は講義・演習形式で行なわれる。

【到達目標】
1. 中国語によるコミュニケーション実践に必要な語法・会話の運用力を発展させる。
2. 時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する。
3. 現代中国の諸事情に関する初歩的話題の中国語文献を処理することができる。

総合政策学部 総合政策学科
梁　暁虹　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策中国語I2
授業コード	46F04-002
教員名	梁　暁虹
教員コード	045229
登録人数	17
回答数	17
回答率	100.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

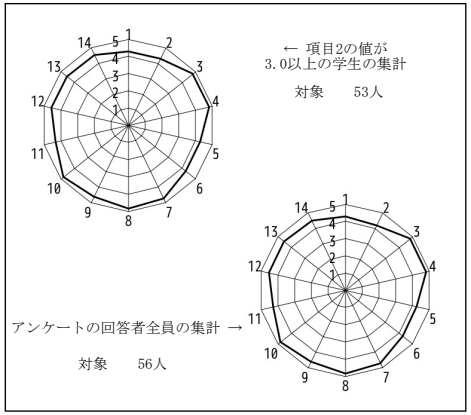
「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1～14の平均値は4.87、設問3～14の平均値は4.87、設問3、10、12、14は4.94、設問７、9は、5.00、とかなり高い点であり、学習者及び授業担当者双方の満足感が窺えよう。

学生の自由記述項目15では、「ペースがゆっくりだったので、しっかりと内容を理解することが出来た。」「授業内容がわかりやすく、進行具合もちょうどいい速度だった。質問などもすぐに答えてくれたところがよかったと思う。」、「先生がとても私たちのことを気にかけて分からないことを分かるまで説明してくれました。発音も間違えていたらすぐに直してくれて一緒に発音してくれたので、正しい発音が身についたと思います。」「わからない問題やつまずいた問題で、先生が理解するまで細かく説明し教えてくださったので、とても理解が深まりましたし、授業に対する不安が消えました。」等のよい評価があった一方、教師として改善の余地がないわけではない。学生の自由記述項目16では「中国の方という事は分かっていますが、分かりにくい説明が時々ありました」の評価もあった。そのため、今後どのようにしたら、学生に分かりやすく中国について説明できるような工夫をする必要があると考えている。

総合政策学部 総合政策学科
金綱　基志　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代企業論
授業コード	46K03-001
教員名	金綱　基志
教員コード	102923
登録人数	127
回答数	56
回答率	44.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



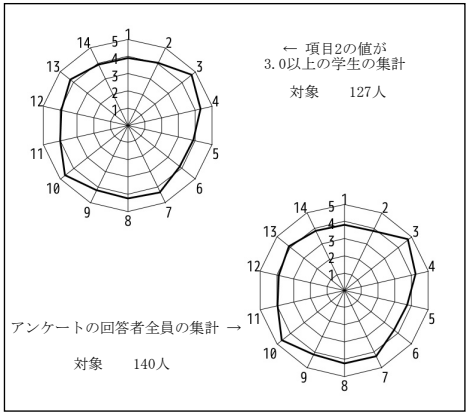
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均値が4.53、項目3から14の平均値が4.58であり、全体の平均値、総合政策学部の平均値、科目登録者数別集計の平均値を上回っている。また、項目3から項目14までのすべての平均値が、総合政策学部の平均値を上回っている。授業の進行速度、授業の聞き取りやすさ、授業に取り組む姿勢が特に高く評価されている。授業開始時に前回の復習を行い、授業の最期に授業内容の振り返りを行っているが、このことで理解が深められたとの回答が目立った。授業が一方向にならないように、エクササイズの時間を設けて学生に問いかけを行い、回答をチャットで送ってもらっている。このことの評価も高かった。こうした点は、これからも継続していきたいと考えている。具体的な事例を多く紹介することで理解しやすくなったとの回答もあったので、こうした点も改善しながら継続していく予定である。到達目標の理解の平均値がやや低いため、到達目標の周知させる点を改善していきたい。

総合政策学部 総合政策学科
石川　良文　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境行政論
授業コード　46M02-001
教員名　石川　良文
教員コード　100650
登録人数　197
回答数　140
回答率　71.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



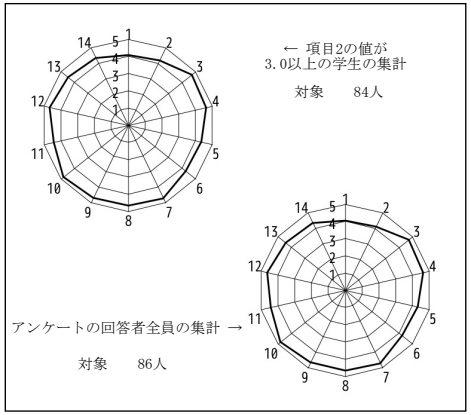
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初は、全ての設問で大学平均を超えることを目標としていたが、残念ながらこれまでの授業評価で最も悪い評価結果でだった。
当初オンラインでの授業として準備をしていたが、学期途中でハイブリッドになり、教室とオンラインのどちらにも集中できない授業運営の仕方に問題があったかもしれない。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データでは芳しくない評価結果だったが、自由意見では「良かった点。評価できる点」に非常に数多くの意見があり、なぜこのような結果になったか分からなかった。ただ設問１「履修前に興味を持っていたか」が3.79とかなり低いため、元々授業に関心ないが履修して最後まで関心が持ってなかったことが影響しているのではないかと思われる。また、回答率を上げるために何度も回答を促し、履修者が200人近いうちの70%と高い回答率だったが、ほとんど授業を聞いていない学生の回答結果が影響しているのではないかと思われる。一方で「改善すべき点」については、最終レポートの課題を出すのが遅い、授業を聞いていないとできない課題を出すのはプレッシャーなどという意見があり、手掛かりになると思う。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業の到達目標の理解と到達度合い、学習意欲を引き出すこと、質問や相談の機会が十分だったかという設問の評価が低いことから、授業の節目節目に到達目標をしっかり明示すると共に、質問や相談の機会を増やすことが必要だと思う。今後はこのようなことに注意して授業を行いたい。

総合政策学部 総合政策学科
前田　洋枝　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境社会学
授業コード　46M03-001
教員名　前田　洋枝
教員コード　102264
登録人数　173
回答数　86
回答率　49.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



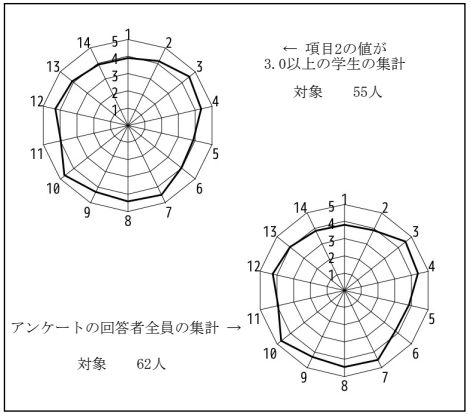
授業評価結果を踏まえた点検・評価

基本的には授業で目標としていた到達目標の内容理解は多くの学生はできたと考えている。
すべての評価項目で平均値は４を超えており、４．５を超えていたのは項目３（開始時間）、項目４（授業の構成や進行速度の適切さ）、項目７（担当教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ、真剣さ）、項目８（教員の声などは聞き取れたか）、項目９（学生の理解度への配慮、教科書、配布資料の効果的な使用）、項目１０（授業の妨げになる行為に対する適切な対処）、項目１２（質問や相談の機会などの十分さ）であった。自由記述においては、この授業の良かった点として、資料のわかりやすさ・身近な例も示しながらの説明の詳しさや丁寧さが多くの学生から挙げられた。授業中にチャットで寄せられる質問への対応が丁寧であったことや、成績評価の一部としていたコメント課題が良い復習になったとの意見も複数の学生から挙げられていた。レポート課題内容を比較的早い時期から提示していたことも肯定的に評価されていた。なお、今年度から１００分授業になったことに関連して、この授業がオンライン授業であったことから学生と教員双方の目の健康に配慮し、授業内容のきりがよいところで５分程度の短い休憩を取るように心がけた点も自由記述でポジティブに評価されていた。これらの工夫についてはQ２以降も継続したい。
　授業での配布資料の一部を穴埋めにしていた点は「大事な点に注意して聞くことができた」と基本的にポジティブに評価されていた。ただ、授業内での書き込み時間の確保については、足りなかったという意見と書き込みをする学生のための待っている時間のために授業の進行を遅く感じる学生の２パターンが自由記述で今後の改善点として挙げられていたため、記入時間は確保しつつ、早めに書き終えた学生にとっては待ち時間と感じさせないような工夫が今後必要と思われた。

総合政策学部 総合政策学科
小尾　美千代　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際政治経済論
授業コード	46N09-001
教員名	小尾　美千代
教員コード	102453
登録人数	193
回答数	62
回答率	32.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



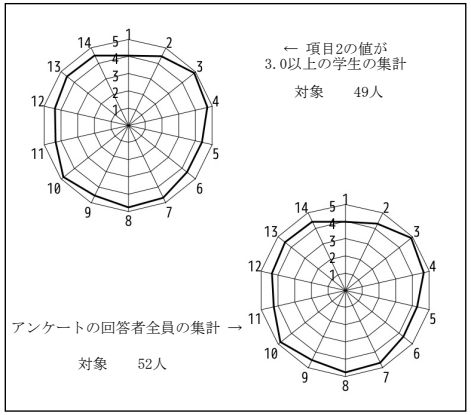
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、(1)経済を中心とする国際社会のグローバル化と国際政治との相互関係について理解していること、(2)国際金融、自由貿易、地域統合、気候変動の諸問題をめぐる国際政治について理解していること、の2点を目標としました。履修登録者193名のうち、回答者は62名で、そのうち、主体的な授業参加と内容理解の努力に関する質問項目２で3.0以上の評価をした学生は55名でした。授業評価については、項目1～14の平均値は4.16（キャンパス全体の平均：4.39、開講主体平均：4.45）であり、項目3～14の平均値は4.22（キャンパス：4.43、開講主体：4.50）でした。ここ数年の結果と比較すると0.2～0.3ポイントほど低い結果でした。ただ、定期試験の結果については平均点は70.0点、単位取得率は受験者の86%でしたので、普段の授業参加度からみても授業目標については概ね到達できたと考えています。
自由記載欄に関しては、パワーポイント資料（表やグラフなど）や説明などが評価されていたので、これらの点については引き続き継続していきたいと思います。また、もう少し早めに資料をアップロードして欲しいとの記述が数件ありました。この点については意識はしているので、できるだけ対応してきたいと思います。

総合政策学部 総合政策学科
星野　昌裕　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治変動論
授業コード	46N10-001
教員名	星野　昌裕
教員コード	101897
登録人数	130
回答数	52
回答率	40.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



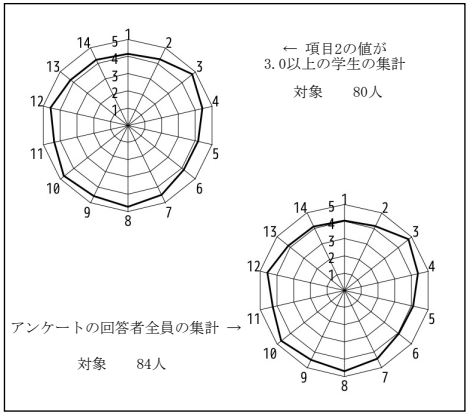
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、東アジアの政治変動を理解するのに必要な政治学の基本概念を説明したうえで、中国の一党支配体制の形成とその変容過程、台湾における権威主義体制の確立と民主化、権威主義体制下における民族問題等を講義した。これらを通じて、地域研究の分析手法、政治学概念の理論と現実、世界各国の政治体制を比較分析する手法を習得することが、開講当初に設定した本授業の目標である。
授業評価をみると、設問3から設問14の平均値が4.54となっている。履修前の興味を問う設問1の平均値が3.96だったことをあわせて考えれば、講義を通じて、政治学や東アジア地域研究に対する興味を深めることができたといえる。
今年度は100名を超える履修者がいたためオンライン授業の準備を進めていたが、2年生の対面授業参加率の関係で対面授業となった。しかしQ1期間中に緊急事態宣言が発出されて以降はオンライン授業となり、授業形態の切り替えが重なった。今回の授業評価は、対面授業とオンライン授業がミックスされているため、それぞれがどのように評価されているか判別できない。また来日できない外国人留学生などハイブリッド型オンライン授業に参加した学生がどのように評価しているかもわからない。だが、自由記述欄のコメントを読む限り、授業形態の切り替えはスムーズにいき、ハイブリッド授業においても講義内容の理解に支障がなかったようである。

総合政策学部 総合政策学科
佐藤　創　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際開発論
授業コード　46N18-001
教員名　佐藤　創
教員コード　103882
登録人数　199
回答数　84
回答率　42.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



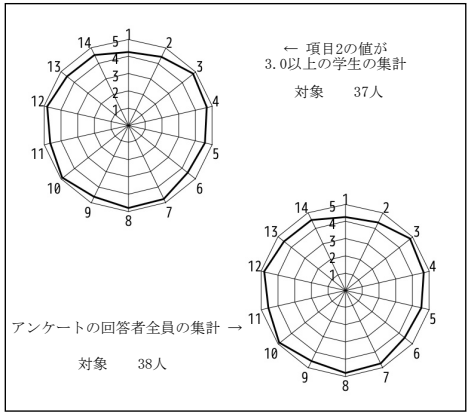
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及びレポートの結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の全体の満足度は4.35であり、登録者数別の集計（120名以上240名未満）4.34、設問3－14の満足度は4.40であり、登録者数別の集計（120名以上240名未満）4.39よりも若干良い結果となっている。
オンライン授業という取り組みのなかで、本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせる方法を採用した。また、通信状況が学生によって異なる可能性を考慮し、おおよそ40分ごとに、見せたスライドを再投影し、短時間の質問時間を設けた。この方式はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。
また、期末試験100%での評価を予定していたが、緊急事態宣言により中止となったために、レポートをこれに代わるものとして課した。基本的に学術論文を読ませて、授業で取り上げたトピックを前提に、議論させる問題とした。出題範囲は限られる形となったが、レポート内容およびアンケート結果・自由記述をみると、テストよりも、手応えのある学習ができたと感じる学生も少なくないように見受けられる。
オンラインによるマスプロ授業としては、穴埋め方式のほかにも集中力を持続させる工夫をもう少し考え、実施してみたいと考えている。オンラインの授業が続く可能性が高く、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」をオンライン授業でも進めるための良い工夫がほかにもないか、引き続き試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

総合政策学部 総合政策学科
藤本　潔　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地球環境論
授業コード　46N20-001
教員名　藤本　潔
教員コード　100100
登録人数　105
回答数　38
回答率　36.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



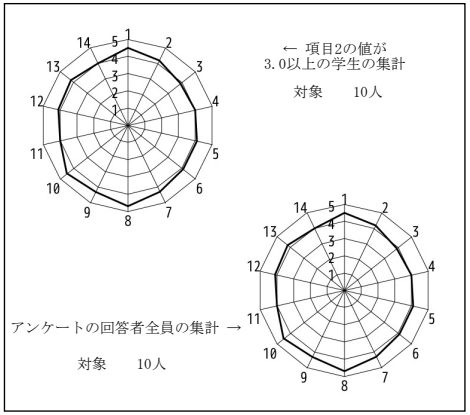
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の授業評価はオンライン授業となり初めて実施された。項目3～14の平均値は4.66で、直近4回の値（2019年4.20、2018年4.40、2017年4.60）と比べて最も高い評価となった。一方受講者数は、2017年243名、2018年440名、2019年310名、2020年191名、今年度105名と減少傾向にある。本科目は主として3年生以上が履修する科目であり、2017年生から導入された３コース制の中で、環境政策および国際政策にコース指定されているため受講者数が減少したものと考えられる。すなわち、上記の授業評価結果の向上傾向は、そもそも地球環境問題に興味関心の強い学生が履修するようになったことがその一因と考えられる。また、オンライン授業となってからは、講義は最初の70分程度で集中して行い、その後に30分程度の時間を確保し、リアクションペーパーを書かせるとともに、質問を受け付ける時間としている。そのため、設問12の値が2019年の4.13から今年度は4.84に大きく向上した。自由記述欄を見ても、この点を評価している学生が多く見られた。学生にとってはチャットであれば気楽に質問できるようであるが、コロナ終息後の対面授業再開に向けて、いかに質問の機会と質問しやすい雰囲気を作り出すかを今のうちに考えておきたい。

総合政策学部 総合政策学科
平岩　俊司　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域研究論
授業コード　46N22-001
教員名　平岩　俊司
教員コード　103613
登録人数　50
回答数　10
回答率　20.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



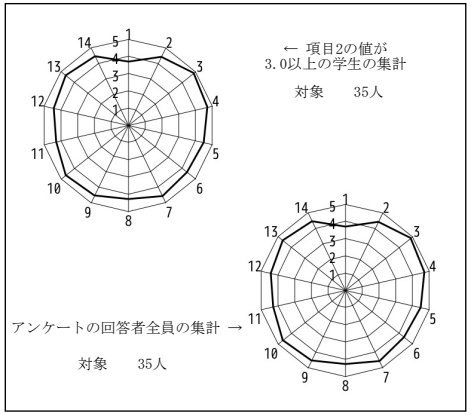
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達ついては、当初、対面で講義が行えたので受講者の理解も一定程度確認しつつ進めることができた。また、当初、オンラインによる受講希望者の申請状況が把握できず（私自身がチェックできていなかった）、混乱があった。新型コロナの感染拡大によって対面テストではなくレポートで対応したが、レポートの内容からは当初の目標と到達については一定程度達成できたと思う。依然として感染症の状況が安定しない状況下、今後、授業形態など柔軟に対応して目標を達成できるよう心がけたい。
②担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてはまだ課題が残されていると考えている。とりわけ、受講生は、具体的な事象については関心を持つものの、そうした事案から一般化しようとする抽象的な議論については丁寧に説明しているが必ずしも十分理解させられていない。受講生に抽象的議論の面白さをいかに実感させるかが今後の課題である。
③今後の抱負、方針については、やはり対面、オンライン、ハイブリッドなどそれぞれの授業形態に応じた手法が必要とされるので、それに対応したい。とりわけ、ハイブリッドについては対面とオンラインの両方を意識しなければならず、どちらかに集中してしまう傾向があるため、バランスよく対応しなければならないと考えている。

理工学部 ソフトウェア工学科
金山　知俊　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[J]2
授業コード　10C01-044
教員名　金山　知俊
教員コード　019455
登録人数　40
回答数　35
回答率　87.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目は情報ネットワークを安全かつ有効に利用するための知識を身につけ、またe-learning、グループディスカッション、発表を通じて理解を深めることを目的としたアクティブラーニング形式の科目である。今年度は授業期間中に新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言が発令されたことにより、予定していた3回の発表のうち1回が休講となり、また対面授業をオンライン授業に変更する必要が生じたが、事前に対策していたことで当初予定していた内容を行うことができ、シラバスの到達目標も達成できたと考える。

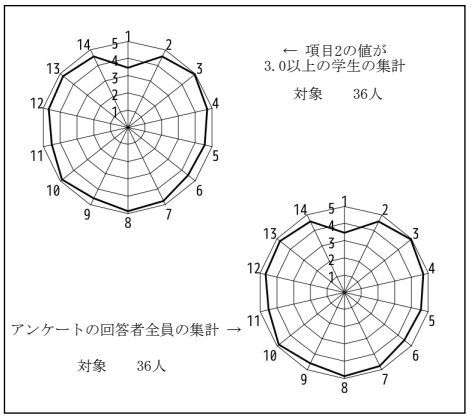
2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.46、項目3~14の平均が4.52であり、情報科目全体の集計結果とほぼ同等であった。個別の項目の評価では履修前の授業に対する興味を示す項目1が3.69と低い値であったが、他の項目についてはいずれも4.2以上であった。知識の獲得や理解の向上に関する項目13は4,63、授業に対する満足を示す項目14は4.46であった。自由記述欄にはグループワークやe-learningによる学習に対する評価や情報ネットワークに対する知識が得られたことに対する評価が多く見られた。受講生の授業に対する満足度は比較的高く、本科目の授業方法が受け入れられたものと思われる。

3. 期間途中でオンライン授業に移行するというアクシデントがあったが、事前に対策していたことでおおむねトラブルなく授業を進めることができた。Q2は授業開始当初からオンライン授業となるので、グループワークをスムーズに実施できるように注意して授業を進めたい。

理工学部 ソフトウェア工学科
吉田　敦　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[G]1
授業コード　10C01-057
教員名　吉田　敦
教員コード　101920
登録人数　38
回答数　36
回答率　94.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



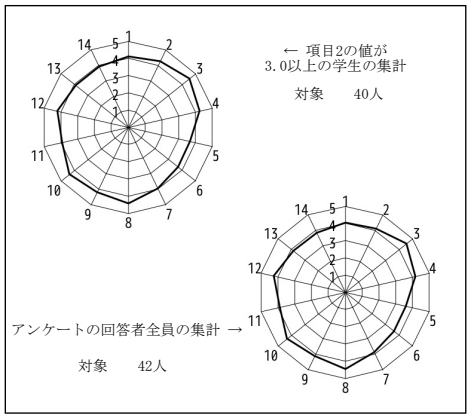
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の内容は例年通りであるので、これまで通り、学生が楽しく取組みつつ、情報倫理について理解を深められることが目標であり、評価結果としては概ね、目標を達成していた。数値データでは、授業を受ける前の期待は低いが、その他は高い点であり、例年通りの状況である。自由記述からは、グループでの活動は好評であることがわかる。今回の授業では、日本に入国できず、オンラインで参加する留学生がいたことや、感染防止の観点からプレゼンテーションを動画作成で行なったことが、いつもと異なる点であった。留学生はうまくオンラインで接続できなかったり、課題を勘違いする等、やや混乱が生じた。また、プレゼンテーションの動画作成については不安があったが、どのグループも提出でき、3回目になると、明らかにビデオの内容が良くなっていた。一方、教室でその場で行うプレゼンテーションに比べて、表現の方法が狭まり、画一的になるので、やや面白みに欠ける部分はあった。また、ビデオの場合、各グループともそれなりに作り込むことで、内容が充実する一方で、質問が出にくいという欠点もあった。どのような点を質問すべきか、ヒントなどをあらかじめ与えるなど、工夫が必要である。ビデオを採用する形式は、しばらく続くと考えられるので、次の担当のときまでに検討をしたい。

理工学部 ソフトウェア工学科
野呂　昌満　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　プログラミング言語
授業コード　52B03-001
教員名　野呂　昌満
教員コード　016477
登録人数　146
回答数　42
回答率　28.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
プログラミング言語設計に関連する諸課題とプログラミング言語処理系の理論について講義し，ソフトウェア開発におけるプログラミング言語の果たす役割とその処理系の設計実現のための計算機科学の理論とその実践を可能にすることを目標とした．これらは，ソフトウェア工学科の学生にとっては卒業研究に取り組むにあたり必須の技術である．他学科の学生にとっても卒業研究にあたり必要な技術でもある．シラバスに示した目標の達成を測るために3回のレポートを提出させた．成績の分布より，目標は十分に達成できたと考えられる．

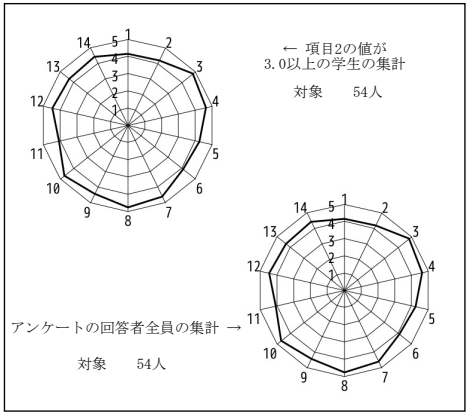
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
1で述べたことと矛盾するような数値的な結果が示されている．すなわち，5, 6の目標に関連する項目の評価が他と比較して低い(3点代)．これは目標そのものを十分に理解できるように，シラバスを読むことなどを十分説明しなかったことが原因と考えられる．今後改善したい．7につしても私の誠実さややる気を問題視するむきが少数ではなかったことを示すものである．この件については認識を改め，次期の講義に臨みたい．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針
私が年齢を重ねたことによるものではあろうが，過去には考えられないような初歩的なことや日常の良識について，さらには勉強の進め方について言及する必要を感じる．これを敷居を下げて説明するか，あえて，敷居をそのままにして，自主性に任せるかは，教育上の観点から迷うところである．教員間でよく話し合い，今後どう対処するかを考えていきたい．

理工学部 ソフトウェア工学科
沢田　篤史　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ソフトウェア開発技術I
授業コード　52B04-001
教員名　沢田　篤史
教員コード　101413
登録人数　145
回答数　54
回答率　37.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



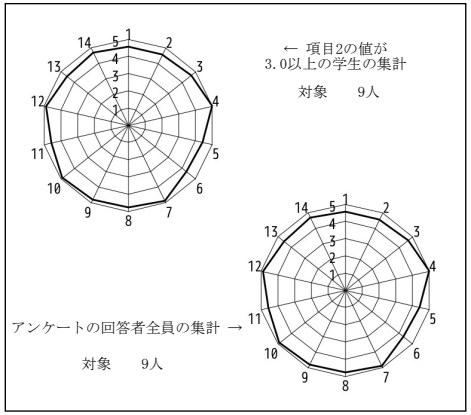
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. ソフトウェア工学の基礎概念に関する知識を修得させること，構造化手法・オブジェクト指向開発に関する基礎知識を身に付け，モデリングを実践できるようにすることを目標として設定した．授業はオンラインで行い，当初教える予定だった内容についてはほぼすべて説明を行った．
2. 授業評価アンケートの回答数について，最終授業時間に15分ほど回答する時間を設けた．当時の参加者数は100名余りと記憶しているが，回答数は54と参加者の約半分が回答依頼を無視していた（あるいはZoomミーティングに接続するだけで授業内容を聴いていなかった）ことは大変残念である．回答した学生（履修登録生の1/3程度）は授業へ取り組む意識の高い学生であろう．数値上，特に低い項目はない．自由記述からも，おおむね授業進行についても好意的にとらえられているようである．ただし，数値や自由記述には意識の高くない2/3の学生の意見は反映されていないことに注意が必要であろう．
3. 自由記述からは，プログラムのソースコードまで対応させるような具体例の提示方法についての建設的な改善意見があった．今後の参考にしたい．また資料の提示方法についてもいくつか可読性やタイミングに関する意見があった．これらは今後できる範囲で対応する予定である．

理工学部 データサイエンス学科
鈴木　敦夫　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報を読む5
授業コード　13E07-005
教員名　鈴木　敦夫
教員コード　016469
登録人数　19
回答数　9
回答率　47.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



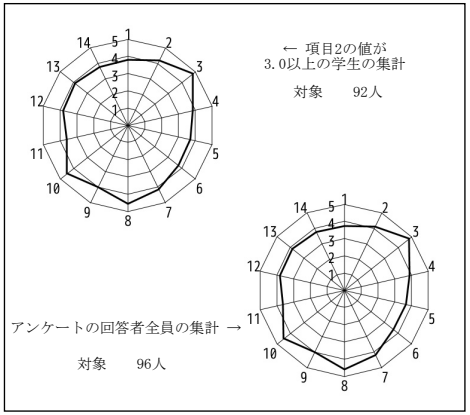
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 当初の目標は、EXCELを利用して最適化計算ができるようになり、実際に企業や団体などに就職したときに役立てるようにすることである。受講者のレポート課題の内容は、質が高く、実社会での問題にも適用可能な水準であった。アンケートの回答を見ても、ほぼすべての項目で4.5を超えており、学生も講義の内容を理解して、学習成果もあがっているものと考えられる。
② アンケートの回答を見ると、ほぼすべての項目で4.5以上となっている。リモートでの講義だったので、学生の理解度を確かめながら講義を進めたことによって、学生は、講義内容を理解したと考えられる。自由記述欄にもその点が指摘してあった。
③ アンケートの回答のうち、項目5： 4.44 （この授業の到達目標を理解することができましたか。）、項目6：4.33 （あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）が4.5を下回っていた。最初の講義で、項目5について説明したが、来年度は折に触れて講義の到達目標を、進捗と同時に説明するようにしたい。

理工学部 データサイエンス学科
塩濱　敬之　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　微積分学III1
授業コード　50A10-001
教員名　塩濱　敬之
教員コード　104524
登録人数　142
回答数　96
回答率　67.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



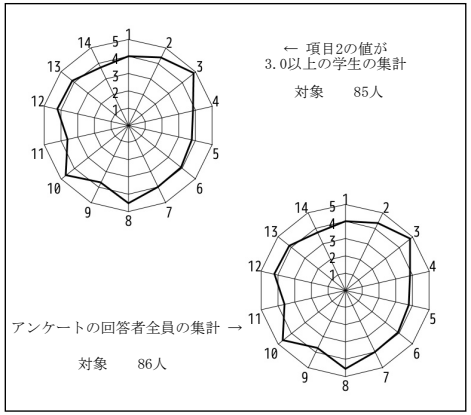
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当初目標の微分方程式、２変数関数の微積分について、基本的な内容に関して十分学習し理解することができたと思う。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
今回が初めての講義だったので、理解度の確認等、学生対応が十分でなかったかもしれないので、次回の改善点にしたい。また、WebClassの基本的な使い方を理解していなかったので、十分活用することができていかなった。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今回が初めての講義だったので、時間配分や解説・演習の割合など効果的な学習ができるように改善を図りたい。

理工学部 データサイエンス学科
松田　眞一　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　微積分学III2
授業コード　50A10-002
教員名　松田　眞一
教員コード　017566
登録人数　119
回答数　86
回答率　72.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標
　本授業の目的は微積分学I,IIを引き継ぎ微積分学のより高度な学習をすることである。WebClassで13回の課題を出し、授業内の演習時間と時間外学習で取り組んでもらっている。当初の予定とは異なり第14回が総括の代わりにオンライン試験となった。

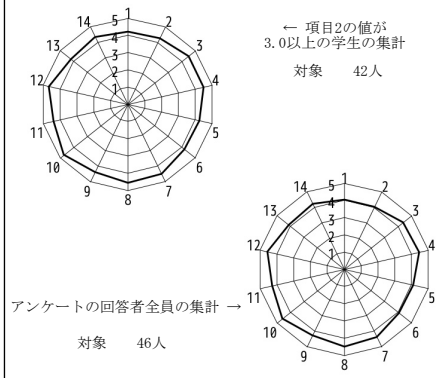
・目標達成度
　単位を修得できた学生はほぼ全員であった。昨年度と同じオンライン授業であったが、昨年度は最後レポートだったのに対し今年度はオンライン試験だった。そのため、単位が取れない人が多数出るかと思ったが、みんな熱心に取り組んだ結果だと感じた。

・授業評価
　本年度も何度か授業内で時間を取り授業評価を促したところ例年より高い72%の回答を得た。回答率と授業評価には関連があるためそのまま数字を使っても授業改善は行えない。今回も一昨年度と同様、第2問が4以上の学生の傾向と全体との比較を行うことで注意すべき設問を選定した。（なぜ4以上かの理由は一昨年度と同じ。）
　4以上の学生がどの設問も平均は上がっていたが、その上がり方が小さいのは設問9と設問11であった。（設問10も小さかったがこれは十分高いため除外した。）これらは一昨年度と全く同じ結果となった。オンラインでも設問項目自体は変わっておらず比較可能である。2つの設問とも一昨年度より数値が改善しており、どうも学生本人の努力と無関係に評価可能な項目であると考えられた。回答率が上がったのに数値が改善したことで一定の授業の評価はあったと言える。今後も学生への説明をしっかり取り組みたい。

理工学部 データサイエンス学科
佐々木　美裕　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　線形計画法
授業コード　51B03-001
教員名　佐々木　美裕
教員コード　019463
登録人数　162
回答数　46
回答率　28.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



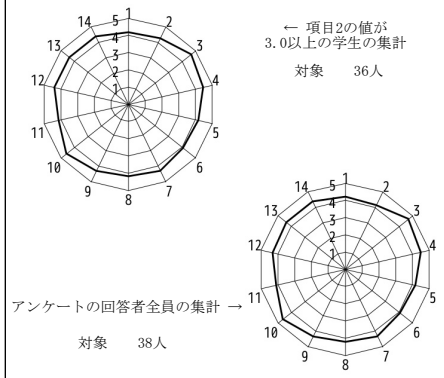
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① オンライン授業の利点を生かしつつ、欠点を補いながら、受講者の理解度を深める授業を行うことを目標とした。定期試験を実施しない代わりに、毎回の授業内容を確実に理解し、積み上げ方式で学習効果を上げることを試みた。そのため、授業内容を確認するための小レポート9回、中間レポート1回、最終レポート1回を課した。最終レポートを除いて、すべてのレポートの解答について次の授業の冒頭で解説し、解答のウェブ上での公開はしなかった。これにより、授業に毎回参加することを促した。すべての項目で平均値が4以上、1または2と回答した人数はすべての項目において2名以下であり、おおむね目標は達成できたと考えている。
②　自由記述に「講義資料がわかりやすかった」、「説明が丁寧だった」、「課題の解説があり、復習しやすかった」などのコメントがあったことからも、当初の目標をおおむね達成できたと考えている。板書の時間がなくなった分、課題の解答の解説に時間を取ることができたのは、効果的であったと思う。
③ 講義資料を最大限生かして効果的な授業を行うためには、受講者の予習が欠かせない。今後、オンラインであっても対面であっても、自習をサポートする体制を強化することが重要であると考えている。2020年度と比較すると、授業中の質問は激減した。設問12の平均値は4.59と低くないので、特に質問がなかった可能性もあるが、今後も質問しやすい環境の提供を心掛けたい。

理工学部 データサイエンス学科
三浦　英俊　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　シミュレーション
授業コード　51B05-001
教員名　三浦　英俊
教員コード　102259
登録人数　129
回答数　38
回答率　29.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
以下の4つを到達目標として設定していた.
１．シミュレーションの基本（モンテカルロ法、乱数の使い方、等）を知っている。
２．シミュレーションを用いた問題解決の手順を理解している。
３．マルコフモデルについて理解している。
４．待ち行列モデルについて理解している。
項目5，6の平均値はいずれも4を上回っており，受講学生はおおよそ到達できたと判断される.

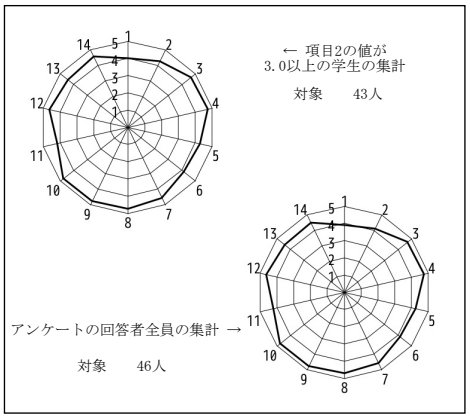
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
昨年度に引き続きオンラインでの授業であったが，昨年度よりも多くの内容を取り上げることができた（授業回数も昨年度より多い）．一部の学生から声が小さいとの自由記述があった.
機械学習に関連する内容として「マルコフ連鎖モンテカルロ法」を新たに追加した．このモデルの目的や使い方についてはうまく授業ができたと思う.

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
演習課題の設問が数年にわたって同じものとなっているためか，解答にややあやしいものが見受けられたので，来年度は設問を多少変化させる必要がある.
また，過去に履修した4年生にもう一度アンケートをしてこの授業で取り上げたほうが良い内容など推薦してもらう機会を作りたい.

理工学部 データサイエンス学科
小市　俊悟　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　数値解析[S]
授業コード　53B03-001
教員名　小市　俊悟
教員コード　101691
登録人数　164
回答数　46
回答率　28.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
現代の科学技術を支える計算機による計算では誤差が避けられないことを認識し、誤差を評価することの重要性とその方法を学ぶこと、また、同じものを計算するにあたっても、計算手順によって計算量が異なることを理解し、適切な手順を選択できるようになることが目標であったが、成績からもその目標は概ね達成できたものと考える。

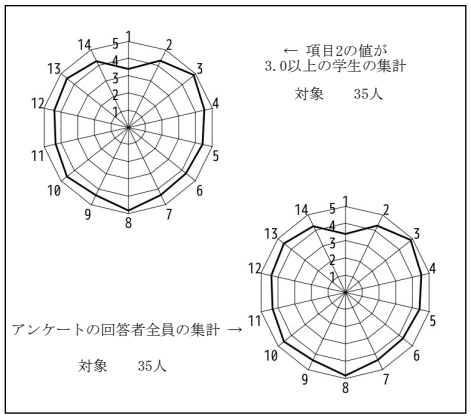
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
受講者の4分の1程度の回答であるが、4点以上となった項目が多く、良い評価となったと言えると考える。この科目は初めての担当であったので、うまく進められるか心配していた部分もあったが、これまでに他の科目で経験していたことも活かして、それなりの授業運営ができたのではないかと考える。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
実験的と言っては学生に失礼かもしれないが、オンライン授業の進め方を探るために、講義で用いた資料や、講義を録画した動画などをすべて資料ダウンロードサーバに掲載した。自由記述欄を読む限り、それらは学生にとっては好評であったようである。学ぶ速さは、学生それぞれであろうと思うので、大人数の授業では、このような方法は有効なのかもしれないと考える。

理工学部 電子情報工学科
桒原　寛明　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[E]2
授業コード　10C01-028
教員名　桒原　寛明
教員コード　103522
登録人数　40
回答数　35
回答率　87.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

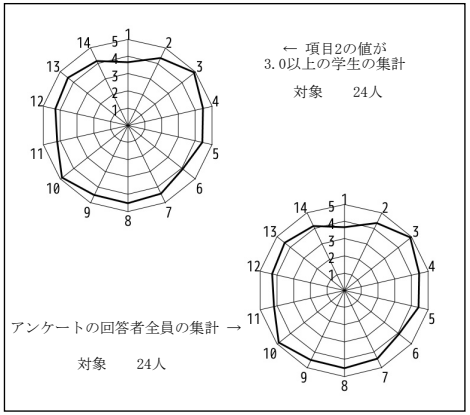
本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、積極的に授業に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。

授業はe-learningと対面授業（教室あるいはZoomで実施）を組み合わせて実施した。e-learningで学習した内容に関して理解度を確認するための課題に取り組むこと、対面授業において他の受講者が提出したレポートを読んで評価すること、指定された課題に対してグループで発表を行うことで理解を深めるようになっている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は各テーマに対して十分に理解を深められたと思われる。一方で、e-learning教材への取り組み状況が良好ではない受講生が少なくないことは非常に残念である。e-learning教材は対面授業に参加する上での基礎となるため必ず取り組んでほしい。また、課題の題意を読み取れていないと思われるレポートが見受けられるので、課題文を正確に理解するように努めてほしい。対面授業では、レポートのピアレビューに十分な時間を確保するように努めたが、ディスカッションの時間がもっと必要であるとの意見もあり、適切なバランスを探る必要がある。情報通信技術の進化や社会の変化などにより我々を取り巻く状況は刻々と変化するため、教材には含まれない最新の話題や出来事を継続的に取り上げていく必要がある。

理工学部 機械システム工学科
大月　英明　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[E]6
授業コード　10C01-032
教員名　大月　英明
教員コード　047340
登録人数　38
回答数　24
回答率　63.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



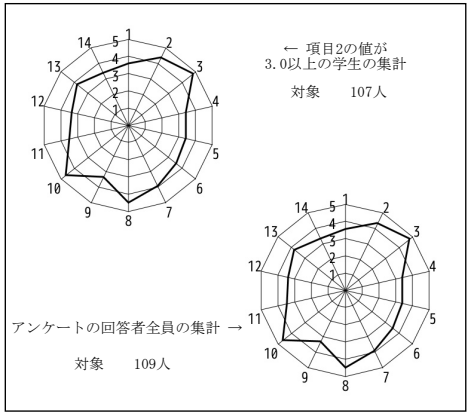
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は最初に決めたグループですべての作業を行っている。自由記述欄を見ると、うまくコミュニケーションがとれたグループの学生はとても満足度が高いようであるが、そうでないグループでは逆に不満が高まるようである。授業では注意は行っているが、うまく行っていないグループでは作業への貢献度に対する不公平感が生まれがちである。対面だとそのようなグループを見つけやすいが、一部オンラインのハイブリッドではそのようなグループを見つけるのが困難であった。またQ1では留学生がまだ日本に入国していないケースもあり、語学的な困難などグループ内での連絡が難しかったようである。点数化されている項目を見ると、毎回同様な傾向がある。ところが今回は「新しい知識、理解が深まった」という項目が比較的高得点であったことが興味深い。今までだと「ほとんど知っていることばかりであった」という意見が散見されたこともあった。いわゆる「SNSでの炎上」の数は周期性があるという説もあり、教える内容も常にアップデートしないといけないことを痛感する。

理工学部 機械システム工学科
坂本　登　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　線形代数学III2
授業コード　50A11-002
教員名　坂本　登
教員コード　102293
登録人数　132
回答数　109
回答率　82.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
質問項目６に対する3.55という数値からは，目標と到達の程度を良しとできる．一方，質問項目２０に対しては，2.44と低い数値となっている．このように矛盾する回答があり，今年度の総合評価は良かったとは言えないと考えている．

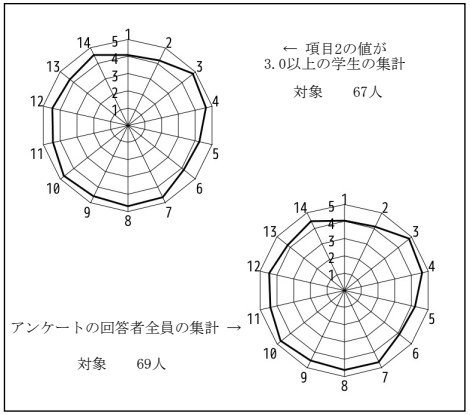
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データには矛盾する評価があるが，そのヒントは自由記述欄から伺える．本講義は，後半数十分を用いて演習問題を解かせて提出する形態をとっている．オンライン講義のため，この提出を各学生が書いた解答をスマホでスキャンPDF化することで提出させた．この作業に時間がかかり十分な解答時間がなかったという批判が非常に多かった．しかし，コロナ禍以前でも講義時間内にすべて提出させており，今年はPDF化を考慮して長めの時間を確保したことを考えるとコロナ以前と変わらないはずである．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
2年生の数学であり講義内容の高度化のため演習時間が十分に確保できないことは，コロナと無関係に以前からあった問題である．次年度はここの改善を行いたい．一方，132人登録に対して109人がアンケートを提出していること，また，コロナ以前の講義と比べ自由記載欄回答が非常に多く，良かった点にもたくさんのコメントをもらっていることから，本講義に対する学生の期待は大きかったと考えてよい．自由記載欄の批判を次年度に活かし，身についた実感を上げられるよう，工夫改善をするつもりである．

理工学部 機械システム工学科
大石　泰章　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　物理学基礎2
授業コード　50A13-002
教員名　大石　泰章
教員コード　101405
登録人数　123
回答数　69
回答率　56.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

〇当初の目標と到達の程度
　当初計画していた内容はすべて講義できた．高校レベルの内容から始めて，大学らしい進んだ内容まで，無理なく構成できていると考える．

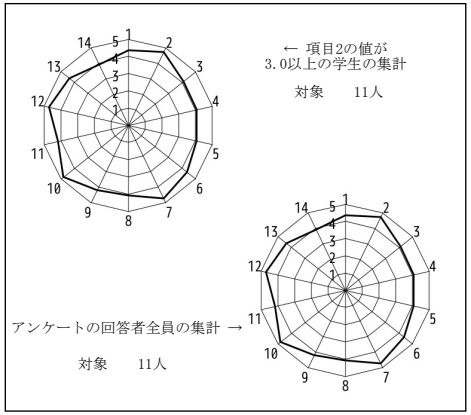
〇数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価
　数値評価は設問1から14のすべてで４点以上であり，理工学部の追加設問の結果を鑑みても，数理的な内容の授業として十分であると考える．
　評価できる点（設問15）には，「説明がわかりやすい（15件）」「例題を通した解説がよい（４件）」「進行速度がちょうどよい（３件）」などとあり，学生のニーズに合った授業ができていると考える．特に今回は，「大学数学が初めて役に立つと感じた」「物理の考え方が学べる講義であった」のような，まさに講義で狙っていたことについての記述があり，手応えを感じた．
　改善すべき点（設問16）には，「もう少し例題をやりたかった」「対面の方が向上心がわく」「板書を写す時間が短い」とあった．対面授業についてはコロナの状況次第であるが，その他の事項については来年度検討したい．

〇今後の改善点，抱負，方針など
　意欲的な学生のために，もっと進んだ内容を増やせないか検討したい．ただし，進度を早めて理解度が落ちてもいけないので，バランスにも配慮する．

理工学部 機械システム工学科
陳　幹　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　制御理論I
授業コード　53B04-001
教員名　陳　幹
教員コード　100770
登録人数　27
回答数　11
回答率　40.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



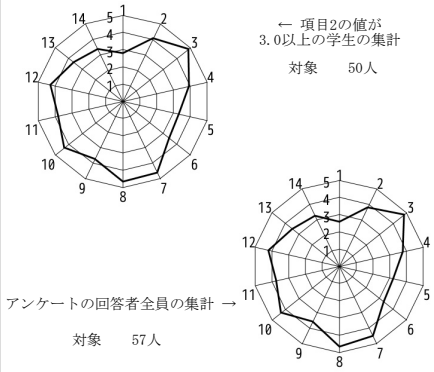
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 設定していた目標はシラバスに記載していたとおりである。緊急事態宣言に伴う休講のために、講義回数が予定より一回少なくなった。このため、目標到達度は 13/14 である。
2. 各設問項目に対して、おおむね高い評価がかえってきた。特に、設問2 「予習復習を行ったか?」に対する回答の平均が 4.73 と非常に高い。これは反転授業形式を採用したためである。自由記述欄の設問15 に対する回答でも、この形式に対するポジティブな意見が見受けられた。定期試験の結果からも、ほとんどの受講生が深く理解していることがうかがえる。一方、設問20の評価が低く、知識・技術の習得と、その目的の理解に乖離があった。設問15ではポジティブな意見が多かったが、設問16 では、事前の予習課題の量が多すぎる、予習をしっかりしたので講義で学ぶことがない、という意見もあった。
3. 反転授業形式が通常の講義形式よりも効果があるように感じた。来年度もこの形式を採用したい。予習課題については量を減らす。講義の目的について学生に正しく伝えることができていなかったので、各回の講義で、今学んでいることが講義目的にどう関わっているのかについてもう少し説明を加える。

国際教養学部 国際教養学科
VOLPE, Angelina　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教概論[G]
授業コード　10A51-019
教員名　VOLPE, Angelina
教員コード　000167
登録人数　152
回答数　57
回答率　37.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



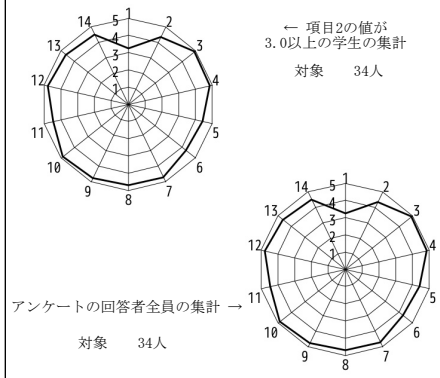
授業評価結果を踏まえた点検・評価

When I looked at the results of my Introduction to Christianity course’s evaluation, I was really puzzled. Why is the evaluation point always lower compared to the one in other subjects such as Human Dignity ? I mean, if the professor is the same and the method is also the same, then why is there such a difference? Probably the answer lies in question number 1 (“Before taking this course, were you interested in the content of the course?”). You can see that the interest that the students show was very low (2.60). The reason is that even today Christianity is generally considered as a rigid religion, rather than a proposal to live a meaningful life in dignity and freedom. The other problem is the students’ low participation in answering the questionnaire: only 57 out of 152. I think I have to try harder in the future to make the students understand the importance of answering this survey.
However, according to the quality of the students’ final reports (some of them are really excellent), I can say that we have achieved our objectives, which are:
1. have an understanding of the Christian view of God.
2. understand that Christianity is an anthropology of human dignity.
3. understand that the heart of Christianity is fraternity.

国際教養学部 国際教養学科
後藤　邦夫　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[E]8
授業コード　10C01-034
教員名　後藤　邦夫
教員コード　016428
登録人数　38
回答数　34
回答率　89.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標は真面目に受講した学生が良い成績をおさめることである。このクラスではほとんどの学生がA以上の評価を得たので、目標を十分達成できたと言える。

2020年度は特殊な授業形態であったが2021年度は2019年度以前の授業形態に戻した。ただし、当初からCovid-19対策として、本来対面で実施するグループ発表をビデオ発表に変更した。また最初から遠隔で参加せざるを得ない未入国留学生を含めたグループ討論、5月連休ころからのオンライン授業への移行など、学生側も混乱しやすい状況であった。そのため、休講があったクラスでは休講分のビデオを提供した。

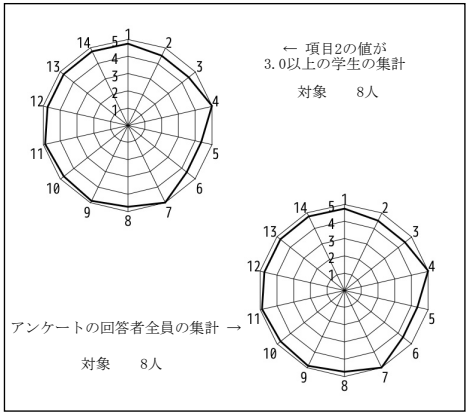
このような状況においても学生の評価はよく、悪いのは1(事前の興味)である。ビデオ発表は技術的には遠隔収録と編集が必要になるが、学生は意外と興味を持って良い作品を提供してくれた。回答率は34/38であった。自由記述ではビデオ発表が好評であった。

今年度の残りのquaterもCovid-19の流行状況によって授業形態が途中で変わる可能性があるので、Q1の経験を活かし柔軟に対応するつもりである。

国際教養学部 国際教養学科
YARDLEY, Gabriel　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[G]3
授業コード	11A01-034
教員名	YARDLEY, Gabriel
教員コード	016998
登録人数	18
回答数	8
回答率	44.4%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



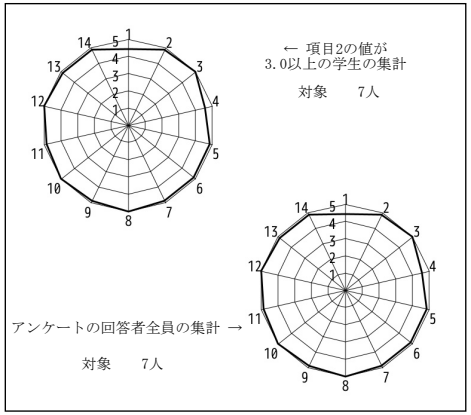
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students on this new course were good-humoured and conscientious, and although shy, initially, they gradually, perceptibly became more relaxed about using English with their peers, the key to attaining the goals of the syllabus. They participated actively in all class activities and assignment completion and were a pleasure to work with. Not all students filled in the online course evaluation—despite being reminded to do so during the final week of class. Nevertheless, there appeared to be overall satisfaction with the course in relation to the syllabus objectives—although these were not fully, effectively met. This was due to the switch to online teaching for part of the course which slightly hindered online analysis and response to class materials from students who, for the most part, had been in the process of losing their inhibitions about discussing and responding to academic issues in English in a face-to-face context. In the course review, some students wrote of being unsure of what the course goals might be, while others were concerned that they were not attaining the level of English mastery required by the syllabus. The instructor will endeavour to assuage these concerns when meeting students individually for a progress and feedback session in the opening weeks of Q2. If appropriate, additional activities and materials will be introduced or extended if requested in this feedback session. In other areas of the review, students seemed to be reasonably content.

国際教養学部 国際教養学科
山岸　敬和　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English V1
授業コード	48A09-001
教員名	山岸　敬和
教員コード	101411
登録人数	14
回答数	7
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では、以下の三つの点を目標とした。１）国際教養学部での学びに関する信頼性の高いデータや資料を集める、２）収集したデータや資料を使って英語でディベートを行う、３）個々人が独立した主体としてディベートに取り組み自分自身の意見を持つ。この三つの点については、学生全員が90%達成できたと考える。このクラスは英語のアドバンスクラスであったこともあり、学生全員のモチベーションが高く、お互いに切磋琢磨していた様子が見てとれた。

数値データについては、一番低い点だったがのか、適切なスピードでクラスが運営されていたかどうかを聞く「設問４」であったが、これはもともと本格的なディベートをしたことがない学生に１クオーターで基本を身に付けさせるために、かなりプレッシャーを意識的にかけた結果だと受け取っている。私の授業運営についての残りの設問の数値については全て「4.8」を超えており満足いく結果であった。

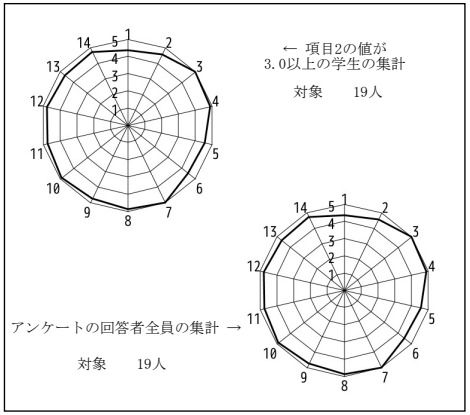
しかし一点だけ、授業中で何度もリマインドしたのにも関わらず、回答した学生が授業者の約半数であったことは反省すべきであろう。

最後に、本科目は今年度で最後となるが、今後もディベートは他の科目でも行われる。そのため今後もディベート形式で授業を行うときには、この科目での経験を活かして行っていきたい。

国際教養学部 国際教養学科
DEACON, Bradley　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English V3
授業コード　48A09-003
教員名　DEACON, Bradley
教員コード　046920
登録人数　22
回答数　19
回答率　86.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals of this course (which included improving English language skills, critical thinking skills, and public speaking through the medium of debate) were met by the students. The quantitative data and student comments showed that they felt progress in these areas.

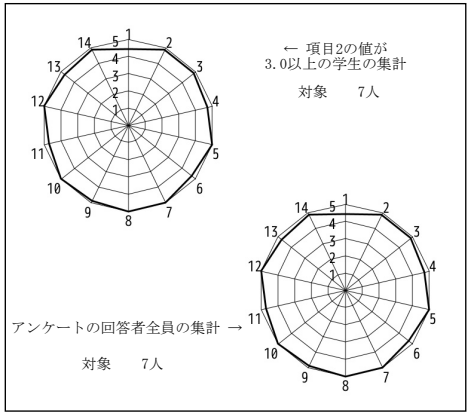
All areas of the course evaluation were positively evaluated by the students. It was most encouraging to see that although a few students were somewhat reticent to debate at the beginning of the course that they had a more favorable response by the end of the course. It's always rewarding as an educator to notice when students are able to forge a link between what they learn in a course with their lives outside of the classroom. Student comments showed that they were able to recognize value in this course for their futures.

To improve, I will continue to make use of self-reflection for students in future courses. In this course, students were required to reflect on their strengths, weaknesses, and to set and pursue their own goals related to the course outcomes at several points during Q1. I collected and commented on their reflections each time and this recursive process helped to foster a personalized approach to student learning and helped to enhance self-improvement in the students. This process also allowed me to recognize throughout various points in the course where students were succeeding and struggling with the course goals.

国際教養学部 国際教養学科
斎藤　衛　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Advanced English Literacy1
授業コード　48A11-001
教員名　斎藤　衛
教員コード　018333
登録人数　14
回答数　7
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

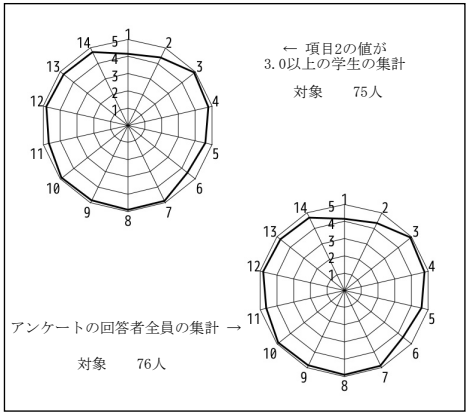
履修者14名のうち、回答者が半数の７名であったのは気になるところだが、評価は概して肯定的であった。設問14（全体的な満足度）の平均値が4.86であったことに加え、設問6（到達目標に向けて力がついてきている）と設問13（新しい知識を得たり、理解が深まった）の平均値がいずれも4.71であったことは、多少なりとも受講生の役に立てたことを示唆しているのではないかと思う。自由記述にも、「授業が面白い」、「無駄を省き、書く力の向上に焦点を置いて個別にアドバイスを与えていただいた」、「毎度の説明がわかりやすかった」といった肯定的なコメントが記されていた。

２年次英語ライティングの上級クラスであり、英語で論文が書けるようになることが目標として設定されていた。しかし、受講生の多くは、文章の構成や文法に注意を払う習慣がなく、結果として、多くを書いて練習しても文章力が向上しないという状況に滞っていた。授業では、「論文のスタイル」を教えつつ、特に、英語で文章を書く際に、すでに知っている文法知識を使うこと、そして、表現力を増すために、新たな文法知識を得る努力をすることが重要であることを強調した。もし２年次生の英語上級クラスでこのようなことを教え、受講生の役に立てているのであれば、高校、大学での基礎教育、英語教育のあり方を見直した方がいいのではないだろうか。

国際教養学部 国際教養学科
篭橋　一輝　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と社会　/ Globalization and Society
授業コード	48D05-001
教員名	篭橋　一輝
教員コード	102569
登録人数	148
回答数	76
回答率	51.4%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　開講時に学びの目標として設定されていた事項は、概ね充分に達成できた。

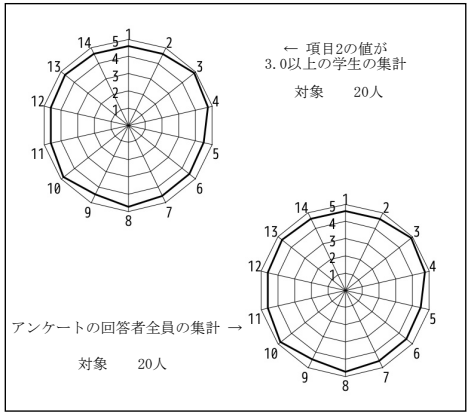
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　この授業の項目1から14の平均値は4.68、項目3から14の平均値は4.76であった。国際教養学部の平均値と比較して、前者は0.13ポイント、後者は0.17ポイント高い評価を得ている。自由記述の回答からは、説明が分かりやすかった、質問への対応が良かった、授業運営が適切だった、毎回アップロードされた講義動画でしっかり復習できた、スライド資料が見やすかった等のポジティブな評価が32件寄せられた（項目15）。項目16では、経済学の分析部分の説明がもっと欲しかった、授業スピードが速かった、用語の定義を文章で示すと良かった等のコメントが寄せられた。項目17ではミュートが外れている学生がいた、という指摘が1件あった。全体としては概ね授業の内容に関して好評価が得られたようであるが、教員が気づかないところで理解の進度に差異が生じているようなので、その点についてできるだけ丁寧にフォローアップをしていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　オンライン授業で学生との距離がとりづらい状況ではあるが、今回の授業評価で、学生からは好意的な評価をしてもらっていることが分かり、大きな励みとなった。引き続き、丁寧な授業スライドづくりと学生の疑問解消のためのフォローアップをしていきたい。

国際教養学部 国際教養学科
森泉　哲　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies D (Communication Studies)＜国際科目群＞
授業コード	48E09-901
教員名	森泉　哲
教員コード	100542
登録人数	60
回答数	20
回答率	33.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



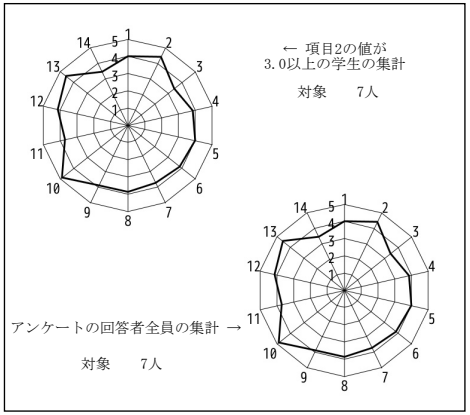
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、3－4年次を対象とし、国際科目群として行われた。ディスカッション、映像分析など様々な活動を通して、グローバル化とコミュニケーションについて理解を深め、分析できる能力を養成することを本科目の目標としている。受講生は60名であり、グローバリゼーション、文化、コミュニケーションに関して、関連のあるリーディングをもとに、学生がグループとなって、リーディングに関連したディスカッションクエスチョンや活動をファシリテーションしながら、授業を行った。事前に1時間程度、教員と学生グループが綿密な打ち合わせをして、各授業のねらい、内容を確認しながら進めるもので、受講生および教員双方にとって、単なる知識の伝達ではなく、活動を通して感じたことを共有したり、お互いの意見をすりあわせたり、他の受講生からまったく新しい視点が提供されるなど、非常に知的に刺激され、一方チャレンジングな内容であった。
　授業評価結果から振り返ると、おおむね学生から好意的な評価を受けており、事実、自由記述では複数人から「学生同士が主体的に行う授業であり、講義以上の学びがあった」「絵を描いたり、映像を分析したり、様々な活動を通して、物事を身近に感じることができ、世界で起こっている問題について深く考えることができた」など学びが深まったようである。一方で、「教員からの講義の割合をもう少し増やしてもよいのではないか」という声もあり、適度な進度と授業計画になるようにし、また何を学んだのか、また考える視点をこちらから授業の最初と最後にある程度の時間を確保して伝えるなど、さらに効果的な授業になるようにしていく。

国際教養学部 国際教養学科
安原　毅　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステイナビリティと開発 / Sustainability and Development
授業コード	48G03-001
教員名	安原　毅
教員コード	017905
登録人数	29
回答数	7
回答率	24.1%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



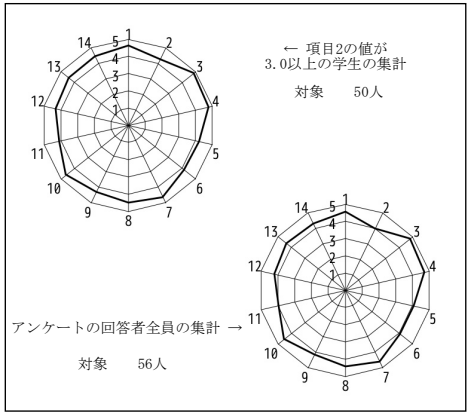
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1）目標と到達度については、決して１００％とは言えないもののほぼ満足できる結果であったと考える。そもそもオンラインの学士に対しては、本当に授業を聞いているのか否か、またレポートもすべて自身で取り組んだのか否か判別しがたいが、授業中はチャットでたびたび質問が来たのでその都度回答するようにしていた。
２）自由記述では、学生自身で考える時間を設けたことが高く評価されたようだ。例年に比べて結果的に進度がかなり遅れたのだが、結果的にはそれがわかりやすいと評価された。この点を特に参考にして、次年度からは講義内容を見直すべきかと考える。一方でハイブリッドの場合には、講義ばかり進めているとオンラインでは内容がわかりにくい、という指摘もあった。当分はハイブリッド授業も続くであろうことを考えると、この点は注意したい。
３）実はこの授業では、最初の１，２回でマクロ経済学の基礎を扱ったところ、登録中止を希望する学生が大変多かった。これは以前から、学年によって顕著にみられる現象だが、経済学の内容を前面に出すと拒絶反応を示す学生がいるのは確かである。とはいえマクロ経済学の基礎の開設は必要不可欠なので、むしろ授業の中で分散して扱うほうが学生には好評かもしれないと考える。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
丸山　雅夫　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	少年法
授業コード	44B11-001
教員名	丸山　雅夫
教員コード	017517
登録人数	151
回答数	56
回答率	37.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



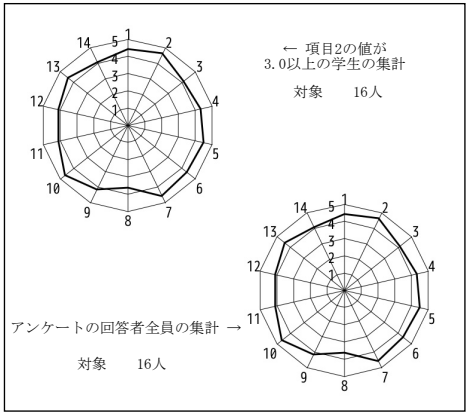
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度はオンラインのみの実施であったが、本年度は対面とのハイブリッドで行った。そのためか、昨年度と比較して、各項目において、肯定的な評価が多かった。特に満足度においては、対面のみで実施していた一昨年度と同程度の評価であり、全体としての改善点はないと考えている。他方、学生の主体的な参加状況については、4を若干下回るもので従来よりは改善されているものの、相変わらず問題を残していると思われる。
授業内容に対する自由記述においては、いずれも肯定的な評価だけであり、教員の想定していた授業ができたと思っている。他方、ZOOM使用との関係で、ボードの字が読みにくいといった感想が複数見られたが、この点については、教員側でも配慮したうえでの授業展開の結果であったため、事実上、教員側として改善の余地はない。なお、レジュメがほしいという意見もあったが、教科書を指定し、それに沿って授業を行っている側としては、レジュメ配付に何を期待しているのかが全く理解できない。レジュメがあれば、教科書を準備しなくてもよいという趣旨なのであろうか。

教職センター 教職センター
笹尾　幸夫　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生徒指導・進路指導論1
授業コード　15A21-001
教員名　笹尾　幸夫
教員コード　103858
登録人数　36
回答数　16
回答率　44.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



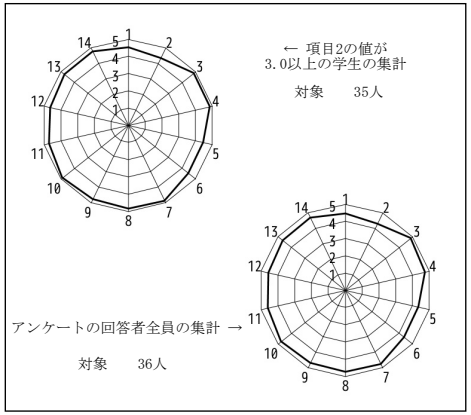
授業評価結果を踏まえた点検・評価

対面授業を原則としていたが、第３回からオンラインで受講する生徒が２名おりハイブリッドで授業を行うことになり、第11回から第14回はオンラインの授業となった。授業では、毎回PowerPointで教材を提示するとともに、関連するDVD教材がある時は学生に見せるようにしていたが、ハイブリッドの授業では教室設置のパソコンではDVD教材が使えなかった。授業開始前から準備したものの、結果として操作に手間取り、開始が遅れたことがあったが、例年どおりの内容を講義することができた。しかし、定期試験がオンラインとなったため、テストは記述式の問題しか出題できず、教職関連の知識の定着を懸念している。学生の授業参加度を知るため、毎回リアクションペーパーを授業時間内に提出させており、オンラインでも同様に授業時間内に提出するように指導している。このため、提出期限後に学生が提出したり、誤った提出先に提出しないように、その授業だけのものを提出できるようにしている。提出したリアクションペーパーの内容を知りたい学生は、提出したファイルを各自、保存しておくように指導を徹底していきたい。

教職センター 教職センター
大塚　弥生　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育相談2
授業コード　15A22-002
教員名　大塚　弥生
教員コード　000065
登録人数　56
回答数　36
回答率　64.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

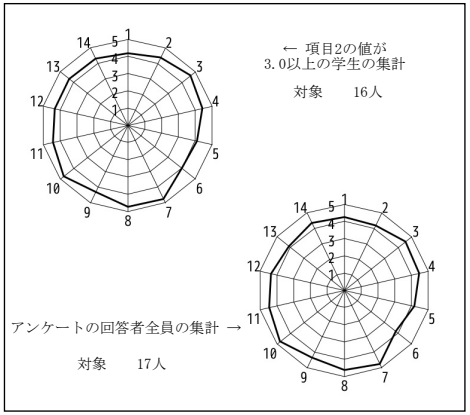
本講義は、教員免許状を取得しようとする学生に向けて、「教育相談」についての理解と、特にその基礎となるコミュニケーションの理解と実践を目指すものである。学生にとってはなじみの薄い領域であり、知識だけでなく他者と実際に関わることを通して学ぶ方法も、あまり経験してきていないことだと思われる。その中で、設問13（新しい知識の獲得・理解の深まり）の平均値が4.64、設問14（全体の授業満足度）の平均値が4.67であったことから、本講義の目標は達成できたものと考える。自由記述欄においても、多くの学生が、グループワークを行ったことや他者のジャーナルを読むことが良かったと回答している。この方法は、今後も実践していきたいと考える。

他の項目と比較して平均値が低かったものは、設問5（到達目標の理解）が4.36であったことと、設問6（到達目標に向かった力がついてきているという実感）が4.36であった。他の項目と比較して大幅に低い点数ではないが、前述したとおり、「カウンセリング・マインド」を理解しようとする本講義の目標は学生にとってはすんなりと理解しにくいものであるため、授業のはじめだけでなく、折に触れて立ち戻るようにしたいと考える。

外国語教育センター 外国語教育センター
CAPITIN-PRINCIPE, Abigail　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 1
授業コード	11A01-008
教員名	CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード	102955
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



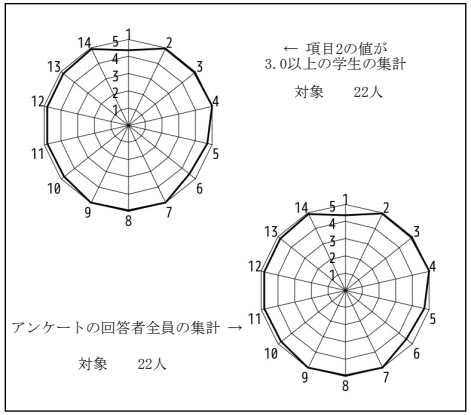
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course, was for the most part, achieved. Most students participated in the classroom activities, and when the class had to switch online, class engagement was maintained using online resources. The concepts discussed in class meets the goals set at the beginning of the quarter, there was enough speaking activities done, and the English language was used in the classroom, and online classwork. Looking ahead to the next quarter, I plan to continue the activities that help students use English comfortably, encouraging the use of English in daily life. Activities both in-class, and online, will be done to develop language use and understanding, to further improve their communications skills in English.

外国語教育センター 外国語教育センター
FILER, Benjamin　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 6
授業コード	11A01-013
教員名	FILER, Benjamin
教員コード	103850
登録人数	23
回答数	22
回答率	95.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

There are various goals of this course, but the main one is to provide the students with plenty of opportunities to practice speaking and listening. I made great efforts to give the students as many chance to speak to each other whilst maintaining social distancing measures. Once we moved online, I used Zoom for every class and made sure that the students were speaking often during the class time.

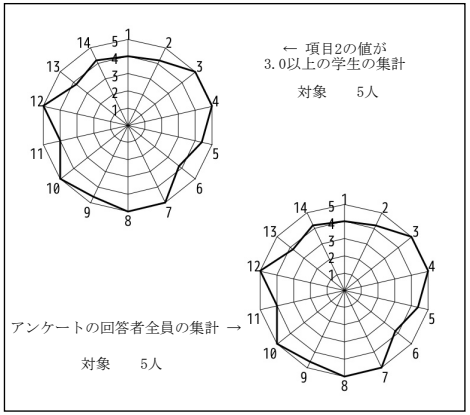
I am delighted to see that the feedback for this course has been so positive. I was especially pleased to see a few comments saying that the transition from face-to-face classes to online was smooth and did not disrupt the way the classes were taught. Of course it hasn't been easy to shift from one method of teaching to another, but I'm glad to see that I seem to have achieved some degree of success with it.

I have learnt that it is always best to be prepared for all forms of teaching as we head into the remainder of the academic year, and beyond. I will aim to be ready for a sudden change from online to face-to-face and vice versa for the foreseeable future while coronavirus is still an issue.

外国語教育センター 外国語教育センター
TAYLOR, Jamie　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 7
授業コード	11A01-014
教員名	TAYLOR, Jamie
教員コード	104100
登録人数	23
回答数	5
回答率	21.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

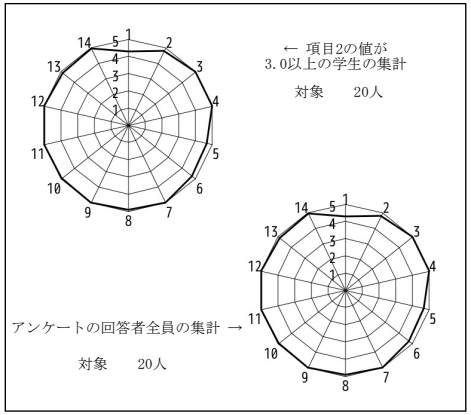
Goals for this quarter included improving speaking and listening skills and giving presentations. Students were asked to give several 3-minute talks and demonstrate their ability to carry on a conversation in English on everyday topics. Meeting these goals was more challenging than usual as the course was conducted online. However, most students were able to successfully give presentations, have conversations, and complete listening tasks in English without too much difficulty.

In the future, I hope this course can be conducted face to face so that technological difficulties are not a barrier to a successful course. If we do have course online again, I hope to be able to conduct the class without relying on WebClass activities as they were difficult to score fairly. I also hope to be able to include more partner and group activities, although that will depend on the Coronavirus situation. I also hope to increase the number of listening practices in each lesson so that students can further improve their English listening skills. I am hoping that next year the students can have more input in the topics we cover during class time; this was difficult this year as class was online in Q1 at Nanzan.

外国語教育センター 外国語教育センター
都築　千絵　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 5
授業コード	11A01-024
教員名	都築　千絵
教員コード	103924
登録人数	20
回答数	20
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　このクラスは総合政策学部1年生20人が必須科目として履修したが、1年を通した目標がシラバスにあり、Q1ではすでにその半分ぐらいをカバーできた。これからのクォーターでも繰り返し学んでいく内容も含め、Q1の目標は到達することができた。

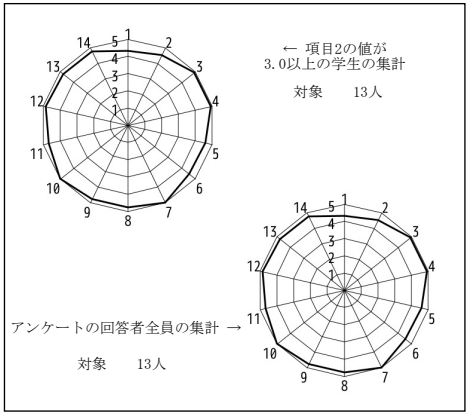
②項目３から14の平均が4.93と自己最高の評価を受けたことを嬉しく思う。また今まで課題であった授業の到達目標の理解（項目５）と到達目標に向けての達成感（項目６）が、今回は他の項目と大きく数値が変わらなかったことに安堵した。シラバスを用いて、目標を確認しながら授業を進めたことが良かったと思う。Zoom授業でのアンケートだったが、項目15に全員が記入し、多くのコメントは、ペアワーク・グループワークで毎回違うクラスメートと英語で話す機会が多くあったことを評価していた。Ｑ１は途中からオンラインになったが、Zoom上でも教室にいるのと同じ構成で授業をするように努め、授業構成はうまく機能していたと思う。

③　今後のクォーターにおいて、対面授業ができない場合でも毎回Zoom授業を行い、対面授業と同様な効果的な指導を今までの経験を生かして行っていきたいと思う。

外国語教育センター 外国語教育センター
LOTT, Danielle　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 6
授業コード	11A01-025
教員名	LOTT, Danielle
教員コード	103593
登録人数	20
回答数	13
回答率	65.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



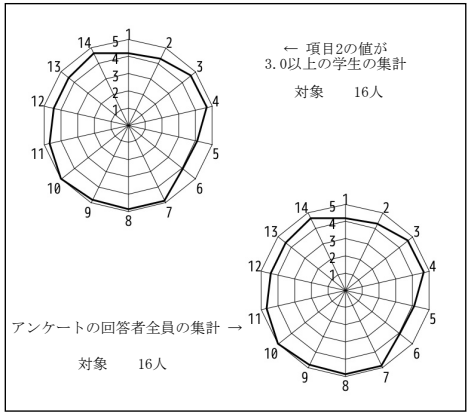
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) My goals were to develop students' communicative competency through the teaching of conversation strategies, recursive practice, Webclass activities, recorded presentations, and self-evaluation. I feel like these goals were accomplished based on their recordings and responses in final reports. According to their final reports, many students went from disliking English to liking it, and many students felt more confident in their speaking ability. 2) The biggest challenge was switching from in-person classes to online while still accomplishing all of the course goals; however, based on the numerical data and comments, the course was a success. 3) It's easy to make small mistakes with online materials. I encouraged students to let me know if they found a problem and fixed any issues immediately, and I was glad to see when a student commented on this in the course evaluation. In the second quarter a few students had trouble completing Webclass assignments and this severely impacted their scores, so I want to find a way to encourage completion of Webclass assignments by incorporating their content into class and sending reminders about deadlines.

外国語教育センター 外国語教育センター
KLUGE David E.　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[T] 4
授業コード	11A09-052
教員名	KLUGE David E.
教員コード	100398
登録人数	24
回答数	16
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Discussing the numerical average of the answers to the questions, since my total class average (4.55, 4.60) was the same or slightly better than the average of English classes, I was satisfied. All numbers were over 4.00, with 7 question averages over 4.5. The question averages that stuck out as being very good were Q9 regarding the teacher's consideration of the students' understanding in textbook, audiovisual materials, and assignments was 4.81, Q7 regarding the sincerity and seriousness of the teacher was 4.88, Q8 regarding the volume of the teacher's voice and audio equipment was also 4.88, and regarding the teacher taking appropriate measures with actions that interfered with the lesson was marked as 5.00.

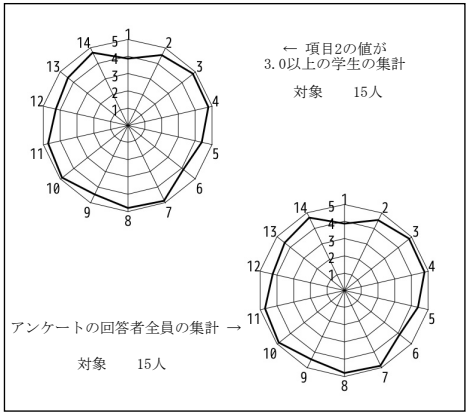
The comments from the students were positive:
"Teacher was cheerful. So his class became brighter. And I could have fun learning. Especially, learning "Reading" was so good. When I was a high school student, I didn't practice reading with intonation. So it was good time for me."
"The way the professor spoke motivated me to take a lecture."
"Although I was not good at English, I enjoyed taking lectures."
"Whatever I did, I was able to be aware of communication."
Being able to improve your skills by actually communicating
My favorite comment was "We all enjoyed learning."

In the future, I will work on making sure students clearly knew what the goals of the class were (4.13).

外国語教育センター 外国語教育センター
KUMAI William N.　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[T]9
授業コード	11A09-057
教員名	KUMAI William N.
教員コード	000204
登録人数	22
回答数	15
回答率	68.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



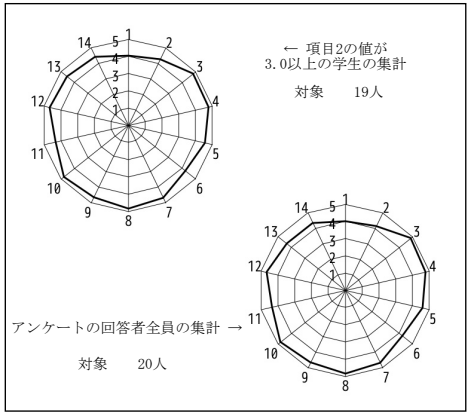
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main two goals for the first quarter were creating a language community and improving pronunciation. The first goal was achieved mainly through having students interact as much as possible with as many classmates as possible. This situation was reflected in the comments. Fortunately the language community effect was achieved before ZOOM classes were imposed; it is harder to attain a community bonding without in person communication. The second goal was a more difficult challenge because students wore masks; pronunciation training requires careful observation of how students are forming sounds. Nevertheless there was some progress on this front through group and individual training in an oral interpretation exercise. The lowest item was item 1; however, the students are science majors so as might be expected their interest in language learning would accordingly be low. The next lowest item is 6, but that can be attributed to the students' comprehension of the English explanation of language community. Item 12 depended in part on students' questions, which were rare perhaps because they had to be posed in English. The WebClass chat function for questions can be emphasized in Q2.

外国語教育センター 外国語教育センター
丹羽　牧代　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリーディング＜全・T＞5
授業コード	11A23-005
教員名	丹羽　牧代
教員コード	055715
登録人数	23
回答数	20
回答率	87.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



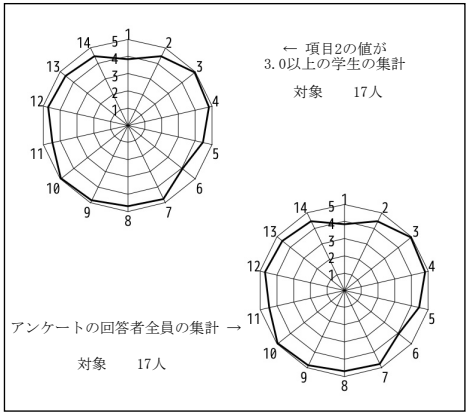
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業については、途中からZOOM授業が対面に戻るという変則的な実施になったことから、当初予定の授業デザインからの変更を余儀なくされたが、まずまずの成果をあげることができたと考える。①　開講当初から、１２ある選択のReading 共通の到達目標を示した上で特に注力する目標を明示し、授業毎に理解度をはかるworkout もしくはクイズを行ったので、浸透度は目に見えて測ることが可能だった。12の目標を満遍なく訓練するのではなく、いくつかに重点箇所を絞って繰り返したことにより、学生には「何を習得することが期待されているのか」は明確になったと思われる。②その点はおおむね満足度が高い点数評価となって表れてはいると感じる。ただし、自由記述にもあるように「シラバス通り」にはならない面が出てきたことは否めない。ひとつには、シラバス設定が基本的には対面授業でしかも自由に教室内移動や議論ができる状況を想定して作られていることから、提示された通りにならない面もいくつかあったと思われる。Zoomの特性を活かした、ブレイクアウト、チャット、アンケート機能、などを駆使してできるだけリアル対面授業に近い状況を目指したが、至らなかった部分も多々ある。逆に対面式になってからは、いかにして発言を押さえてなおかつ意見交換をするかという難しい状況があったので、なかなか活性化が困難だった。さらにハイブリッド授業では、両方の参加学生に対応するのに追われた面もある。③ただし、試行錯誤を経ていくつかの工夫の方法があることも、問題の所在もわかった。この先秋学期の授業形式が不透明であるが、より柔軟に効果的に授業対応していくための素地は今期の授業を通して確立してきたと思うので、さらに改善していけるものと考えている。

外国語教育センター 外国語教育センター
石崎　保明　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリーディング＜全・T＞13
授業コード　11A23-013
教員名　石崎　保明
教員コード　102444
登録人数　23
回答数　17
回答率　73.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回授業評価を受けた科目は、英語の読解力を育成する選択必修外国語科目です。楽しく英文を読み、他者に口頭・英文で簡潔に伝えることを目標にした多読課題と、アカデミックな文章の特徴を理解しながら読み進めることを目標とした精読課題、を両輪として、英文読解力の底上げを図ることを念頭に、授業を計画・運営しました。

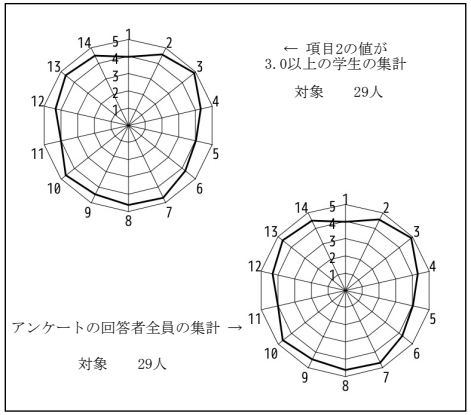
同科目は、今年度はじめて担当するものであり、また受講生の所属学科も学年も異なることから、手探りでの授業運営となった部分もあるものの、特に項目14の評価結果や、授業の段取りや説明が丁寧であったという自由記述欄などから、受講生からはおおむね良好な評価を得られたものと考えます。

到達目標に対して自身の力がついたのかを尋ねた項目6が4.06と、全体の各項目の評価と比べると低い評価となりました。目標設定の理解度を尋ねた項目5が4.47、新しい知識の深まりを実感できたのかを尋ねた項目13が4.59であったことから、受講生にとっては、英文読解のための知識は吸収できたものの到達目標まではやや隔たりを感じた学生が一定数いたものと推察されます。この結果に関しては、選択必修科目であることによる難しさはあるものの、到達目標までの道筋を授業内でさらに明確に示し、その振り返りの機会を持たせることにより、今後の改善につなげていきたいと考えています。

外国語教育センター 外国語教育センター
OLIVERO, Regis　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語I＜E・B＞1
授業コード　11B01-006
教員名　OLIVERO, Regis
教員コード　104119
登録人数　30
回答数　29
回答率　96.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



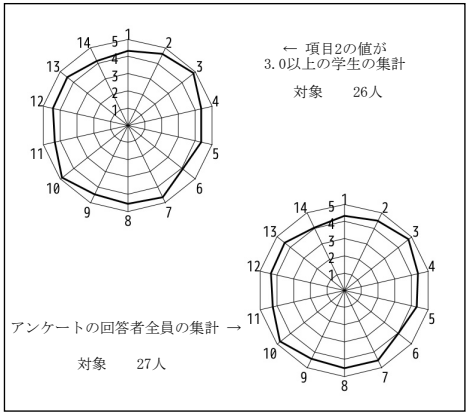
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Every year, I try to set the same goals with non specialist beginners, that is to teach them the basics of french language and get them interested and motivated by what they learn. the Q1 is vital if we want to achieve these goals and we have to make sure students are on the right tracks immediately.
In the group I had in charge, everybody responded well and nobody was "lost" on the way. Adaptation might be different from a student to another but they basically understood what was expected from them.
The switch from online classes to face-to-face did not cause any problem, I was able to conduct the class in a efficient way and the results were satisfactory.
Based upon the class assessment made by the students, I can say that no big issues can be observed. Things can always be improved however and I will make sure to be more precise when giving instructions.
In Q3 and Q4, I expect students to be more proactive in the classroom and improve their oral skills and expression. the fact that they know each other and are less anxious about working together should make the lessons more dynamic and speed up the learning process. That is what I am aiming at.

外国語教育センター 外国語教育センター
梶浦　直子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語I＜J・P＞2
授業コード　11C01-010
教員名　梶浦　直子
教員コード　102557
登録人数　28
回答数　27
回答率　96.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

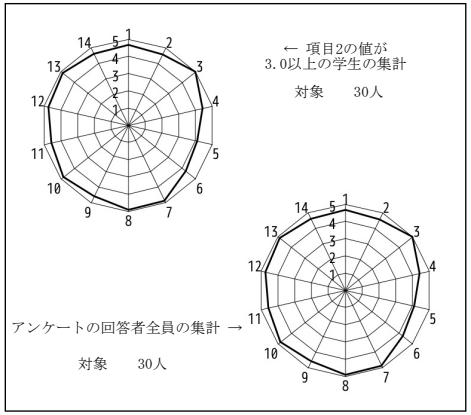
この授業の学習目標は、学習者同士が協力しながら、発見的、自律的にドイツ語を学び、ドイツ語を運用する能力をつけることにある。今期はコロナ渦における対面授業ということで、授業の中心となるグループワークが通常通りには実施できないという制約の中で始まった。また、マスクによって表情が読み取りづらく、コミュニカティブな授業を実施するのに非常に苦労した。さらに、このクラスでは「自分たちが授業の主役である」ということが十分に理解されておらず、何度か注意せざるを得ない状況に直面した。

しかし、緊急事態宣言が発令されことによりオンライン授業に移行し、クラスメートの顔が見られるようになったのを機に、少しずつクラスの雰囲気がよくなっていった。自由記述においてもグループワークの評価が高いことから、学習者がこの授業にしっかりと取り組んだことがうかがえる。口頭発表でも多くの学習者がQ1の目標を達成したと評価できる。しかしながら、項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」は、4.04と低い。これは学習者の自己評価が厳しいことに影響されていると思われる。また、学習形態に対する戸惑いも影響しているであろう。今後の授業においては、学習目標の確認と学習の到達度を客観的に把握する機会を定期的に取り入れたいと考えている。

外国語教育センター 外国語教育センター
陸　心芬　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国朝鮮語I＜J・P＞1
授業コード　11G01-005
教員名　陸　心芬
教員コード　101225
登録人数　30
回答数　30
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1の授業目標であった文字と発音の習得や文字の読み書きができること、簡単な自己紹介及び挨拶表現ができることについて、おおむね達成したと言える。学生による授業評価設問項目の平均値が4を示しており、評価にそれが現れていると思われる。

Q1では対面授業の途中にオンラインに変わることだったが、トラブルなくスムーズに授業の運営ができた。

自由記述欄の良かった点としてたくさんのコメントがあった。「授業の進行スピードが適切」「毎週小テストを実施して評価しているので努力が反映されやすい授業でよい」「ネイティブの先生なので発音方法がとても参考」「力を着々とつけることが出来る」「スピード感がちょうど良い」「わかりやすい」「基礎からしっかり理解することができた」「すぐ質問できる環境」「インプットとアウトプットのバランスが良かった」「生徒同士で会話の練習ができた」などがあった。

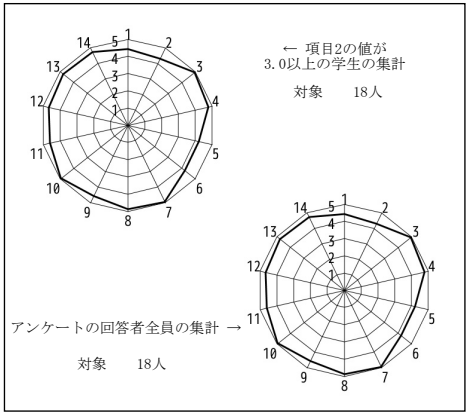
改善すべき点としては、「授業スピードが早い」「発音できる子が堂々と発音しすぎて、自分で発音を考える前に言われてしまい残念な気持ちになった」「マスクで発音するときの口の動きが見えなかった」「理解するのが難解であったためもう少しだけ二重パッチムの授業の進行ゆっくりやってほしかった」があった。

今後も良い点については生かし、改善を求める点については工夫を続ける。

外国語教育センター 外国語教育センター
町田　奈々子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育文法(初級)
授業コード	24C61-001
教員名	町田　奈々子
教員コード	017483
登録人数	21
回答数	18
回答率	85.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のQ1の学生評価は大変良好であり、概ね目標は達成されたと思われる。高く評価された点は、授業に対する誠実な姿勢（7）や授業運営に関する項目(3)(4)(8)(10)（12)、そして最も重要な点として、理解の深まりと全体的な満足度(13)(14)などである。オンライン授業としては２年目であるが、学生の伸びや理解度の向上がはっきり見て取れた。自由記述にも「説明がすごくわかりやすかった」「英語と比較して日本語文法を学ぶことで、学習者が苦手とする部分が深く理解できた」「実践的な学びがあった」「仲間と交流することで理解が深まった」など、こちらが意図していた学生の積極的な参加を促す授業運営や授業内容に関するプラスの評価が多くあったことは喜ばしい。

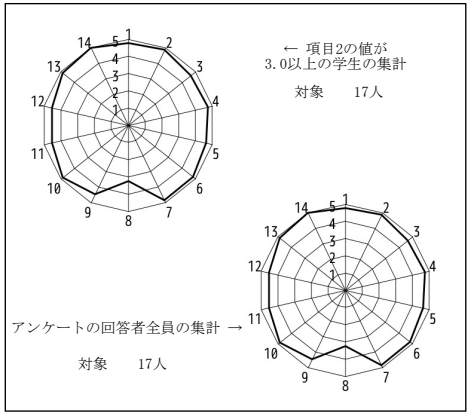
また昨年度の反省を踏まえ、時間割を週１回から２回に変更したが、(13)や(14)の高評価からも明らかなように、この点は功を奏したようである。オンラインによる２コマ連続では、学生の集中の持続が難しかった。

今後の改善点としては、やや評価が低かった(5)(6)に着目し、到達目標の理解が深まるような具体的な工夫を考えたい。そのためにも来年度は対面授業が復活し、例年行っているジャパンプラザでの留学生との交流を通しての学びや、実践的な授業内容の紹介が可能になることを願っている。

体育教育センター 体育教育センター
中路　恭平　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(集団スポーツ)バレーボール
授業コード	14E02-001
教員名	中路　恭平
教員コード	015255
登録人数	30
回答数	17
回答率	56.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

新型コロナの感染者数が増加傾向にある中、一般の講義科目は第1Qの途中からオンラインに切り替える中、当科目は対面授業を最後まで継続した。感染対策のため、例年より少なめの30人を定員としたが、その30人のほとんどが全出席で一人の脱落者もなく授業を終えた。30人中28人が2年次生で、昨年度は1年間オンライン授業で基礎体育を受講せざるを得なかった反動か、とても運動欲求が高かったことが今年度受講生の特徴であった。全員とても熱心な受講姿勢であり、技能の上達度も高かった。開講当初に設定した目標は概ね達成されたといえる。バレーボール経験者と初心者、男子と女子が混合というクラスではあったが、教え合いや言葉かけなどが見られ、非常に好ましい学習状況であったと思われる。

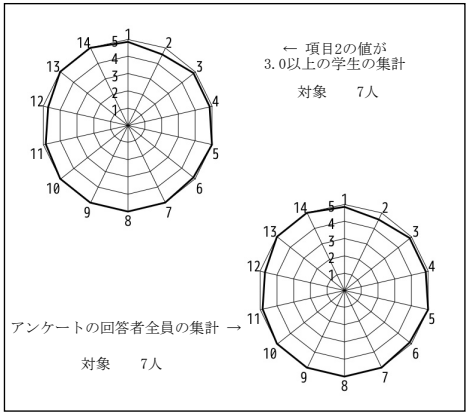
授業評価の回答者は17人であり、回答率が低かったことは残念であるが、学生の評価はほとんどの項目において高かった。ただ、8の「教員の声」に関する評価は低く、マスク越しで学生との距離を取った授業スタイルでは、声がしっかり届いていなかったという点が反省課題である。簡易マイクを用いるなどを検討すべきだろう。

検温と消毒も、すべて教員自ら全員に対して行ったことは、感染対策を徹底する点では当然と考えていたが、時間がかかりすぎ、学習時間を削ることにつながった。自由記述において学生からの指摘があったので、今後の改善策を検討したい。

体育教育センター 体育教育センター
飯田　祥明　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(集団スポーツ)バスケットボール
授業コード	14E02-002
教員名	飯田　祥明
教員コード	103610
登録人数	20
回答数	7
回答率	35.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



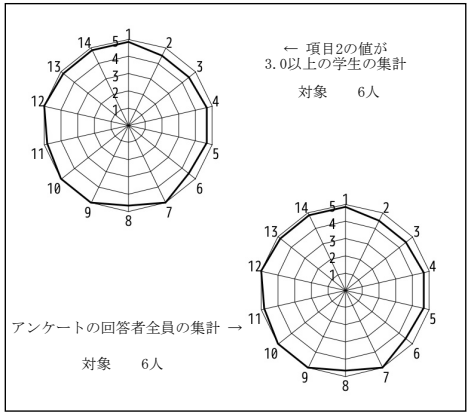
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目の目標は「バスケットボールのルール（5人制および3人制）を理解している」「チームでの自分の役割を理解している」「バスケットボールの基礎的技術とゲームにおける戦術を実践できる」の３つであった。１つめについて、5人制は授業開始時から理解している学生がほとんどであったが3人制のルールを理解している学生はほとんどいなかった。3人制の試合を中心に実施したこともあり、授業終了時には全員がルールにのっとって試合を実施できた。２つめについて、経験者は自ら効率的に得点することとチームのメンバーのシュートチャンスを作ることとを役割とし、未経験者はシュートチャンスを逃さないことを基本的な役割として設定し、授業終盤には多くの学生がそれを達成できていた。３つめについては、授業がオンラインに切り替わったこともあり、想定していた内容をすべては実施できなかったが、基本的なバスケットボールのオフェンスアライメントとディフェンスのシステムは説明し、試合形式で遂行できた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値データをみると、項目２を除くすべての項目が4.7を超えていた。学生の満足度が高い授業が実施できたものと推測できる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今回は非常にモチベーションが高い学生が受講してくれ、出席率・受講態度ともに非常に良好であった。対面での体育授業が減少しているために、選択体育科目のニーズが高まっているためであると考えられる。また、授業がオンラインに切り替わった際のアンケート回収率が下がる傾向にあるので、対面実施中からアナウンスを繰り返す必要があると感じた。

体育教育センター 体育教育センター
加藤　孝基　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(フィットネス)フィットネス
授業コード	14E06-001
教員名	加藤　孝基
教員コード	104117
登録人数	26
回答数	6
回答率	23.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



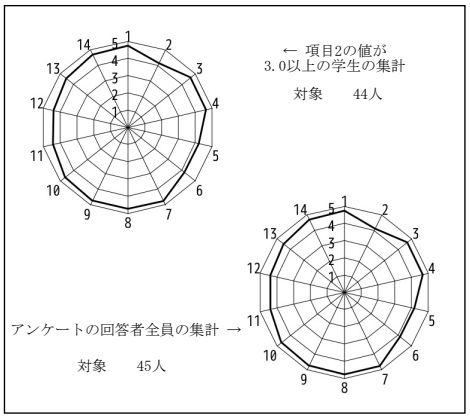
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について。
1. トレーニングの目的とその効果について正しく理解できる　2. 種々のトレーニングの正しい実践方法を理解できる
3. 正しいダイエット法について説明できる　4. 各々の体力や健康状態に合わせ、運動プログラムを自ら作成し、実践することができる
以上を開講時の到達目標としていた。covid-19の感染予防のため、当初予定していたトレーニングルームは使用せず、グラウンドおよび体育館を使用して実技授業を行った。内容としては、毎授業の前半にトレーニングに関する知識提供やその実践を取り入れ、後半は、接触を伴わない種々のスポーツを行うこととした。そのため、到達目標1～3は概ね達成できた一方で、4の運動プログラムを自ら作成する点については、十分に達成できなかったと感じる。
②総合的な自己点検・評価。
総合的に、授業に満足した学生が多かったと客観評価できるが、一部「シラバスと異なった内容」「扇風機音が大きい」との意見もあった。トレーニングルームを用いると、人数制限のため2グループ制にする必要があり、学生の運動機会は半減してしまう。コロナ禍での運動不足が懸念されるため、その機会を増やすべく本授業形態とした。結果的に、シラバスとは異なる内容となってしまったが、このような状況下では、引き続き臨機応変に対応する必要があると考える。
③改善点、今後の抱負、方針
（こちらの度重なる催促にも関わらず）アンケート集計率が不十分であったことについては、今後改善すべきである。低い回答率では十分な客観評価ができないため、今後は口頭のみでなくweb class等を活用するなどして回答を徹底したい。

人文学部 心理人間学科
井村　安之　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理的アセスメント1
授業コード　23C62-001
教員名　井村　安之
教員コード　048439
登録人数　50
回答数　45
回答率　90.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



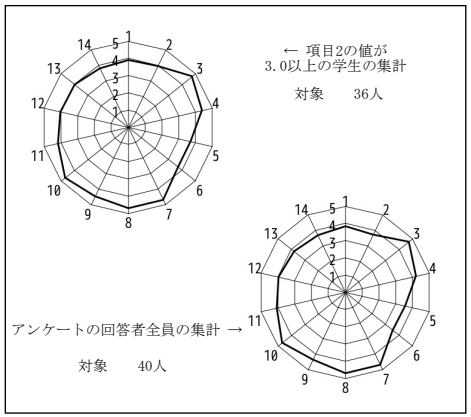
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体としてが比較的良い評価をいただいたといえるが、各項目を見ていくと見直していくべき課題がいくつか見受けられる。本授業は、実習的な要素が強く、基本的に予備なしで受講してほしいと伝えているため、2.が低くなっているのはやむを得ない部分もあるが、それが主体的な授業参加の妨げになっているとしたら、改善していかねばならない。さらに、5.6.が低くなっており、授業の到達目標が不明確になっていることが窺われることも考えると、まずは、授業の到達目標をより明確にし、授業の進め方やどのような姿勢で受講してもらいたいかなど、より詳しく説明していくことが必要であるといえる。また、自由記述で、レポートの書き方の説明が少ないとの指摘があったので、そういう点でも、授業の内容そのものはとりあえずは良しとして、授業ではどのようなことが求められるか、何が目標であるかなど、適切な解説を行っていきたい。また、久しぶりの対面授業ということでとても新鮮な気持ちで授業に臨むことができた。このような気持ちをこれからも大切にしていきたい。

人文学部 心理人間学科
米山　薫　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　神経・生理心理学
授業コード　23C69-001
教員名　米山　薫
教員コード　104086
登録人数　118
回答数　40
回答率　33.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



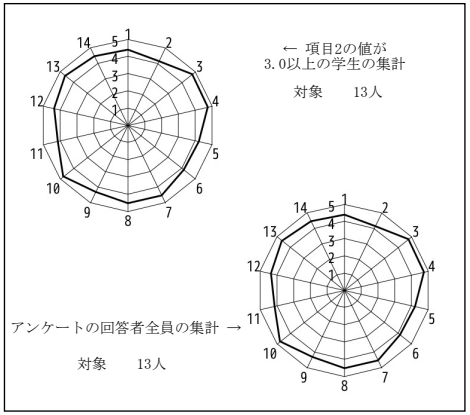
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度に関しては，取り扱う内容がやや専門的であったこともあり，学生自身の目標達成に対する評価は低い傾向がみられた。しかしながら，授業の感想を読む限りにおいては，教員が到達して欲しいレベルには概ね達していたように思われる。また，通常であれば学生の反応をみながら補足等をして授業を進めていくが，オンライン授業ということもあり，教員が学生の理解度をその授業内に把握することが難しかったことも，より深い理解を与えられなかった要因と考えられる。
②自由記述のなかzzoomでの出席の取り方について賛否があった。本講義ではzoom受講に加え，webclassを使用した授業後の「確認テスト及び感想」という形式で出席を確認した。授業中はカメラをオンにするよう促すが多くても1／3程度しかカメラをオンする学生がおらず，授業内で「手を挙げる」機能を使って出席を取ったりもしたが，正確に把握するこが困難であった（授業内に「手を挙げる」機能を使って出席を確認すると，次週からは受講中ずっと「手を挙げた」ままの学生もおり，恐らくオンラインで「手を挙げた」まま離席している学生もいたと推測される）。こうした問題への対応はなかなか難しく，ぜひ大学からのご助言を賜りたい。
③授業内に実際に実験をする機会を設けたことは学生が授業に興味を持ち，理解を促す良いきっかけになったと感じている。講義形式の授業であっても，こうした工夫を続けていくことが重要であると思われる。

人文学部 日本文化学科
伊藤　伸江　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　和歌文学研究
授業コード　24C28-001
教員名　伊藤　伸江
教員コード　103266
登録人数　43
回答数　13
回答率　30.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



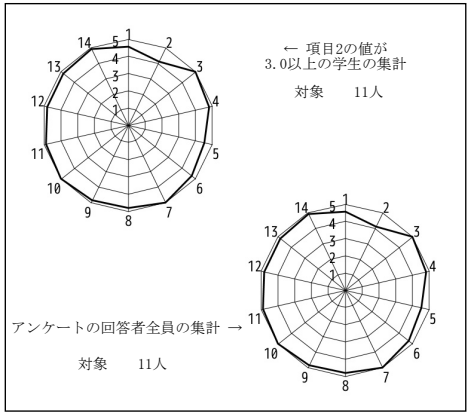
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、鎌倉時代までの和歌を集めた百人一首から和歌を選び、時代ごとの和歌の様相や特徴ある技法を学ぶことで、学生が日本の詩歌に触れ、そこから日本文化のありかたを考察し、自らの言葉で表現することができるようにすることを目標に置いた。講義は、三十一文字の定型の制約がある中で、どのように多くの内容を盛り込む技法が発達したかを、時代を追って説明し、特徴ある歌の比較対象をなしてより理解が進むように努めた。また、作者の性別、歌物語と撰集の和歌、信仰と和歌表現など、各回の講義で理解してもらいたい内容も別途設定した。講義内容に関してはリアクションペーパーで学生の理解を確認するようにしたが、ほぼ理解していることがわかる書き振りであり、質問もなされ、ペーパーを有効に活用してくれていた。質問に関しては、次の回で意識して補足をするようにした。自由記述を見ると、学生は、資料の豊富さ、説明の丁寧さを評価してくれているようであり、今後も、よりわかりやすい発信を心がけたい。なお緊急事態宣言により後半から遠隔授業となったが、学生が遠隔から連続して対面講義になる場合が生じたので、リアクションペーパー提出期限をのばし、余裕を持って学習の時間が取れるように配慮した。非常勤なので学生の事情がわかりにくい部分があるが、申し出てもらって、学習に支障なく打ち込めるように配慮したいと思っている。

人文学部 日本文化学科
三宅　宏幸　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　近世文学研究
授業コード　24C36-001
教員名　三宅　宏幸
教員コード　103077
登録人数　31
回答数　11
回答率　35.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



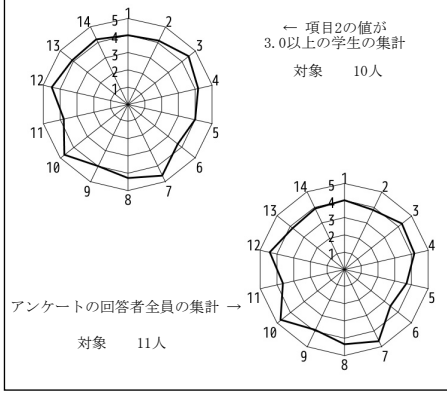
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は日本の江戸時代の小説、特に曲亭馬琴の読本（よみほん）について、様々な視点から読み解いていくことを目的とした。日本近世には様々な知識が民衆に流布しており、その時代の小説はそれらの知識を〈引用〉しながら、作品の構想や場面を描き出す。その物語を検証することで、作者馬琴の工夫について理解を深めた。そして実際に疑問を持ちながら作品を読み解くことで、作品の構想や各場面の趣向に軍書や演劇、神話、説話、中国白話小説などが馬琴の作品に利用されていることを確認することができた。
当初の目標であった馬琴小説への理解について、本科目の受講生は大変深くなっていると感じた。本講義は１～２限の連続した時間割だったため、１限に受講生が自身でまず作品を読み、その上で「この場面をどう読み解くか、あるいはどこに疑問を持ったか」という問いを立ててコメントを課した。そして２限で教授者が用意した解説を行う形態で授業を行ったが、受講生のコメントは非常にレベルが高く、作品を疑問を持ちながら読み込み、馬琴の特徴を認識していることが見て取れた。その理解度は、受講生のアンケートの平均値が4.7を超えることからもうかがえ、またこの形態の授業についても好意的な自由記述を頂いた。学生の今後の研究に活かせて貰えたらと思う。
今後も資料をより多く示しながら、わかりやすく、そして受講生が自身で考える時間を大事にした授業を展開したい。

人文学部 日本文化学科
永澤　済　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語研究史
授業コード　24C57-001
教員名　永澤　済
教員コード　103687
登録人数　27
回答数　11
回答率　40.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の冒頭で前回課題について解説した点、および、受講者全員の解答を無記名でスクリーンに映して共有した点は、好意的に受け止められたようです。それについて2名の方が自由記述でコメントを寄せてくださったのに加え、設問12（課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか）の評価数値が比較的高いことに表れています。設問4,7,8,9,10,14の数値によると、教員の熱意や授業の進行形態は概ね好意的に受けとめられたようです。一方、設問5,6 の到達目標や力の向上を学生が自覚しにくかった点に問題があると思います。テーマを網羅的には扱えないため、いくつかのトピックをとりあげましたが、それらが体系的に１つのテーマとして受講生に届くよう、工夫したいと思います。まとめの課題を見る限りでは、到達目標には十分に達していますが、学生自身が自覚できるようにする必要があると思いました。Q2の別の授業（アンケート対象外）についても教員独自に同じ質問内容で無記名のアンケートを行ったところ（webclassのアンケート機能）、自由記述欄に、前回課題について冒頭で全体にフィードバックした点、他の受講生の解答をみて考えを深められた点がよかったとの声が多くありました。Q2では約100名がオンラインで参加する授業であるため、授業中の丁寧なフィードバックは冗長に感じられるかともおそれましたが、むしろその点を評価する感想をもらえたことは新鮮でした。オンラインで、ウェブクラス上での電子的な資料共有がしやすかったことも有効にはたらきました。今後にいかしていきたいと思います。

人文学部 日本文化学科
金村　久美　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語の音声教育
授業コード　24C69-001
教員名　金村　久美
教員コード　104428
登録人数　8
回答数　4
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

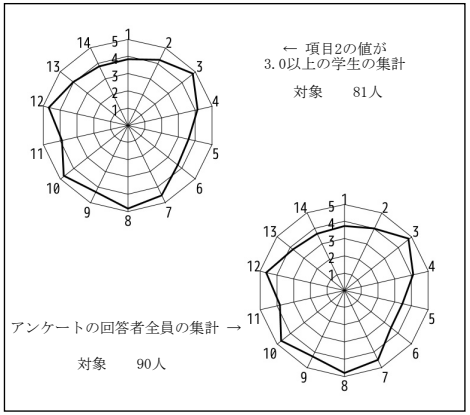
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この科目では、まず、日本語の音声教育に臨む姿勢や考え方を身につけることを重視し、ワークやディスカッションに参加し自身の考え方を話したり他の学生の意見に耳を傾けたることや、コメントで自身の経験や考え方を振り返ることを求めた。この点について、学生全員が趣旨を理解して積極的に参加し、意見交換のなかで自身の考え方を再確認する貴重な機会となった。この点について学生の参加姿勢を高く評価したい。
②自由記述に、授業が延長し次の授業に響くことがあったというコメントが複数見られた。この点については学生の不利益となったことを反省し、次年度以降改善する。
③難しかったというコメントもあった一方で、音声学についての最低限の知識については確認テストなどを行わず学生の自主的な学習に任せた。その結果レポートの取り組みは個人差が大きく、教育の実務を行う上での知識の習得という点では十分でなかった面もある。次年度は、今年度と同様にワークやディスカッションを通じて姿勢や考え方を身につけることを重視すると同時に、音声学の基礎知識の学習を、量を絞った上でわかりやすく効果的に行うことを目指したい。

外国語学部 英米学科
吉田　江依子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語の構造
授業コード	31E15-001
教員名	吉田　江依子
教員コード	103084
登録人数	238
回答数	90
回答率	37.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

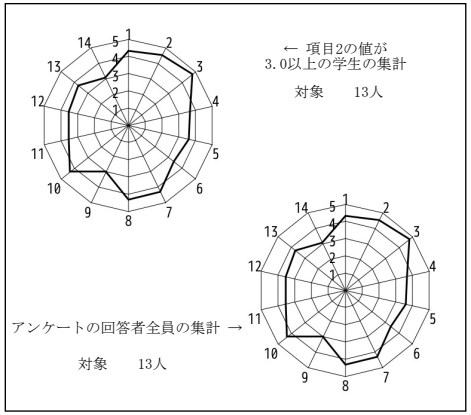
授業内容については、当初の予定通り進めることができた。但し、対面試験でその到達程度を測る予定であったが、コロナの関係で試験日直前に急にレポート課題に変更となってしまったために、予定をしていた到達度を測ることができなくなったことが非常に困った。感染対策を十分にしたうえであれば、当初の予定どおり、対面の試験を認めて頂きたかった。あるいはこのような変更が考えられるのであれば、初めからレポート課題しか認めない、などの全学への指針を次年度は大学側にお願いしたい。次年度は、途中で変更がないように要望する。

今年度は240名近い受講生がいたため、自由記述等をみると意見が両極に二分されていることが特徴的であった。質問に対する対応を評価する学生と、批判する学生がおり、これはおそらく、授業についてこれる学生と、授業内容が難しくてついてこれない、という意見とリンクするのではないかと分析する。次年度の対策については、授業内容についてこれないことがないよう、復習の教材や参考文献をさらに紹介して、授業外学習の内容を充実させるなどの工夫をしてみたいと考える。また、授業の録画について評価されていたので、次年度も授業外学習の手助けのために授業の録画をすることを考えたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
VILLALOBOS Antelma　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語VI＜H（Q2海外プログラム参加者用）・F＞2
授業コード	11D06-005
教員名	VILLALOBOS Antelma
教員コード	101011
登録人数	25
回答数	13
回答率	52.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



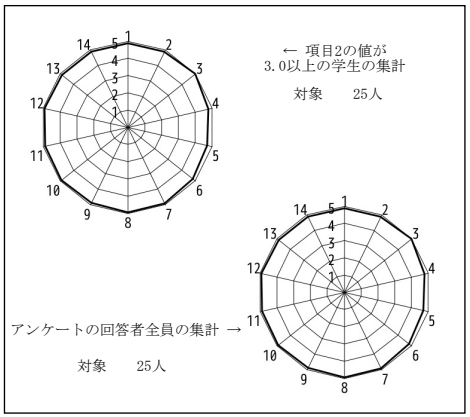
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a good evaluation from the students and their comments were all positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the trimester.
As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.
In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.
Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
古川　亜矢　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級スペイン語ID2
授業コード　32A16-002
教員名　古川　亜矢
教員コード　101179
登録人数　26
回答数　25
回答率　96.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



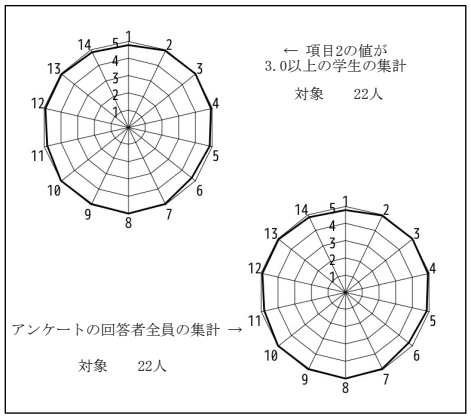
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的にまずまずの評価を得られたことから、授業目標は概ね達成できたものと判断しています。なかでも、新しい知識の習得と理解の深まり（設問13(4.88)）と全体の満足度（設問13(4.88)）で、比較的高いポイントを得られたことを大変嬉しく思います。自由記述欄には、単語テストの実施がよかった（10名）、豆知識や体験談がよかった（5名）、発言やアウトプットの機会があった（2名）、教科書に載っていない表現も学べた、１年生の復習ができた、ディクテーションがよかった、質問がしやすかった、集中力を切らさない工夫があった（各1名）などのコメントが寄せられました。初めて担当する授業でしたので、今クウォーターは手探りで授業を進めていったというのが正直なところです。学生が何を求めているかを知る上で、今回のアンケートは大変参考になりました。次のクウォーターでも、評価が高かった単語テストを引き続き行い、集中力を保つため、単調にならない工夫をして授業を進めていきたいと思います。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ROJAS　ESPINOZA, Lorena　Sue　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　上級スペイン語IA1
授業コード　32A18-001
教員名　ROJAS　ESPINOZA, Lorena　Sue
教員コード　103464
登録人数　25
回答数　22
回答率　88.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標達成できたことにとても嬉しく思います。今後も同じ成果を維持していきたいです。

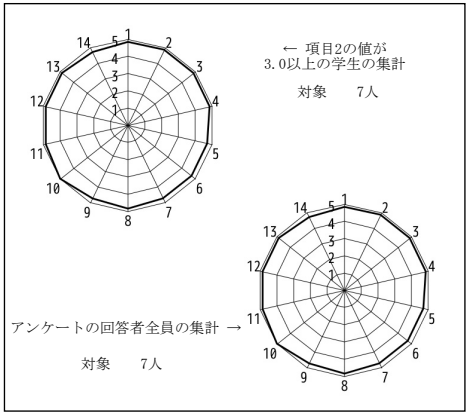
学習者にとって分かりやすい授業を提供し続け、学習者の立場にたった教授法を続けます。今後は、オンライン授業での学習方法をより良いものにしていきたいです。新しいプログラムの採用を検討しています。

改善箇所は、教材作成に新しいプログラムを採用し、インパクト及び一層理解しやすいものを作成します。新しいプログラムは、Illustratorです。できる限り休暇中に学び、それを生かした教材を学習者に提供できるように鍛えたいです。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
JAIME LAZO, Alan Christian 先生

2021年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IB3
授業コード 32A20-003
教員名 JAIME LAZO, Alan Christian
教員コード 103654
登録人数 19
回答数 7
回答率 36.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



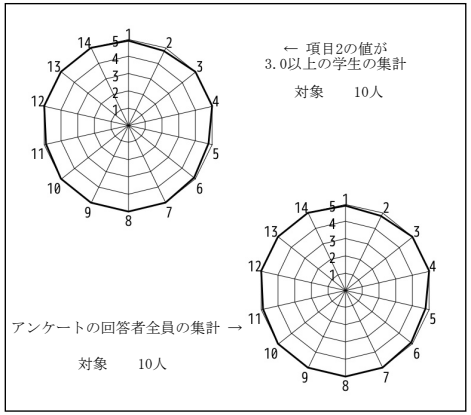
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course was to reach level B1 of the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). To this end the students have learned many conversational and useful expressions about description of objects, suggestions, and assessments so that we could strengthen the grammatical and vocabulary matters of learning. We aimed to solidify the basics and practiced it repeatedly. Although sometimes it was difficult to practice with uncommon expression, I think we got good results by using them repeatedly. Based on the Spanish we acquired during this spring bimester, I hope we can learn more in-depth Spanish communicative skills in the next fall period. By taking the Spanish group task, I was able to better assess the students' level of understanding and production. The opportunities fostered by the presented communicative functions and the challenge due to the use, beyond scholar scenarios, will allow to keep and integrate the acquired strategies about many linguistic and cultural problems. I also consider these potential users have the competences to participate actively in various contexts. The course also has stressed that the diversity of Spanish language is a tool to many ways of specialization, so it means a useful resource that shows some possible applications such as economic development or technical progress.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
エルビーニア ユリア 先生

2021年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語通訳法I
授業コード 32D08-001
教員名 エルビーニア ユリア
教員コード 102926
登録人数 10
回答数 10
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



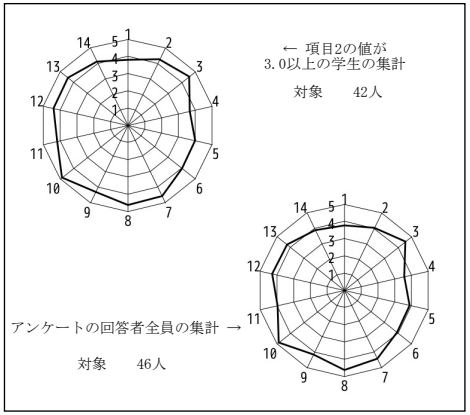
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度Q1は対面式で開講できたものの、コロナ感染再拡大で最後数回はオンライン講義に切り替わり、学生の皆さんと対面での仕上げの授業ができなかったことが心残りである。
講義開始時と比較して、受講学生のスペイン語聴解力、理解力、およびスペイン語、日本語両言語での表現力や通訳実技に関する知識およびスキルの上達が見受けられ、授業目標は達成したと思われる。また、多岐にわたるテーマ（時事、社会、ビジネス、医療、スポーツなど）についての知識も深まったことが確認できる。
通訳理論を交えながら毎回異なるテーマの音源を通訳題材として扱った。時事・社会・環境問題からスポーツ・文化のテーマなど、幅広い分野を取り上げることで、あらゆるニーズに対応できたと思われる。また、複数のスペイン語圏地域の音源を利用することで通訳の難しさを感じとってもらうことができた。その他、会議通訳者としての講師自身の体験談を授業の随所で紹介することで学生の授業に対する意欲を高めることができた。スペイン語映画の紹介やスペイン人通訳者の一日に密着したドキュメンタリーはかなり好評のようであった。対面式授業の頃はロールプレイなどで参加型且つ実践的な授業を実施できた。次年度以降も、理論の学習に加えてこのような実践的なトレーニングをさらに取り入れたいと考える。

外国語学部 フランス学科
大嶋　えり子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランスの政治
授業コード　33A08-001
教員名　大嶋　えり子
教員コード　104502
登録人数　144
回答数　46
回答率　31.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①基本的に当初の目標どおり授業を進められた。

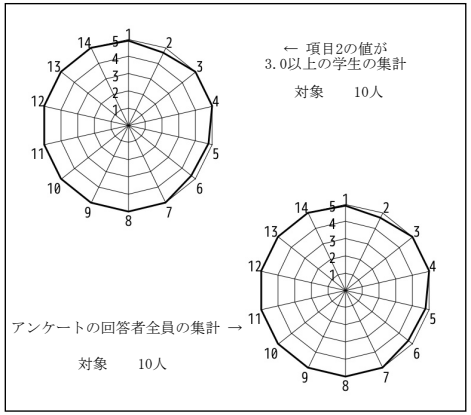
②フィードバックの時間を長めにとったことは学生の間で意見が割れた。他の授業ではあまりフィードバックがなされていないことや、遠隔授業であり、学生同士の交流が限定される、という点から、毎週充分に時間をとって、複数の履修者のコメントシートを取り上げて解説することは適切だったと考える。
批判的な意見に関しては基本的に「授業中、あるいはコメントシートの質問欄で質問をしてもらえば解決すること」だと考えられる。この点が最大の課題だろう。ただし、この授業で「物事を多角的な視点から見つめることができるようになった」などといった好意的かつ学部の方針に合致した意見も複数あり、初めて担当した授業としては及第点だと思う。ただし、履修者数に比して回答が少ないため有意なアンケート結果だったとは言えない点には留意したい。

③今後の課題は「質問があるのに、質問しない学生にいかに質問しやすい環境を作るか」ではないかと思う。オンライン授業は対面授業よりも質問しやすい環境を提供するように感じているが、それでもなおこのようなことが起こるため、今後のオンライン授業では工夫をする必要があるように思う。対面授業になった場合はさらに質問しづらくなる可能性があるため、他の教員の授業実践などを参考にしていきたい。

外国語学部 フランス学科
HERGOTT, Florian　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級フランス語IA2
授業コード　33A11-002
教員名　HERGOTT, Florian
教員コード　101725
登録人数　22
回答数　10
回答率　45.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



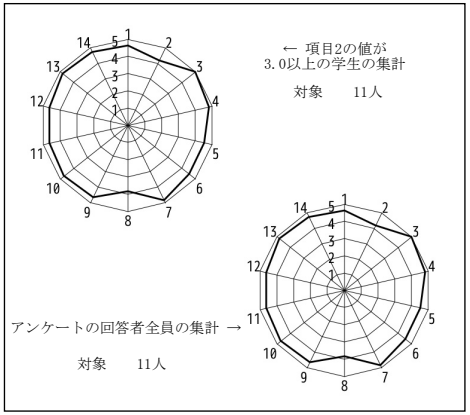
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives of the second year communication course were largely achieved. For those students who started their university studies online the previous year, the return to the campus was very motivating. Of course, there were some shortcomings, due to their first year at the university being disrupted by the health crisis. However, the enthusiasm of returning to campus more than made up for the shortcomings of the first year.
From the students' comments, I realise again that the time given for them to ask their questions is essential for them.
Even though the syllabus outlines the objectives of the course, when the lesson is structured around the students' questions, they become fully aware of their progress.

外国語学部 ドイツ学科
加藤　博子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ文学研究
授業コード　34A22-001
教員名　加藤　博子
教員コード　100480
登録人数　43
回答数　11
回答率　25.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



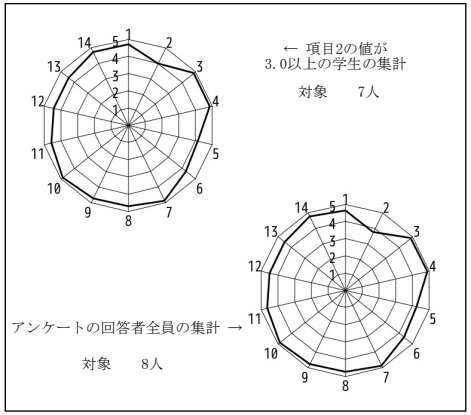
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業内容については当初の目標にほぼ到達しており、学生は興味を持って受講していたと思う。ただ他の授業との重複があるようなので、同じ学科内の他の授業シラバスを確認しておきたい。Q1は対面授業から突然オンラインに切り替わったことで、音声や映像資料の提示などに不備が起きていた。数値データでも自由記述でも、学生に不満が生じていたことが分かる。今後もそのような事態が再びあることを予測して、授業を計画しなければならない。特にマイクの品質が悪いために、音声が聴き取りにくい状況だったことは痛恨の極みであり、次年度に向けて急ぎ対処したい。できるだけその場で善処して、学生の意見をオンライン授業の質の向上に努めていきたい。ただ非常勤の場合、学生からのフィードバックが得にくいので、毎週の提出コメントに受講環境に関する感想も書き込んでもらうようにしたい。なお、当アンケートの提出率が低いことが最も問題である。周知徹底に努めたい。

外国語学部 アジア学科
趙　晴　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I会話3
授業コード　35A11-003
教員名　趙　晴
教員コード　100960
登録人数　28
回答数　8
回答率　28.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



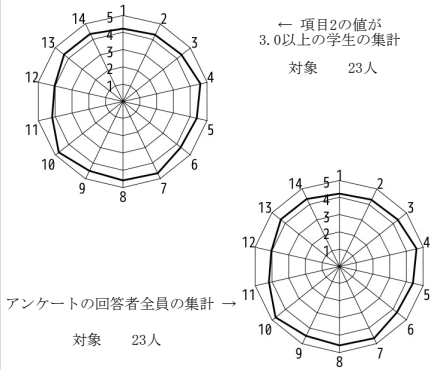
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果を見る限りでは、開講当初に設定していた目標にほぼ到達したと思います。
学生たちは明るく、よく勉強していました。講義の雰囲気がとても良かったです。まずは学生たちにありがとう、と言いたいです。
主に評価された点は以下の四点です：①教科書に加えて関連知識を教えてくれる。②丁寧に指導していた。③中国語ならではの言い回し、表現を理解できた。④先生が教科書に書いていない文法や知識をプラスアルファで教えてくださったので、とても身につきました。
評価してくれたことはたいへん嬉しく思います。学習することは楽しいことですが、楽なことではありません。学生たちと一緒に勉強し、日々成長していきたいと思います。
これからも学生たちの特徴に合わせて、講義の進み方や勉強の仕方などを考えて、いろいろ工夫しながら努力していきたいと思います。
学生たちの勉強する意欲を高めるために、もっといい方法を考えたいと思います。
共に頑張りましょう。

経済学部 経済学科
西本　和見　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学史A
授業コード　40D66-001
教員名　西本　和見
教員コード　104479
登録人数　91
回答数　23
回答率　25.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

以下、報告事項を各項目ごとに明記していく。
①目標と到達の程度について…授業内容は、最初に予定していた通りの計画で、シラバスに明記していた順序で目標に到達することができた。
②総合的な自己点検・評価…授業評価の結果を見る限り、本科目はおよそ好評価を得られたと思う。たとえば、「オンデマンドという変則的な授業形態でしたが、毎回配布される資料や先生の話すスピード、文字起こしの機能をつけてくださっていたことなど私たち学生にわかりやすいよう、対面授業と遜色なく、ましてやそれ以上にわかりやすくストレスなく講義を受けることができました。」ということなので、南山大学の学生に本科目の授業方法が受け入れられたのではないかと思った。
③改善点、抱負など…わかりやすい説明を心掛けたが、まだ難解な言葉があり、その説明がほしいという要望があったので、次回までに授業を振り返りたい。また、Q3もオンラインになるので、学生に受け入れられた点は引き続き継続していきたい。

経済学部 経済学科
NORTH Cameron　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　時事英語A3
授業コード　40E06-003
教員名　NORTH Cameron
教員コード　100400
登録人数　11
回答数　3
回答率　27.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course and the extent to which They were achieved.
The goals of the class were achieved. In order to improve Engllish communication skills, students must participate in the classroom. In addition, students must do the applicable homework. In most csses, the students did participate, and they did their homework. Also, students seemed to appreciate the class as their efforts allowed them to increase English abilities.

An overall self-assessment and self-evaluation of the subject you are in charge of based upon the numerical data and the comments etc.

Thank you to all students for practicing and studying English. The majority of students tried to improve their English in class and by doing homework. A few students put in less effort. I think the pairwork system and homework study style greatly helps students that put in the effort. Overall, I am happy with the class results.

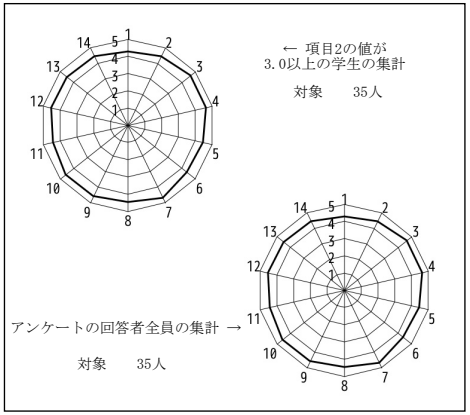
Thinking ahead towards the next quarter or semester, improvements, aspirations or specific measures etc. you will take.

In the future, I can try to explain more clearly. I can also try to improve the motivation for students that do not try very hard. Overall, there is not too much to change. Of course, it is always important to motivate all students.

経営学部 経営学科
余合　淳　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人事管理論A
授業コード　42C27-001
教員名　余合　淳
教員コード　103585
登録人数　127
回答数　35
回答率　27.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



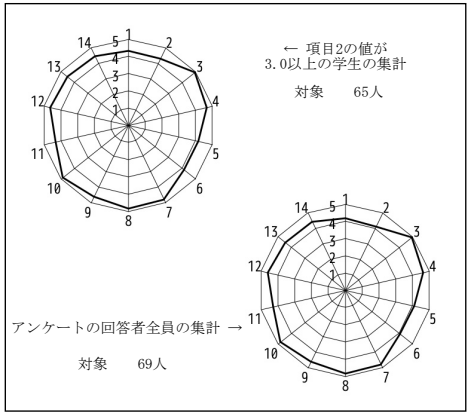
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義の目標は，企業に代表される組織と人のかかわり方，特に組織側の視点に立ち，組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて，体系的に理解することにあった。講義では，通常消費者，あるいは労働者として接する機会の多い企業におけるマネジメントについて，特に人材マネジメントについて，企業の経営者及び人事部門からの視点を重視した。レポート及び期末試験の結果からは，概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
②数値データ全体の平均値は，経営学科平均値より0.3程度高い結果であった。特に項目２，４，５，７，９，１１，１２，１３，１４については高く，主体的な授業参加，到達目標の理解，教員の取り組み姿勢，理解度への配慮，質問の機会といった側面で評価されている。
③数値の低いものとして予習復習と到達目標の理解が挙げられる。講義の中で到達目標を具体的に明示するような形をとっているが，その到達目標を達成しているかを学生がより確認しやすい形をとるような仕組みを検討する。特にオンライン下では興味を持った主体的な参加については過去と比較して難しい側面があるため，投票や匿名でのコメント機能など，導入済みのものを含め，学生の主体的な参加の方法について再度工夫を検討する。

経営学部 経営学科
藤川　なつこ　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営管理論A
授業コード　42E03-001
教員名　藤川　なつこ
教員コード　101618
登録人数　297
回答数　69
回答率　23.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



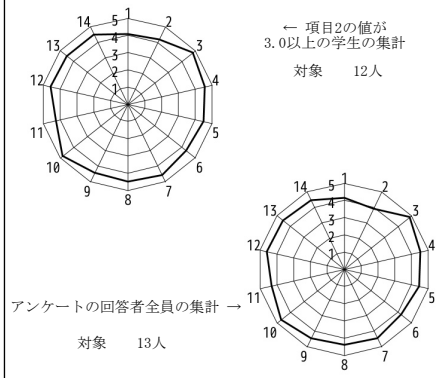
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、①経営管理論の理論的内容を理解した上で、②現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、③現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価の設問13の回答の平均値が4.45、設問14の回答の平均値が4.42であることからも、学修目標を概ね達成できたと判断できる。また、設問２を除く全ての設問項目で学科平均以上の高い評価を学生から得ることができたが、これは以下の点に心がけながら講義を進めたことによるものであろう。
①グループディスカッションの実施
単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、毎週グループディスカッションを実施し、講義内容について学生間で考える時間を提供し、理解を深めるようにした。
②学生からの質問への対応
講義後にチャットに質問を書いてもらうということを毎回行った。また、そこで出た質問に対しては、全体に対してその都度回答した。このことによって疑問と答えの共有を進めることができた。
以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生間の共同学習の場を設けることによって学生とともに講義をつくり上げていったことが、学生からの「多くの授業がオンラインになり生徒同士の関わりが少ない中で、オンライン授業でも毎週グループディスカッションの時間を設けていただき多くの人と関われて良かったです。」という評価に繋がったと考えられる。
しかしながら、課題として①インプットとアウトプットの時間配分および②授業外の自主的な学習意欲の喚起が挙げられる。
以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるよう次クォーターはさらなる努力をしていきたい。

経営学部 経営学科
塩川　順久　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(電子・電機産業論)1
授業コード　42F03-001
教員名　塩川　順久
教員コード　103587
登録人数　41
回答数　13
回答率　31.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

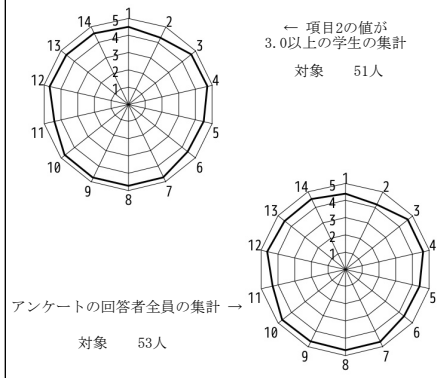
学生評価の数値：１－１４の設問に対し全体平均4.39に対し私の講義は4.43、3－14に対し全体平均4.43に対し私の講義4.50と平均以上で良かった。
設問２の「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」について、3.92と低く、この
　傾向は毎回あるので、事前の予習の在り方（資料の講義前の読み込み）を今後工夫したい。
学生のコメントで、一回の講義内容が濃すぎて理解が難しい、講義での説明が話し言葉でなく事前準備の原稿を読むので理解が難しいとあった。
　次回には改善して行きたい。
5月17日・24日と急遽オンライン講義になってしまい、講義の準備にバタバタと苦労してしまったが、事前に的確に準備していきたい。

塩川順久

法学部 法律学科
村林　聖子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ジェンダーと法
授業コード　44C26-001
教員名　村林　聖子
教員コード　102382
登録人数　210
回答数　53
回答率　25.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



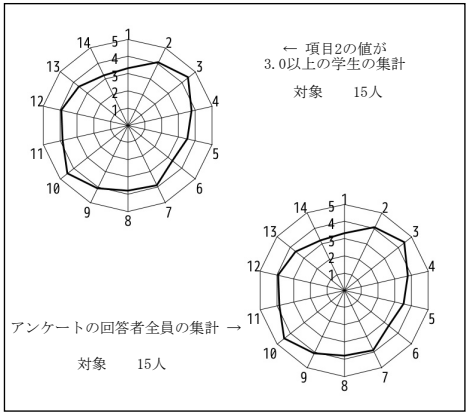
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① Webclassで受けつけた質問等やレポート内容から、2つの到達目標は一定程度達成できたと思われる。
② 設問項目のうち、平均値が最も低い項目は２（主体的努力）4.16、高い項目は８（教員の声など）4.70、講義全体への評価である項目１４は4.51であった。また自由記述である項目１５（良かった点）には15名、項目１６（困った点）には2名の記入があった。受講者数216名のうちアンケート回答者数は53名、全体の24.5%の回答結果であるが、積極的に受講したであろう履修者から肯定的な評価を示されたことは率直に喜びたい。昨年度の反省をもとに行った配布資料（PDF）の充実、レポート課題の早期提示、質問・感想等への回答時間の設置は、次年度以降も継続する。
③　項目５（到達目標理解：4.45）、項目６（到達目標の達成力：4.38）、項目１１（学習意欲向上：4.34）は比較的低い評価であった。2021年度はWebclassで質問・感想を受け付け、次回講義の冒頭で回答・コメントしたが、双方向のやりとりを増やす工夫をしたい。また、項目１６に①「レジュメの枚数が多く、経済的負担が大きかった」、②「（録画の公開はありがたかったが）2時間以上の動画となるため、途中で読み込み停止することがあった。3限分と4限分で動画を分けると、より視聴はしやすいと感じた」という記述があった。検討し工夫したい。

総合政策学部 総合政策学科
Jean Claude AHWENG　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策英語I6
授業コード　46F01-006
教員名　Jean Claude AHWENG
教員コード　104148
登録人数　37
回答数　15
回答率　40.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



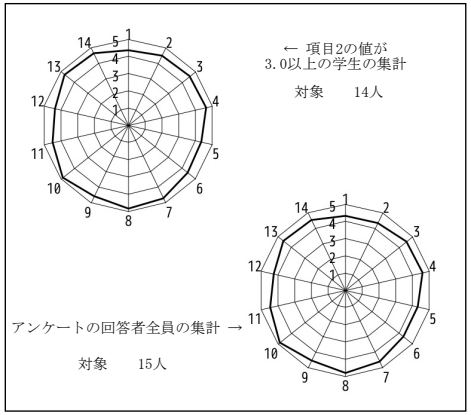
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Based on the feedback from students and tests, the teacher thinks that: (1) The goals of the course were achieved. (2) Good teacher-student communication allowed the teacher to effectively deliver the contents of the course. (3) Future classes will incorporate latest international issues.

総合政策学部 総合政策学科
東田　明　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境会計論
授業コード　46N13-001
教員名　東田　明
教員コード　101591
登録人数　63
回答数　15
回答率　23.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



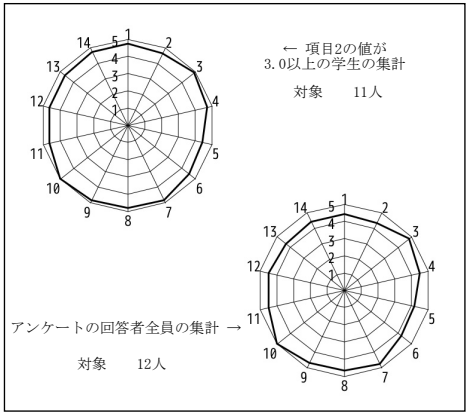
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全ての質問項目の回答が４点台であり，概ね良い評価を得ており，本授業の当初の目標に沿った準備が学生にある程度受け入れられたものと理解することができるだろう。ただし，質問などのフィードバックの機会については4.2であり，他の項目と比べると低い。授業内でzoomのチャットなどを用いて質問した学生には，全員の学生に伝わるように口頭で回答するなど工夫したが，質問しやすい環境づくりが必要だと感じた。また「理解できた」，「力がついたと感じる」もともに4.3であり，学生自身が理解が深まったことを実感できる機会の創出が必要であると感じた。その一方で，webクラスの掲示板を利用して意見を書かせることを毎回の授業で実施したが，一部の学生からはこれのおかげで能動的に授業人取り組むことができた旨の意見があった。基本的には少レポートの代わりに用いたものであるが，教員がリアルタイムに学生の回答を見ることができるため，学生が回答しているその場で，一部の回答についてコメントを述べることができる点は良かったと思う。
今回はzoomでの授業であったため可能になった部分が，今後，対面の授業でも同じようにできるかという課題はあるが，今回の評価を次の機会に生かすことができるように努力していきたい。

総合政策学部 総合政策学科
曽場　七恵　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　公会計論
授業コード　46N15-001
教員名　曽場　七恵
教員コード　151236
登録人数　28
回答数　12
回答率　42.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この講義では、企業ではなく公的組織に関する会計について取り扱うため、これまでに履修してきた会計科目との違いを理解すること、そして公会計は自身の生活に深い関係があるということ、この２点を目標に掲げていました。企業会計に関する知識を持つ学生は多く、公会計との違いを講義資料を参考に自ら導き出すまでに至ることもあるほどでした。そのため、資料をもとに自身の気づきや感想をまとめてもらう課題レポートを課す機会も多くなりました。

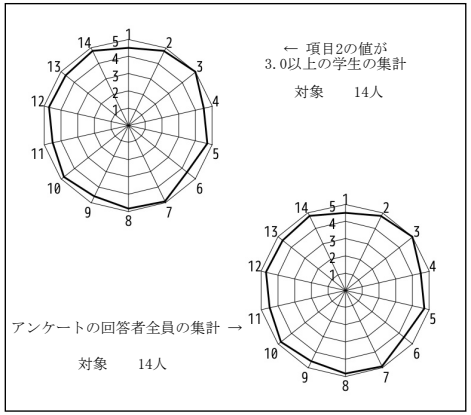
②講義資料はPowerPointで作成したものと各省庁がHPで掲載するPDF資料の２種類を提供しました。すべてがオンライン（zoomミーティング）かつ２コマ連続の講義であったため、飽きのこないよう各資料を用いた調べ学習、解説の時間、講義後半に小レポートをまとめるという時間を分割して用意しました。その構成に関し、アンケートでも評価を得られたのでこの方針で今後も展開したいと考えます。

③自由記述のアンケートにおいて、資料の配布は講義日の朝に行っていましたが、前日までにアップロードして欲しいとの要望がありましたので、今後の講義において考慮し改善できればと思います。また、この講義では学生にも関わりの深い税についてのテーマが多く登場します。その適切な使い道や政策についての意見を学生同士で交換できるような機会を設けられるような講義展開を考慮したいとも考えます。

国際教養学部 国際教養学科
VILLANUEVA, Camilo　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English V5
授業コード　48A09-005
教員名　VILLANUEVA, Camilo
教員コード　104441
登録人数　20
回答数　14
回答率　70.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



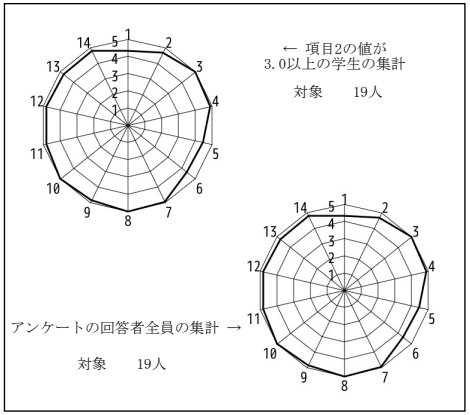
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①The goals were for the students to increase their speaking, critical thinking, research, and debate skills. English was not explicitly taught, but debate skills and strategies were employed in order to achieve the goals. Most, if not all, improved in these areas. This was done by lots of practice and peer review. Students also did two reflective short essays.
②I challenged the students, but I found that many did not see how free writing helped their debate skills. There was not enough formative assessment so that students could not see their progress clearly. Students learned mostly research skills and this helped their debates. Students also got used to speaking in front of people and this helped their confidence.
③I would make the following changes:
-Use Webclass for all of their assessments so that students can access their scores directly.
-Instead of freewriting, I would ask students to keep a “research diary” in English so that they could keep track of their progress in research and take note of their steps
-Spend more time practicing rebuttals, which were the most difficult part for students
-Focus more on critical thinking and create a summative assessment to test such skills and to complement the debates and reflective essay at the end
-Teacher should participate in the debates

国際教養学部 国際教養学科
GIBBON, Benhanan　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English V8
授業コード	48A09-008
教員名	GIBBON, Benhanan
教員コード	104318
登録人数	21
回答数	19
回答率	90.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①Expectations were set fairly high at the start of the course. Students, mayhap unfamiliar with debating in English, all faired beyond expectations. It was excellent to see some individual leadership during session that required feigned confrontational discourse. These exemplar students helped raise the entire ability of the class. The goals set out in the course syllabus were surpassed by this group — particularly with regards to collaborative sense-making.

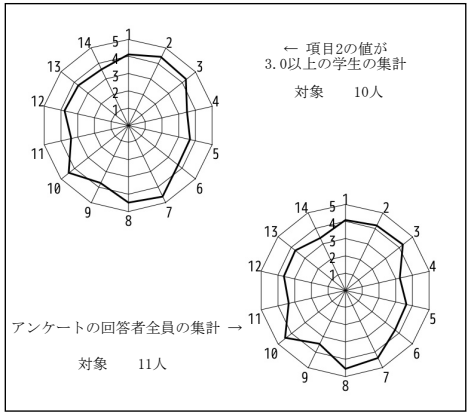
②Seemingly, the overwhelming majority of students seemed satisfied with the learning experience they received in the course (having all scores in the range of 4.3-5.0). Due to Covid-19, I believe the delivery style could have improved had circumstances been different. I would have employed more active-learning activities to encourage enhanced autonomous thinking.

③Moving forward, student-voice could be incorporated into the process of debate topic selection, further still, more talented and able students should be encouraged to join country-wide debating competitions given the chance arises.

国際教養学部 国際教養学科
BALLESTEROS, Donna　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Communication7
授業コード	48A10-007
教員名	BALLESTEROS, Donna
教員コード	104319
登録人数	20
回答数	11
回答率	55.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal was to give them an opportunity to improve their language skills - listening, speaking, presentation, writing, and note-taking skills) and critical thinking. I was trying to balance these by alternating lecture and discussion, and giving them an opportunity to pursue topics of their interest through presentations and reflection essay. In terms of content and skills that they need to learn, I was able to achieve these judging from improvements in their homework over time, and the improvement in their confidence level as they participate in class. At the end of the semester, I also received feedback on how class recitations and discussions made them nervous at first but it pushed them to prepare well. In the evaluation results, however, there was one comment on the way I would tell stories without presenting. I am not sure if I understood it correctly given that the original statement was in Japanese. I always used presentation slides to explain each SDG goal and target in class.

There are two areas I need to improve on for this course. One is on the administrative matters, and another is on the homework. During the quarter, I had to miss a class and set make-up classes for all the subjects I taught. I did not consult them on the schedule which led to reschedules. As I've learned from their feedback, I also need to be informed way ahead about the requirements they have to submit. I mistakenly thought that letting them know way ahead would be overwhelming for them. On the homework, I need to lessen their homework as I have overestimated the students' abilities.

国際教養学部 国際教養学科
石川　美紀子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLSアカデミック・ジャパニーズIII
授業コード	48A14-001
教員名	石川　美紀子
教員コード	104482
登録人数	5
回答数	3
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は「日本語の文献を読解し、自分で意見をまとめられる」「調査・分析結果を、適切な日本語でプレゼンテーションできる」「調査・分析結果を、適切な日本語でレポートにまとめられる」という3点であった。この点については、受講生個々人の能力にばらつきはあるが、概ね到達できたと考えている。

②5人という少人数のクラスで、ひとりひとり丁寧に指導ができた点は良かった。受講生が置かれているそれぞれの状況に合わせ、トピックを選択できたことも好評だったと思う。ただ、各々の日本語力に相当な差があることもあり、受講生同士の質疑応答や議論はじゅうぶんに成り立たない場面も多々あった。特に、表現や内容、論理性の問題点を受講生同士で解消するという段階に至るには相当な困難が伴っていたように思う。

③以上を踏まえ、全受講生が大学での学習に必要な上級レベルの日本語を運用できるよう、個別での丁寧な指導と受講生同士の質疑応答や議論の双方をさらに充実させていきたい。

共通教育 仏語
VURPILLOT, Xavier　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IB3
授業コード	33A14-003
教員名	VURPILLOT, Xavier
教員コード	104503
登録人数	20
回答数	3
回答率	15.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course was to continue improve the students' understanding of the french language. The course focus on developing all communication skills : writing, reading, listening and speaking. To this purpose, we studied the units 1 to 3 in the textbook "SAISON 2". All 3 units were covered during the quarter.

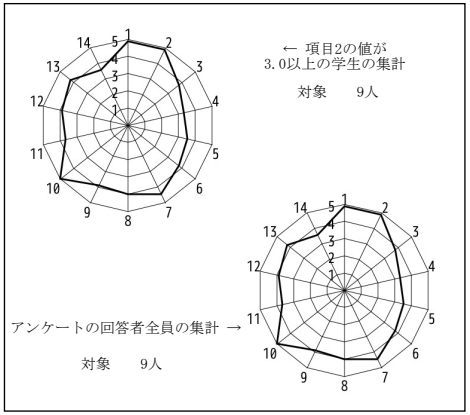
Regarding the self-assessment and self-evaluation, only three students answered the questionnaire so it would be hard for me to comment on that ; instead, we are going to comment on the course and the class. Though, one student commented that it was nice of me to go back on things we did in previous classes when they didn't understand it, so I will continue doing that.

Concerning the next quarter, it might be positive to the students speak more even if we don't cover all the activities of the lesson in the end.

共通教育 仏語
村田　ひで子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級フランス語文法I2
授業コード　33A17-002
教員名　村田　ひで子
教員コード　100665
登録人数　31
回答数　9
回答率　29.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



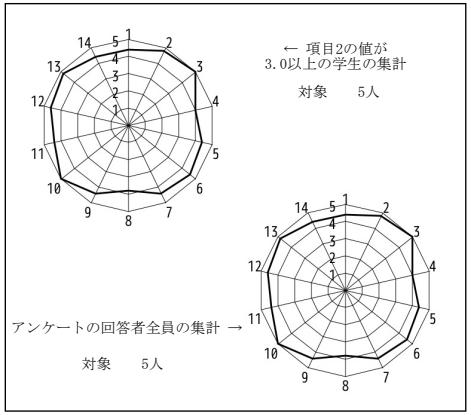
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期はコロナのせいで対面授業からハイブリッドになったり、Zoom になったりで、こちらもとまどったが、学生達も大変だったことと思う。フランス語の2年目のクラスなので、力のついている学生とそうでない学生でけっこう差があったが、全体的に文法力が弱かったので、基礎文法の復習から始めた。特にフランス語の場合は動詞の「法と時制」の体系の理解と活用の習得は大切なので、動詞の説明に力を入れた。動詞の活用の小テスト（合格するまで再テスト）は概ね好評だったようで、「小テストで理解を深めることができた」等の感想が複数あった。途中でZoom になってしまったので、小テストは予定の半分しかできなかったのは残念である。「理解度配慮」に関しては、授業の進行についてくるのに苦労している学生がけっこういたようなので、注意を払っていたつもりであるが、逆に「進度が遅かった」と解答した学生もいた。１年次の学習でもれていた箇所を適宜補いながら授業をしたが、授業のレベルをどの辺に置くかは難しいところである。「新しい知識や理解の深まり」の項目は評価されているようなので、Q３の後半に向けて積極的に学習を進めていって欲しいと思っている。

共通教育 独語
橋本　悦子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級講読A
授業コード　34C01-001
教員名　橋本　悦子
教員コード　101178
登録人数　26
回答数　5
回答率　19.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



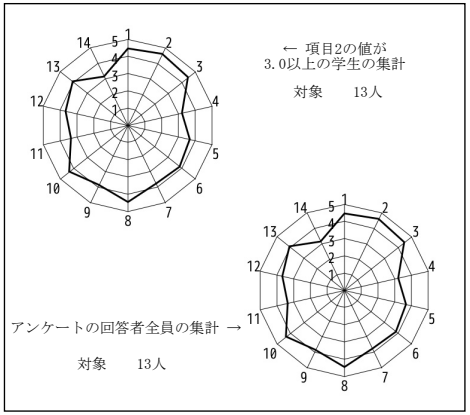
授業評価結果を踏まえた点検・評価

初めて担当するドイツ学科の2年生の授業。ドイツのニュースを通して文法強化・読解力向上を目指した。量的には当初の目標に達することはできなかったが、受講生一人一人の理解度を見ながら授業を行ったつもりである。設問８がやや低い評価になっているが、これはオンライン授業の際に何回か音声、画像のトラブルがあったためである。他はまずまずの　点数だったと思う。自由記述でも「分かりやすい」、「説明が丁寧」、「直訳と意訳の両方説明があった」、「読解力がついた」など、ポジティブな評価が多かったのでホッとしている。　週２回の授業で課題も多く予習も大変だったと思うが、毎回熱心に質問する受講生の姿も見られた。　真面目に取り組んだ受講生には「力がついた」と実感できる授業になったのではないだろうか。さらにインターネット等で最新のニュースにチャレンジして力を伸ばしてほしい。「進度が少し速かった」の声も少し聞かれたが、今後の専門授業のためにもこのスピードに慣れるよう各自の努力が必要だと思う。
中テストや定期試験の結果では文法理解に予想以上のバラツキがあったので、次回は文法復習にもう少し時間をかけた授業を行いたい。

共通教育 西語
APAZA, Pablo　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLSスペイン語III
授業コード	48A23-001
教員名	APAZA, Pablo
教員コード	100878
登録人数	48
回答数	13
回答率	27.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The Spanish III is the last level at GLS, so students need to use all the things that they learned from the beginning, most of them did a good job and they had a good performance until the end. That’s why 90 % of students achieved the goals of the Spanish I, II, and III.

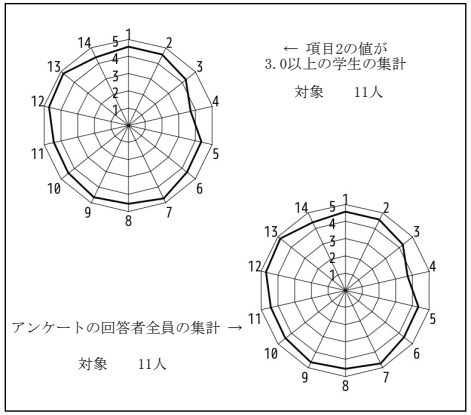
During each class, we did our best to make it easy the language for the students, giving them lots of time to speak up with different classmate all the time in Spanish, after the explanation of each activity, which most of them understood properly, especially students who did their homework’s diligently. Few students were sometimes confused because were absent at the previous class or didn’t attend the grammar class, etc., those students had hard time to understand specially using the different kinds of past tense in Spanish, so next term we will be a little stricter with those students from the beginning, because sometimes some good students they don’t want to work with them.

For the next quarter we will try to emphasize more personal learning of the students, because when we give examples of conversations, students just try to memorize those conversations instead of creating their own conversation as the teacher ask them, because on real life conversation, the person talks different topics and time, like in present, future and past tense mixing them in different moments.

共通教育 ポルトガル語
丸山　めぐみ　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境と倫理問題3
授業コード	13D01-003
教員名	丸山　めぐみ
教員コード	038919
登録人数	20
回答数	11
回答率	55.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



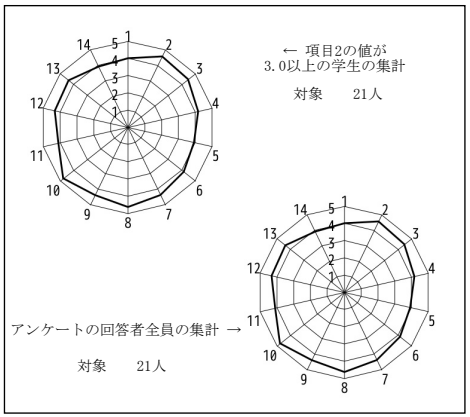
授業評価結果を踏まえた点検・評価

おおむね目標は達成できた。授業参加を重視し、さまざまな環境問題を独自で調査してもらい、倫理的な問いかけをすることを積極的に学んでもらえたのではないかと思う。学生のグループプレゼンテーション、それに対するクラスの評価、また、毎回講義内容や関連するビデオの各自の感想文を提出してもらうことによって、学生一人一人の貴重な意見を知ることが出来た。学生のパワーポイントの使い方が徐々にレベルアップされてきており、プレゼンの仕方もそれとともにうまくなってきている。途中、コロナで非常事態宣言があり、オンライン授業に切り替わり、半分の学生がプレゼンの代わりにレポート提出を余儀なくされた。学生の中には戸惑っている方も少なからずあったが、無事に乗り切ることが出来た。授業評価の良かった事として、「環境問題は温暖化と公害だけではなく、マスコミに取り上げられていない、または取り上げられなくなったものも多々あるということが理解できた」という点。授業の改善すべき点として、「教員の自宅から繋ぐ場合はスムーズであったが、教室からオンライン授業を行う場合は、機材の違いで情報センターのスタッフにも解決できない問題が生じることもある。」という事で、改善策としては15講義分の授業全てをYouTubeに前もってアップした。それでも、学生にとっては授業時間内に講義を収めて欲しいということであった。今後はリモート授業についてもっと精進していこうと思っている。

共通教育 中国語
吉田　仁　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国の現代事情2
授業コード　35B04-002
教員名　吉田　仁
教員コード　100947
登録人数　53
回答数　21
回答率　39.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



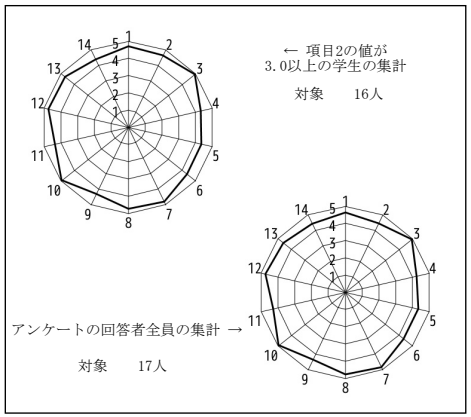
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の【到達目標】は「中国の最新状況について一定の知識が身に付いている」、「比較的長い中国語の文章が読解できるようになる」、「中国語の自然な発音で音読できるようになる」である。新型コロナの影響でG26というすり鉢状の広い教室での授業となり、学生が広範囲に分散して受講していたため、学生一人一人に課文の音読と日本語訳を発表してもらったが、声が聞き取りにくく苦労した。各設問でも設問2、設問6以外はすべてアジア学科平均を下回ってしまい惨憺たる結果となってしまった。但し設問6の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」ではアジア学科平均をわずかに上回っていたので安堵している。緊急事態宣言後オンラインでの授業に切り替わったが、この授業は指定の教科書の課文以外に、教員の興味を引いた内容を印刷教材にして受講生に翻訳してもらった。しかし学生の反応は今一つであった。現在でも欧米諸国を中心に非難されている内容だけに学生も興味を持つだろうと思っていたが、あまり反応は芳しくなく、改めて教員と学生との間のギャップを感じた。この点については今後の課題であろう。

共通教育 中国語
陳　志平　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語作文A
授業コード　35C10-001
教員名　陳　志平
教員コード　049346
登録人数　19
回答数　17
回答率　89.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業評価集計」によれば、設問３（授業時間）は4.94、設問７（誠実さ・真剣さ）は4.82の平均値となっており、これらは教員として果たすべき基本責務であるが、授業姿勢とその努力が評価されて率直に嬉しい。また、授業運営に関する設問12（質問・相談）、全体的な評価に関する設問13（新しい知識と理解）・14（満足度）、そして設問３～14の平均値がいずれも「アジア学科」を上回ることができた。今学期もコロナの影響で授業形態が途中から切り替えたりしていたが、今の数値データ及びレーダーチャート等を見る限り、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。　今学期も過去の経験と教訓から、学習内容・方法に於いて主に下記の点を中心に改善を図る努力をした。①教科書を使用せず、作文の題材・テーマについては、参考例を提供して（タイトル30）自分の日常にまつわる事柄やそれに対する考えを中国語で自由に作文を書く。②徹底した添削指導ならびに発表（一人あたり2回）・指摘・質疑応答などを定例化して実施する。③作文の添削例示や講評、文法演習などはできるだけPCにて画面共有しながら行う。④文法演習テーマとしては、アンケート調査で最も多く（52.6%）の学生が一番難しいと回答した「動態・語気助詞“了”」と「補語全般」との2項目を取り上げ徹底指導を試みた。今思えば、特に文法演習を学生の希望通りの内容に絞って行われたことは一定の効果を得たように考えるが、やはり学生によって、実力は勿論、学習意欲も大きく異なる。「今まで学んできたことの中で、苦手としている部分をアンケートし、そのアンケートに基づいて問題演習やプリントを配ってくださった」、「実践がある」と認めてくれた学生もいれば、「初めて長文の作文をしたので、私にとっては難しすぎました。出された問題も非常に難しかったです。」と不満を言う学生もいる。　次学期からも、学生の現状を冷静に把握し、実力に即したバランス調整や学習意欲の喚起を課題として、引き続き改善に向けて適切な対応を図りたいと考えている。

共通教育 インドネシア語
PRILYASINTA, NiWayan　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLSインドネシア語III
授業コード	48A29-001
教員名	PRILYASINTA, NiWayan
教員コード	152576
登録人数	11
回答数	4
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

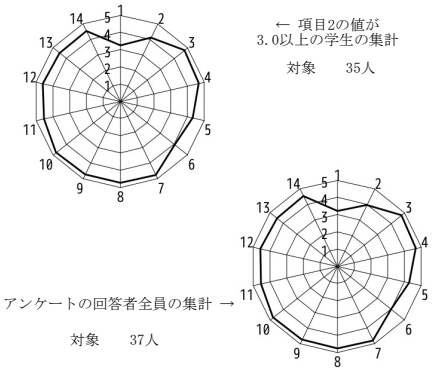
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think I have explained the goals at the beginning of the class. During each topic, I also tried to create specific goals, write them on the whiteboard, so it would be easier for students to see whether they are improving or not. I am glad to see the overall self-assessment and self-evaluation of the subject I am in charge of based upon the numerical data and the comments of the students. In the future, I would like to create a simple evaluation method to gain students' opinions regarding my teaching and the quality of the lesson.

共通教育 共通
暮林　響　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[B]2
授業コード	10A51-013
教員名	暮林　響
教員コード	102624
登録人数	150
回答数	37
回答率	24.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　一度の授業内で予定されていたところをすべて教えきることが出来ないことはありましたが、次の授業で継続して講義内容を進めたので、シラバスで提示した範囲をすべて教えることが出来ました。

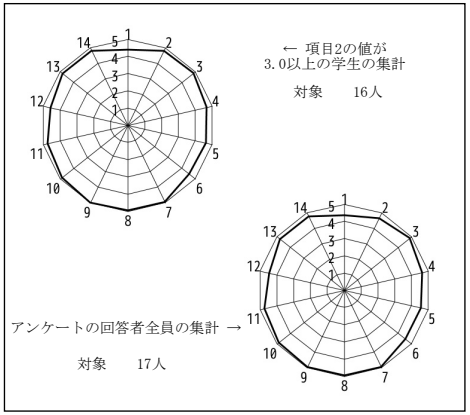
②　頂いたコメントで、敢えて否定的と呼びうるものは「ちょっと話が現実的ではなく難しい」というコメントのみでしたが、この点については扱っている人物と時代のこと、表現方法の過去と現代との差、信仰というテーマそのものの持つ難しさだと思います。ですので「自己評価」の観点からすれば、その難しい問題を、なるべく現代の青年たちの現実に近いものになるよう、かみ砕き、例もたくさん挙げて扱いたにも拘らずこうしたコメントが出てくるのは本質的に扱う題材そのものの性質だと思っています。いずれにせよ、準備に手を抜いたことはないですし、リアクションペーパーも毎回140人＋α　分全員に一つ一つ返答しましたし、自分に高評価を与えるのもおかしな話ですが、誠実に高度な講義をしたと思います。それが学生たちの評価に反映されていると感じます。

②③　とはいえ、上述の指摘も踏まえ、今後もさらにかみ砕けるよう努力します。体験談、レジュメ、映像資料、音声資料、リアクションペーパーへの返答などが高評価のポイントになっているので、今後もこの点を大切にしようと思います。

共通教育 共通
山口　宏　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　思想史に学ぶ人間の尊厳2
授業コード　10D03-002
教員名　山口　宏
教員コード　101552
登録人数　63
回答数　17
回答率　27.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

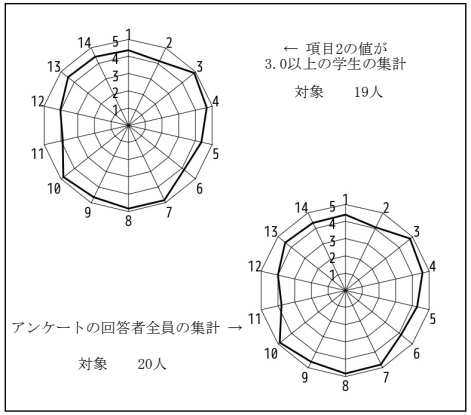
まず、授業終盤に対面からオンラインに切り替わりバタバタしたためもあるのか、回答数が少なくなってしまい、回答が意欲の高い学生に偏っている可能性もあり、そこは注意しておきたい。
そのうえで、全体的な満足度（問14）をはじめ、全て通して高い値となっていて、よかった。新たな知識や理解の深まり（問13）も比較的高く、毎回の記述もほぼ全員しっかりとしてくれていて、授業としての目標は達せられたかと思う。
「声の聞き取りやすさ」といったことは当然として、教員の授業への姿勢も、さまざまに挟んだ短い映像など教材の有効性も、肯定的に感じてもらえたようで、よかった（問7～9）。
自由記述も、こちらが恐縮してしまうような声が多いが、興味をもって取り組んでもらえて安心したし、授業の雰囲気も良くできたと思う。

昨年度はオンラインのみとなり、今年は対面とオンラインとなったが、対面のほうが反応も空気感も圧倒的に良く、基本的にはこのままで、さらに構成や教材も磨きをかけながら、来年度は安心して全て対面でできるようになることを願う。

共通教育 共通
大橋　真砂子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳2
授業コード　10D06-002
教員名　大橋　真砂子
教員コード　100233
登録人数　44
回答数　20
回答率　45.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



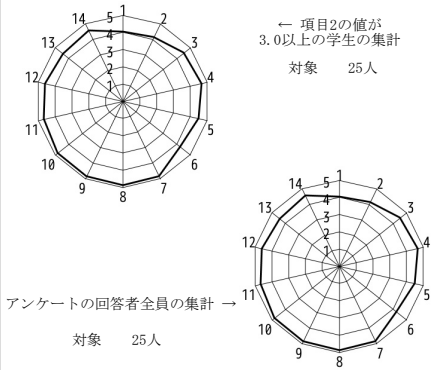
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、古代から近現代にかけてのヨーロッパの歴史をおおまかにたどりながら、生命や病、死などにまつわる様々な状況を史実としてとらえ、そのなかから現代における「人間の尊厳」とは何であるかを探ることをテーマとしている。また、「人間の尊厳」についての自分なりの考えをまとめて文章にすること、およびヨーロッパの歴史の流れを大まかに理解することを目標としており、このクォーターにおいてはほぼ達成できたと考えている。学生による評価はおおむね良好で、プリントやPowerPoint資料の準備および利用方法、ならびに遠隔授業時でのネット環境について、とくに問題はなかったようである。
対面授業期間中においてはまじめな学生が多く、また、小レポート（リアクション・ペーパー）でも、「新たな知見を得た」といった好意的な反応もしばしば見られた。こうしたことから、今後においてもこの授業の方向性は維持しつつ、提示する資料をさらに工夫することで、学生にとってもより積極的に参加できるような授業を志していきたい。

共通教育 共通
イン　シセキ　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文学A1
授業コード　12A03-001
教員名　イン　シセキ
教員コード　104270
登録人数　65
回答数　25
回答率　38.5%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初は、文学を通じて日本社会を考え、また日本の文化を国際的な視点で見直すことを目標としましたが、それは概ね達成できたと考えています。

そうした授業目標と内容の設定は、まず学生からも全体的に良い評価を受けたと考えています。また、自由記述の欄で、授業の構成や、学生とのインタラクトについて肯定的な評価も複数ありました。今後も積極的に学生とのやり取りを行い、学生が自由に意見を述べやすい雰囲気を作ると同時に、教員側から適宜専門的な視点を提示し、有意義な議論になるようにしていきたいと思います。

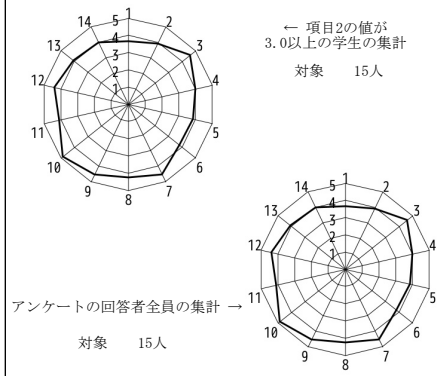
ほかに、授業の後に録画で何度も内容を確認できるように設定したことも、学習効果の向上に役に立ったようですので、今後ももメディア授業を行う場合、録画や様々なデジタルツール、デジタル資料を活用していきたいと思います。

改善点としては、授業内容を予定通りに教えるために、学生にクイズや課題を出したり、意見を書いてもらったりする時間がやや足りなかったことがあげられます。今後はよりバランスよく授業を組み立て、授業中も臨機応変に内容の調整を行い、学生の能動性を最大限に引き出せるようにしたいと思います。

共通教育 共通
渡部　展也　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　東洋史A
授業コード　12B05-001
教員名　渡部　展也
教員コード　103083
登録人数　47
回答数　15
回答率　31.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1．当初目標としていた点について、遠隔切り替えへの対応のため後半を要約する必要が生じた。広範囲で比較的長い時間軸の話を取り上げていたため、これらをまとめ分かりやすく伝えきれなかった部分が生じてしまったかもしれない。

２．数値データでは、講義目標に関わる箇所の数値がやや低かった。これは１．で述べた通り最終的なまとめ部分を要約せざるを得ず、あるいは十分理解しやすい形の説明に至らなかったためかと思われる。この点については３．で述べる形での改善をしたい。

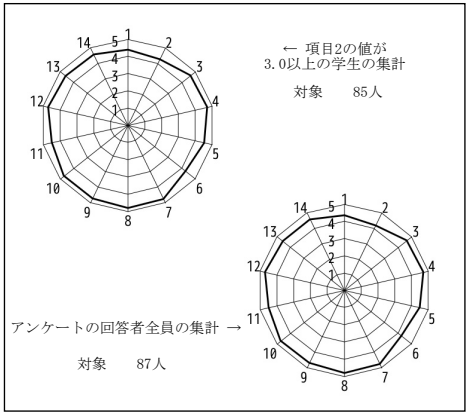
講義では地理的観点と考古学的観点とを融合して説明を進める点を特徴としたが、自由記述ではこれらが好意的に受け取られている事が確認できた。引き続き、こうした地理的側面を含む講義資料の充実を図りたい。

３．今後も、情勢によっては対面、遠隔の切り替えが生じる可能性もある。やや謎解き気味にデータや根拠の紹介先行で進めていたが、講義ストーリーの骨組みをもう少し事前に明確に伝える形に修正を加える事を検討したい。

共通教育 共通
大園　誠　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治学A1
授業コード　12C04-001
教員名　大園　誠
教員コード　102910
登録人数　188
回答数　87
回答率　46.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



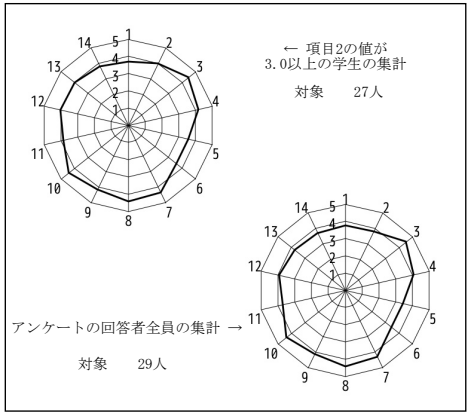
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：この「政治学A1」は「政治学B1」とともに「政治学の基礎」を学ぶという目的を持ち、中でも「政治学A1」は、「政治学の基礎概念」と「戦後国際政治史」という２大テーマを扱うため、端的に言って学ぶ内容は「質・量」ともに非常に多い。何よりも「政治学」の面白さを伝えることと、現実の「政治」現象への興味・関心を持ってもらうこと、以上の２点を目指した。理論編では「政治学」的なものの考え方を学び、実態編では「戦後の国際政治の歴史」を題材とした「政治史」的な分析への理解を促したかったが、授業評価を見る限り、所期の目的は達成されたのではないか。②：全項目の平均値は４．５９５であることから（先期から更に向上）授業全体としては概ね肯定的評価が得られたと思う。自由記述では、良かった点として「レジュメや資料・授業の解説が丁寧で分かりやすい／生徒からの質問に丁寧に答えるのがよい／ニュースコメントのおかげで習慣ができた」、改善点として「質問時間に制限を設けてみては／コメントはメッセージではなくwebclassの方がよいのでは」との指摘があった。この１年半活用してきたwebclassについては今後使用を考え直したい。オンライン授業においては、即応性を確保するためにも、出来る限り授業の中で質疑応答を完結した方がよいと思った。③：今後も、オンラインや対面という形式に関わらず、より多くの受講生にとって、さらに魅力的な授業の実現を引き続き追求していきたい。

共通教育 共通
CAVALLAR, Osvaldo　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治学A2
授業コード　12C04-002
教員名　CAVALLAR, Osvaldo
教員コード　018820
登録人数　108
回答数　29
回答率　26.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



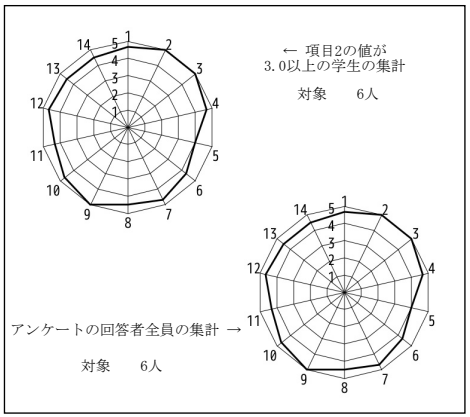
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of the course was to introduce the students to the beginning of modern political thought. The figure that was placed at he centre was that of N. Machiavelli for he was one of the first political thinker to use the term 'State' and search for the particular reason prompting the actions of this entity. Given the pandemic and the limitations imposed on the students, the approach was broad and included the politician, the political thinker, the historian and the literary person. The relevant works have been uploaded, meaning the works I would use during the course, and the rest of the relevant bibliography was indicated during classes. To get around the limitation of Zoom, the student were provided with a Power-Point presentation that could be downloaded.
Given the constraints imposed by the pandemic and considering the results, that is the reports the students wrote, it is difficult to complain. From their feedbacks: they have discovered a new author, a term hidden in plain-sight (the State), and how to read a text, even a literary one, with attention to political thought.
The only improvement I can think of is to go back to a classroom.

共通教育 共通
本村　扇仁　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　物理学A
授業コード　12D01-001
教員名　本村　扇仁
教員コード　102685
登録人数　20
回答数　6
回答率　30.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



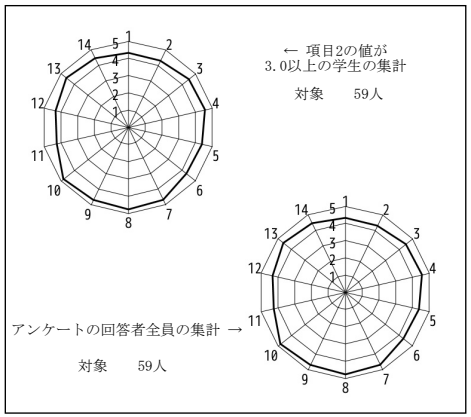
授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。このような展開について、説問4、9の数値から、概ね成功であったと考えられる。オンライン授業という側面では、説問8の数値から、音声が届くという点は少なくともクリアできたと考えられるが、記述コメントに音声の途切れが指摘されており、改善に努めたい。また記述コメントからは、問題演習資料の提示方法や授業中のチャットによる質問への対応方法など工夫の余地があると考える。映像資料については、実感を伴った理解につながるという点から要所で取り入れる展開を今後も継続したいと考える。ただしオンライン授業の場合は、字幕の併用、また分割して視聴するなど次善の策を今後も併用したい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介など常に工夫を加えていきたい。

共通教育 共通
三野　義尚　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地球科学A1
授業コード　12D06-001
教員名　三野　義尚
教員コード　102236
登録人数　138
回答数　59
回答率　42.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



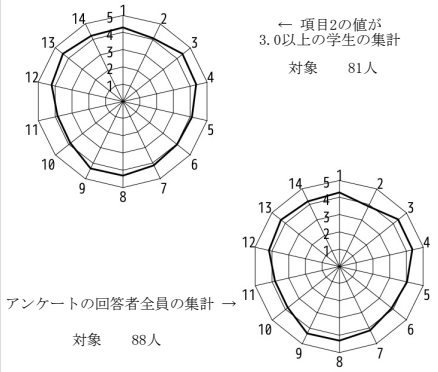
授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を計11回実施した。項目3-14の平均値は4.53であり、全開講科目の平均を上回ったが、基盤科目にはわずかに届かなった。相対的にスコアが低かったのは、設問#3、11、12だった。授業時間（#3）に関して、開始時間は厳守したつもりだが、休憩時間を過ぎても授業を続けてしまったことが数回あり、これが低評価の原因になったと思う。また1回目のオンライン授業でトラブルが生じ、授業時間を短縮してしまった点も挙げられる。次回からはこれらを留意して授業に臨みたいと思う。自主学習指導（#11）や質問機会（#12）については、設問#16の回答でも指摘されたように、学生への一方向的な授業になってしまったようだ。ZOOMチャット機能で質問は随時受け付けていたのだが、よりオープンな対話機会を設けることが必要なのかもしれない。到達目標に関する設問#5、6および新知識の修得に関する設問#13は、比較的高いスコアだった。設問#15回答にもあるように、映像資料＋小テストの組み合わせが学生の内容理解に役立ったのだと思う。引き続き、この形式をうまく活用していく予定である。これらの高いスコアに基づくと、設定した授業目標を概ね達成できたと思う。

共通教育 共通
三木　誠　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化との接触2
授業コード　13A02-002
教員名　三木　誠
教員コード　101621
登録人数　164
回答数　88
回答率　53.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①と②に関して、開講当初に設定していた目標の内、学生の日常生活においてほとんど目にすることのない「異文化」の認知や、そのリアルな一面、そのような現実を内包する民族社会や民俗社会の存在も認識した上での文化の多様性の理解といった点に関しては、映像資料を多用して授業を進めることで、かなりの程度達成できたと考えている。
一方、文化や異文化という概念に関する踏み込んだ議論、映像資料に描かれていた社会や状況の歴史的背景や世界の状況の中での文脈などに関しては、十分な解説が行えたとは言いがたい。ゆえに、人間と文化との関係の本質、偏見やバイアスが極力入り込まない異文化の理解などの点については、十分に達成できたとは思われない。
従って③の点に関しては、映像資料の持つリアリティーやメッセージは維持しつつ、歴史的な解説や考察なども交えた簡潔かつ明瞭な説明を増やし、場合によっては文化や異文化という概念に踏み込んだ議論や学説なども紹介しつつ、授業を進めていきたい。

共通教育 共通
岡田　宏太郎　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史の諸相3
授業コード　13B06-003
教員名　岡田　宏太郎
教員コード　102261
登録人数　7
回答数　2
回答率　28.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

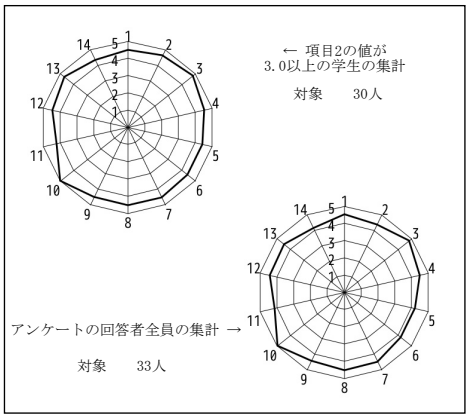
授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答数が少なく、アンケートの平均値からの評価はできないものの、提出してもらったレポート、授業中に回収した受講者からの声から、例年通りの成果が得られたものと考えています。最初に観てもらった映画が理解の促進に有効であったこと、新たな観点からの日本の政治についての理解が得られ、期待以上に興味深かった等の感想がありました。こちらとしても、授業時間が１００分になったことで、じっくり説明できた実感がありました。後半が遠隔授業となった影響で授業回数が減りましたが、それもなんとかカバーできたのではないかと考えています。文献の紹介、自学自習の促進は、依然として課題ですが、受講生の皆さんには真面目に受講していただき、どうもありがとうございました。

共通教育 共通
三枝　有　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と法律問題1
授業コード　13C02-001
教員名　三枝　有
教員コード　100468
登録人数　97
回答数　33
回答率　34.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



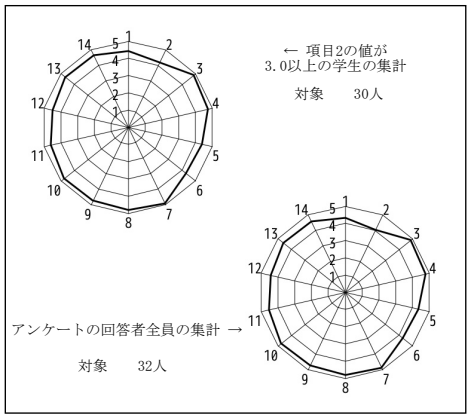
授業評価結果を踏まえた点検・評価

事前に想定していた以上に学生諸君が講義についてきてくれたことに感謝申し上げます。評価も全般的に高めとなっており、想定以上によかったので、ご理解頂けたものと喜んでいます。zoomでのホワイトボードマーカーの字が薄かったのは気付きませんでした。zoom講義の際に反応をお聞きするなどして改善致します。遠隔では予習が中心になるので大変な上にかなり厄介な社会問題を取り上げたので大変だったとは思いますが、皆さんよく考えて自分の考えを社会的に構成して明確に主張されている姿勢は、まさしく社会科学的思考を身に付けたといえるでしょう。今後、対面講義が中心となったときには、予習のやり方などについて、さらなる工夫か必要かと思っております。対面でより積極的な意見交換ができなかったのは誠に残念ですが、課題答案のみならず個別に質問して頂いて大変助かりました。ありがとうございました。学生諸君には、益々学問に励んで頑張ってください。ありがとうございました。

共通教育 共通
松野　正太郎　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会の諸相6
授業コード　13C04-006
教員名　松野　正太郎
教員コード　104285
登録人数　64
回答数　32
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



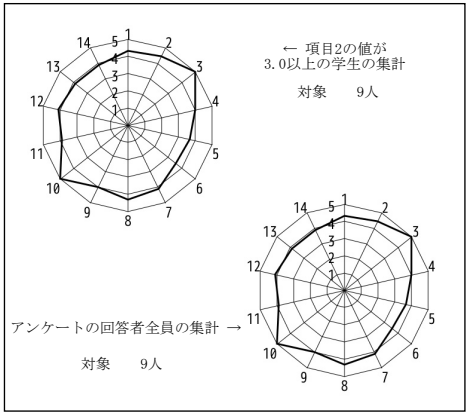
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート結果全体を概観すると、講義への満足度はおおむね高かったと考えられる。まず、開講当初の目標と到達度については、予定通りに達成できた。しかし、学期途中でリモートに変わったことによる授業回数の減少により、一部の講義内容を割愛しなければならなかったのは学生に対して申し訳なかったと感じている。次に、担当科目への評価について、相対的に評価が低かったのは、学生自身が自学自習をするなどの自己に対する学習態度、自身の目標達成度などであった。この点は昨年度も同様の傾向であったが、学期途中でのレポート提出を求めること、講義資料を簡略化する等の措置が必要であるのかもしれない。新聞記事を配って、そのきっかけにするように努めたが、もう少し工夫が必要であると考える。それ以外の担当者の意欲や講義全般の進め方については、比較的高評価であったため、このまま継続する。2コマ続きの長丁場なので、適宜休憩を取ったのは、学生にとっても良い効果があったようである。

共通教育 共通
牛島　謙　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　知識の探求2
授業コード　13E03-002
教員名　牛島　謙
教員コード　042549
登録人数　34
回答数　9
回答率　26.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



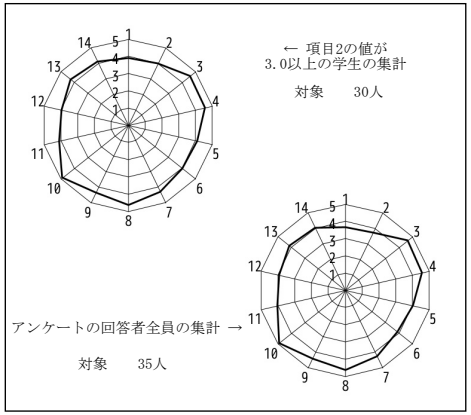
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について。
教室での授業を希望していたため、オンラインで授業を行ったが、授業の目標は変更しなかった。インターネットの基底には明確な設計思想（デザイン）がある。その思想を理解することにチャレンジさせるのがこの授業の目標である。その目標を達成するために、自前で構築したデータベースから各回の教材を作成した。
②総合的な自己点検・評価。
授業のテーマが思想系であるだけに、事前の興味や到達目標の理解度のポイントが低い。授業の質は学生に評価されていると思われるが、全体としての評価は学際科目の平均を下回っている。自宅からオンライン授業を行ったが、教室での授業と遜色がない内容にすることを第一にした。授業後のフォローのためにWebclassのメッセージ機能を多用したが、学生からの評価は高くなかった。ここ数年間の授業評価とは趣きが異なるというのが全体的は印象である。３・４年生の履修者が多かったためか、オンライン授業の影響か、履修者集団の特性か、は判断できなかった。
③改善点、今後の抱負、方針など
やや難しめの教材を使いながらその意味を授業中に読解するという形式で、授業を行っていきたい。学生の理解度をフィードバックしながら、解説のレベルを調整する必要がある。また、授業への満足度が低いので上げる努力はするが、思想を学ぶという場を共有することを第一に考えたい。

共通教育 共通
市橋　芳則　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生涯学習論
授業コード　15M08-001
教員名　市橋　芳則
教員コード　100763
登録人数　98
回答数　35
回答率　35.7%
休講回数　3 回
補講回数　0 回



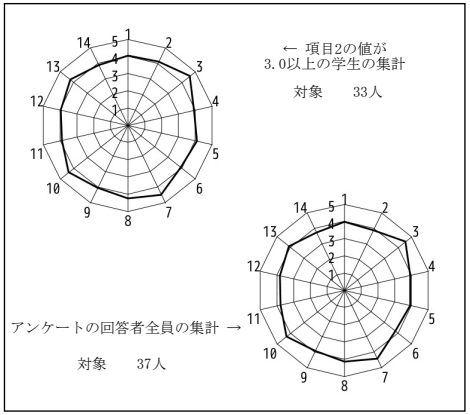
授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義は、基本的にパワーポイントを使用したプレゼンテーション形式で実施している。オンライン形式での講義となったことから、従来使用していた具体例を伝える動画の使用が困難となったが、代替えの動画を提供することで解消した。
当初設定していた目標については、生涯学習の概要から現代の生涯学習が抱える課題、新たな技術について具体的事例を交えながら講義することにより達成できた。
講義に関する予習については、参考とする博物館、図書館の情報をWEB上で確認する、関連動画を視聴するなど関連情報を提供することで理解につなげることができた。
さらに本年度は、コロナ禍において生涯学習による学習提供が大きく様変わりしている現状があり、こうした課題について講義を行いレポートを作成する過程において、より生涯学習の重要性を伝えることができたと考えている。
次年度以降、オンライン授業にあるか否かは不明であるが、オンライン授業としてことにより得られたメリットを活用した講義を継続していきたい。

共通教育 共通
伊藤　真理　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　図書館情報資源概論
授業コード　15P06-001
教員名　伊藤　真理
教員コード　101182
登録人数　77
回答数　37
回答率　48.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



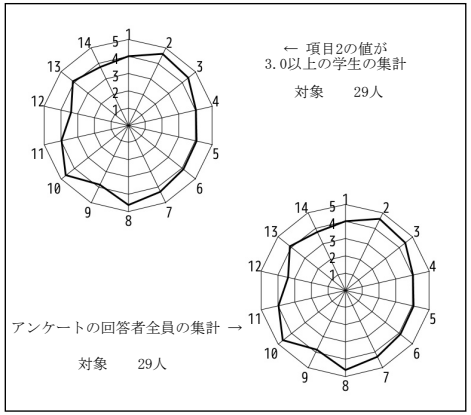
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　科目の目標と到達の程度について，学生自身による評価およびコメントからは概ね達成できていると判断できる。
　各回で課したリアクションペーパーとレポートにおいては，理解に差が出ていることは否めなかったが，なるべく早い時点でコメントをフィードバックできるように努めた。
②　数値データからは概ね良好な授業運営ができていたようである。
　コメントについて，マイクの音声，画面の切り替え等の機器の操作についての指摘があった。今後オンラインで実施する際には気をつけていきたい。質問への対応については，すべてに回答しているはずであるので，双方でのミスがないかについても確認できるようにする必要があることがわかった。
　しかし，補助資料の提示，指定テキストの解説等については，授業理解に役立ったようである。
③　次期での授業においては，まず上述の課題を改善できるよう努めたい。技術的なことは容易に解決できるため，なるべく丁寧な指導が行き渡るようにしていきたいが，資格科目のため，イントロダクションにあたる科目を受講することなく，当科目を履修する学生も多くおり，履修者自身の知識が影響していることも考慮していきたい。

共通教育 共通
青木　文美　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　児童サービス論
授業コード　15P09-001
教員名　青木　文美
教員コード　104273
登録人数　60
回答数　29
回答率　48.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



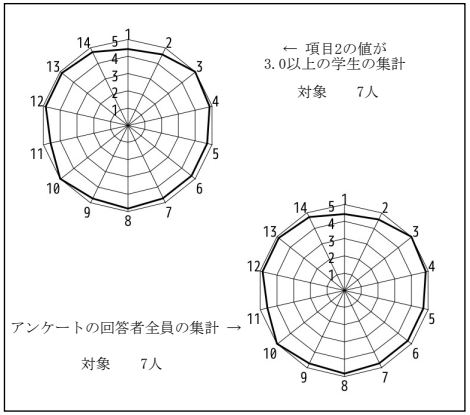
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、準備していた通りに授業を実施したため、目標に到達できたと考えている。
②担当科目に関する総合的な自己点検・評価については、今年度、クォーター制の授業を準備した内容で初めて実施したため、演習を実施する際に、半期開講の場合以上に初回授業で丁寧に解説し、先々に見通しが持てるように丁寧に行う必要があることが分かった。また、オンライン開講となったことにより、実際の授業であればその場でちょっと確認しようとする内容であっても確認しにくい点など、配慮すべきだったと考えている。webclassを上手に利用できていないため、もう少し有効に活用できるようにしたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針については、クォーター制の授業と半期開講の授業との違いが明確になったため、今年度実施した授業内容をふり返り、講義内容と演習内容との連動性をよりよくし、演習で実践したことが期末課題として評価される内容に改善させようと考えた。また、グループワークのメンバーについては、受講者が確定した段階で発表し、早い段階から同一メンバーで相談できる環境を整えようと考えた。

共通教育 共通
長澤　壮平　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教社会学
授業コード　21C56-001
教員名　長澤　壮平
教員コード　102718
登録人数　20
回答数　7
回答率　35.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



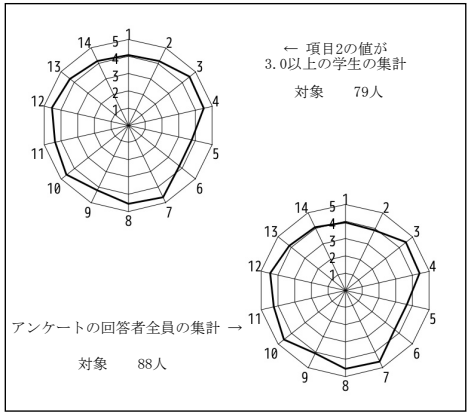
授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答結果を見ると、開講当初に設定していた目標到達の程度としては、概ね高い水準だったように思う。前年度に問題となっていた、コメントのリプライ時間が長すぎたことをある程度修正したが、リプライはこれまで通り十分時間をとってじっくり行った。優秀な学生が数名おり、彼らの質問の吟味に時間を割いたことで、授業の充実度が格段に高まった。それは心に響く大変印象深い時間であった。このことが、学生の好意的な評価につながったように感じている。概ね高かった評価のなかで、「学生の学習意欲を引き出し、適切な情報を提供する」という項目では、数値が若干低かった。これは例年問題となっている項目である。学生の学習意欲を引き出す努力は不断に続けているが、いまだ足りない部分もあるように思われる。次年度の抱負としては、これまで行ってきた方向性を保ちつつ、より自主性を引き出すような内容を心がけたい。また、もしもオンライン講義になったさいは、学生のカメラをすべてONにして、より緊張感、積極的参加を促すような講義空間をつくり出したい。

共通教育 共通
松戸　武彦　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会学総論
授業コード　44A14-001
教員名　松戸　武彦
教員コード　100357
登録人数　276
回答数　88
回答率　31.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

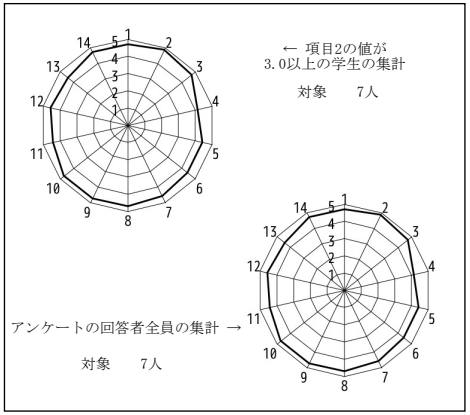
授業の目標・目的はおおむね達成されたと考える。今回は法学部の中の学科科目ではあるが、社会学という少し異質の科目であり、心配かあった。しかし、リモート授業であるにも関わらず、かなり授業の主旨は伝わったと思われる。具体的には、リモート講義の中でチャット機能を使い、こちらから問いかけをし、それにこたえてもらうよう極力配慮して授業を進めた。この点で学生の反応は思った以上によく、簡単な質問だけでなく、少し考えることが必要な問いかけにも多くの学生が反応してくれた。こちらとしてもやりがいを感じた。また、基本としてこの科目は教員免許状の取得とつながっている科目であるが、それとは関連なく、基本的に社会学のロジックの興味深さを多くの学生が体験したように考えられる。それは、授業の後webclasskのメール機能を使い感想を投稿してもらったが、毎回中身の濃い投稿が20前後あった。しかもその中の多くが社会学的思考と法学的思考の相違に言及し、自分が進学した学科の基本に対して再帰的に考える学生が出て来たことはこの科目を展開した成果だと思われる。もちろん、授業の中には教員試験を意識したものも入れているが、基本的には経験的社会科学の論理の展開に重心を置いた。

その点で法学部の授業は論理展開を中心に据えるものが多く、また、覚える項目やトピックが多い中で、現実の事件に触れることは彼らにもためになったと思われる。

共通教育 韓国朝鮮語
金　由那　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国・朝鮮の言語と文化III
授業コード　35C28-001
教員名　金　由那
教員コード　101171
登録人数　18
回答数　7
回答率　38.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



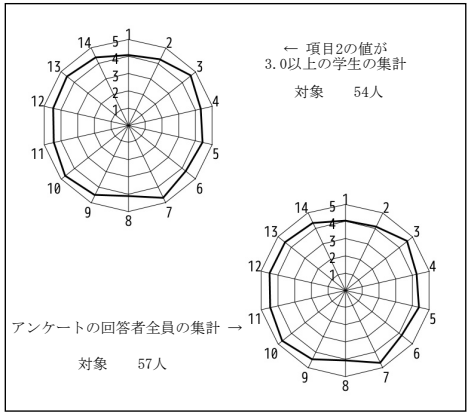
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なった。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「朝鮮・韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。
その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「去年はオンラインでの授業だったので対面で韓国語を話しながら授業を行うことがとても幸せだった。また金先生が学生一人一人に向き合って授業を進めてくれたのでしっかり力となる学習ができました。」などの評価と、進むのが早い、問題を解く時間が少ないなどの改善点もありました。今後、今回の授業方法を踏襲して、もっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

教職センター 教職センター
鵜飼　博　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　特別支援教育論
授業コード　15A23-001
教員名　鵜飼　博
教員コード　104093
登録人数　84
回答数　57
回答率　67.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



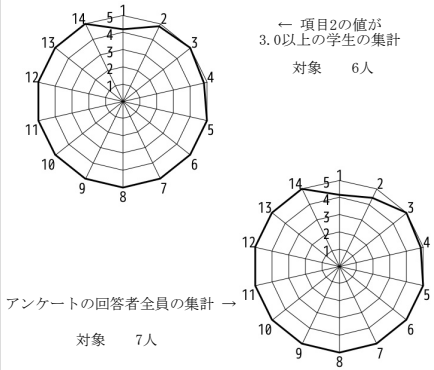
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　当初の目標、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の障害の特性や心理的特性及び心身の発達を理解している。特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する教育課程や支援方法を理解している。障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難と対応を理解している。について、達成できた。
②　特別支援教育は多くの学生にとって、なじみや関心の薄い内容と考えられることから、身近な話題、動画教材や実物教材を取り入れたり、介護等体験の視点に立った特別支援学校の紹介、学生同士の協議の機会（ペア・ワークやブレイクアウトルーム）を取り入れたりした。学生の自主的主体的な学びを推進するとともに、様々な意見から学習の視点の広がりや学習の深まりを期待した。これらは良い評価結果を得た。
当初の対面授業から、ハイブリッド授業、オンライン授業となり、急な対応にその都度苦労したが、大学及び学生の協力により、計画通り授業を実施できたことは何よりであった。
オンライン授業において、声が聞こえにくい、音が大きい等の指摘が複数あり改善が必要である。
③　特別支援教育に対する行政の施策や国民の期待、教職を目指す学生に求められる人間性や専門性の変化に対応し、学生が主体的に学び深めることができる授業を行う。
学生による授業評価の指摘事項に対し、改善対応する。具体的にはオンライン授業における音量の改善等。

教職センター 教職センター
岡野　央　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　書道
授業コード　15E01-001
教員名　岡野　央
教員コード　101227
登録人数　12
回答数　7
回答率　58.3%
休講回数　2　回
補講回数　0　回



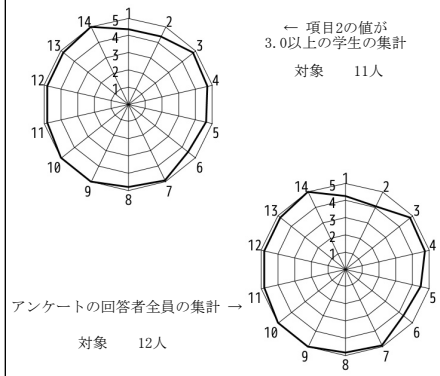
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目的として「日常生活における書のあり方」を目標とし、毎授業では中国唐代の書の古典の臨書に重点をおき書の基本である「形臨・意臨・背臨」の学習を行った。欧陽詢の九成宮醴泉の銘の形臨に始まり、その双鉤填墨から原寸臨書へ、そして拡大臨書へと発展させ意臨の学習へと進めました。次に褚遂良の雁塔聖教序により俯仰法による筆法を学習し、楷書から行書へのステップとして線の抑揚の表現法の学習を行った。更に王義之の蘭亭序の行書臨書を踏まえ色紙への背臨から創作作品への展開とし、受講生それぞれが自選による四字句の制作に取り組んだ。そして最終的に、色紙に四字句を創作し受講生の各家庭にその作品を飾り、毎日書と接する空間の完成に満足感がみられると共に書に対する興味や意欲が感じられた。

外国語教育センター 外国語教育センター
岩城　奈巳　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iオーラルコミュニケーション[P]2
授業コード　11A01-021
教員名　岩城　奈巳
教員コード　049601
登録人数　20
回答数　12
回答率　60.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



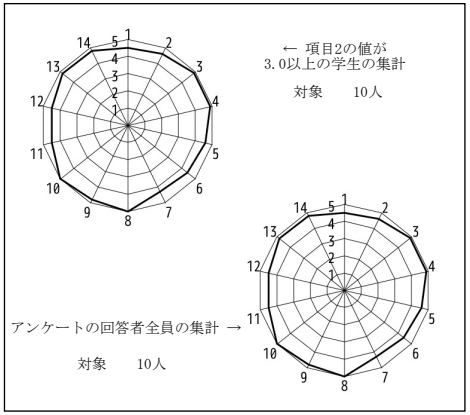
授業評価結果を踏まえた点検・評価

年間を通しての目標は「実践的な英語でのコミュニケーション能力向上」である。授業前に、前回の復習を必ずおこない、その日の教科書に沿ったテーマを基に授業内での目標を設定、そして授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の高い満足度として現れたと感じる。授業中は、本来複数名のグループでディスカッションを行うが今回は距離を配慮しつつ、ペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が参加しなければいけない講義を心がけた。アンケートは各項目とも平均以上の点数があり、自由記述欄のコメントでは、「話し合いが多い授業だったので飽きることなく授業に取り組めた」、「ただ単に教科書を進めるのでは無く学生の興味を引き出すような授業ないようだった」、「英語の知らない知識、雑学が何より良かった。進め方も早すぎず遅すぎずだったので本当にちょうどよかった」などあり、学生にとっても満足のいく授業内容であったと思う。また、検定試験に向けての教材を多く配布し、特に多くの学生の就職活動の際必要になるであろうTOEICについても、対策が充実している、などもコメントもあったので、こちらも引き続き、サブ教材としてクォーター2以降も取り入れていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
McCANDIE, Tanja　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P]3
授業コード	11A01-022
教員名	McCANDIE, Tanja
教員コード	102688
登録人数	20
回答数	10
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



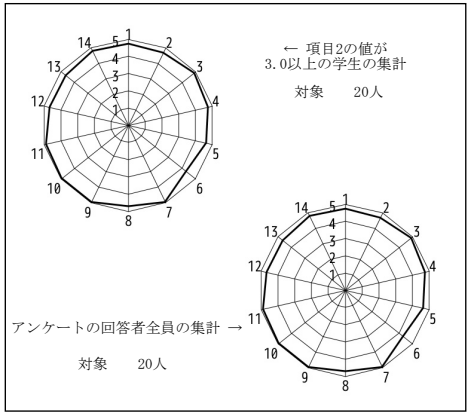
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I'm pretty happy with the results of this The students have done very well with online learning, much better than last year's students. I rarely have students not attending zoom lessons, they have all been getting their work done and done on time. I am very glad that I requested to stay online as I think my students had far less stress than many other classes that got shifted from face to face to online to back to face to face since April. I do feel that things could be improved on campus - students had issues with wifi and it was clear that social distancing was not happening when students joined from on campus. I hope the university takes into consideration how lack of stable wifi really is not okay these days if they want to suppot online learning.

外国語教育センター 外国語教育センター
HERSCHLER, Brian　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P]4
授業コード	11A01-023
教員名	HERSCHLER, Brian
教員コード	100552
登録人数	20
回答数	20
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



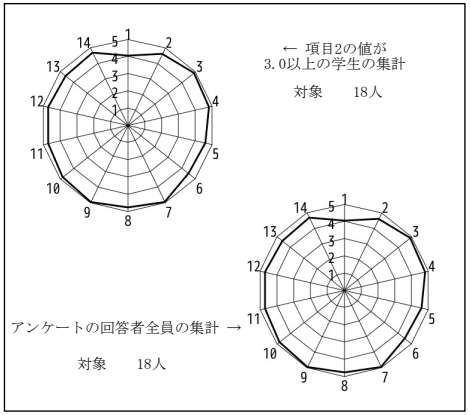
授業評価結果を踏まえた点検・評価

All remarks from students were positive. The class was a success by both my standards and student opinion. One student said their English practical ability increased "dramatically." Several said they gained more confidence. A few remarked on the good balance of activities requiring "tension" and fun relaxing activities. The class was a success!

外国語教育センター 外国語教育センター
佐藤　ゆかり　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P]9
授業コード	11A01-028
教員名	佐藤　ゆかり
教員コード	047605
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



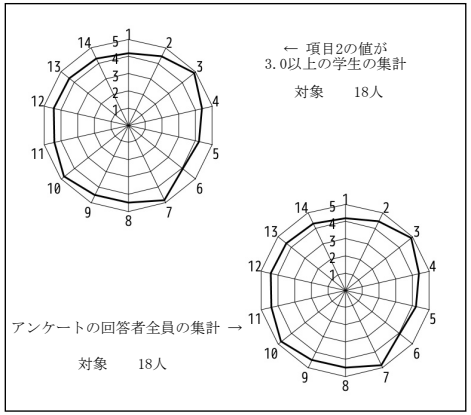
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①日常的なトピックに関して級友同士で、話す機会をたくさん重ねながら会話力を伸ばすことが目的だったので、毎回、ペアを変えながら、緊張感をもって話していく環境を作ることが目的だった。学生の自由表記らんに、この点に関してポジティブな評価が多く安堵した。また、語彙力、文法力を強化するために、毎回授業最初に、ライティングの時間をもち、書いたモノを相手に伝える活動にまで展開させることを毎回繰り返した。そのおかげで、簡単な事だけを話すのではなく、適切な語彙の使用、正確な文法、説得力のある内容と、バランスの取れた内容をコミュニケーションするという総合力を養えたと思っている。あとは、これらをしっかり定着させられるように、小テストなどで、教科を図りたい。全体の反省としては、オンラインでの動画提出などを毎週繰り返したので、それが負担になった学生がおり、後半はやや手抜きな動画も見られた、モチベーションを維持させることを次回の課題にしたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
PALISADA Eloisa　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P]11
授業コード	11A01-030
教員名	PALISADA Eloisa
教員コード	055830
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



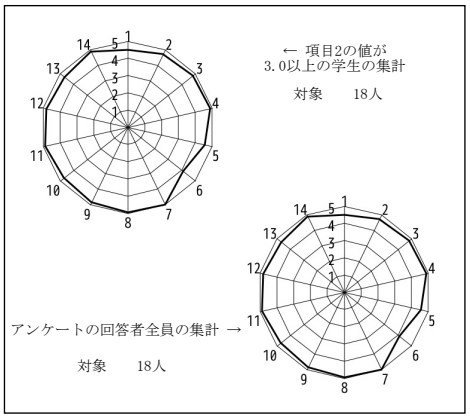
授業評価結果を踏まえた点検・評価

After a year of Online learning due to the pandemic, now we were back to conducting the classes In-person. Students seemed happy and socially in tune with the new normal observing health protocols. This has helped them highly achieve the course goal, i.e, to improve their ability to use spoken English for communication through a variety of activities expressed face to face among them. Based on the survey, the total average, 89%, is very encouraging. The radar shows all items above 4 points. Their interest before joining the course was lowest, 83%, but gradually, the majority of them, valued the chances to experience the class all in English. Their personal comments also included a fun atmosphere, getting along well with friends, lots of chances to speak in English, interact, communicate actively that helped improve their speaking and listening skills. Survey says they highly feel the sincerity and seriousness of their teacher, 97%, taking apt measures in dealing with bad behavior 96%, providing guidance and explaining well until they could understand, giving feedback, 88%. Room for improvement: some could not catch what I said for I use English 100% and may be due to my speed. Hence, some could not express themselves well nor communicate with me in English. There might be a need to use Japanese in some cases like in giving instructions on assignments. Moreover the need to practice giving feedback after an activity, test, or presentation.

外国語教育センター 外国語教育センター
高野　洋子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[G]6
授業コード	11A01-037
教員名	高野　洋子
教員コード	104147
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



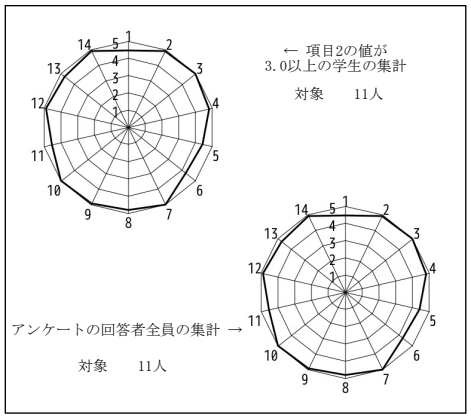
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．　目標　1週間に英字新聞、英語NEWSを課題にしていた　学生が最初の２週間は意欲を示し活発にクラスでのTALKを英語で行った。しかし、中盤、遠隔授業になったので　課題に取り組む意欲がさがる学生もでてきた。そのため、生徒主導で話しあう機会を設けた
結果　INPUT学習の意義を理解することができ、より積極的に理解した内容を発展するための質問を準備する生徒が増えた。
このクラスは会話能力が高い学生・文法能力や読解能力が高いが会話に対して恐怖を感じている学生と様々であった。CONVERSATION　STRATEGIESを使うように指導した。これを使うことによって、１部学生は自分の意見を英語で発表することが得意になり、全学生がGROUP発表で堂々と英語で発表ができた
２．　読解活動に使用する英文は理解を自宅でしてくる。
クラスで理解度を確認。発展した討論を行った。この討論が批判的思考を育て、
自主的に意見をいうクラス活動の中心となった。実際アンケートでは学生が７のうち５　の平均評価をして　TASKが明確な場合、達成できることが多いと証明できた　今後もやはり、学習意欲があがる内容、学生が求める内容を使用することが大事なので、この方法で進めていく所存である。
３．１人の生徒がコメントしているように　課題の進め方の説明を全員理解できているか?周知できているのかを肝に銘じて指導をする覚悟である。

外国語教育センター 外国語教育センター
BONDOC, Jeffree　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[P]6
授業コード	11A05-025
教員名	BONDOC, Jeffree
教員コード	103469
登録人数	20
回答数	11
回答率	55.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

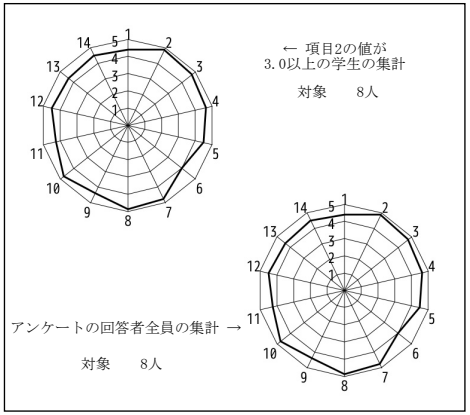
Face to face lessons went very well. Students were able to understand the main points for both reading and writing components of the course. The students were able to work individually, in pairs, and small groups. I was able to provide feedback to all the students. One thing I would like to change are some worksheets information and ordering. Changing these will help students better understand the points and help me with lesson flow.

With online lessons, it was a little more challenging as we had to transition from face to face to all online. Some of the components of the class had to be modified as online lessons didn't allow for it. In the future I need to focus more on online content.

外国語教育センター 外国語教育センター
MOORE, Douglas　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[P]8
授業コード	11A05-027
教員名	MOORE, Douglas
教員コード	100954
登録人数	18
回答数	8
回答率	44.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

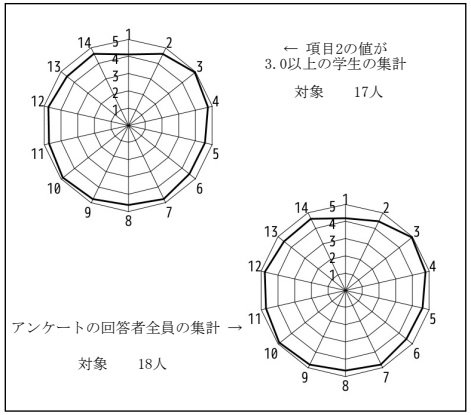
Overall this evaluation is generally positive and there are few areas of complaint that are general in the class. There are a few lower areas, mostly regarding communication and class goals, but that seems to be a common area over the years. There was a bit of concern about what I assume is the online component of the textbook.

Overall the class has gone well and the students are doing well in the class. The online component for the textbooks is not working nearly as well as i had hoped so that portion will be eliminated next year in favor or more traditional paper based class assignments. Indeed in Q3 i will be allowing studetns the option of doing homework online or on paper to hopefully alleviate any of those concerns among students.

外国語教育センター 外国語教育センター
橋爪　真理　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[P]9
授業コード	11A05-028
教員名	橋爪　真理
教員コード	104272
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



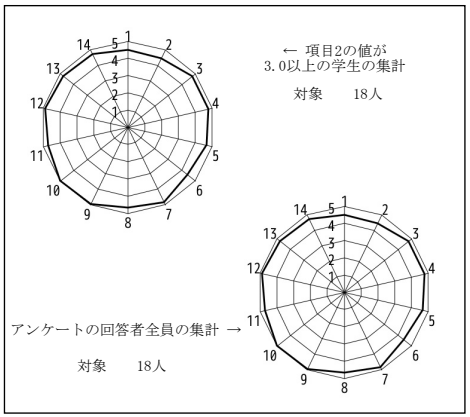
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1は学期途中でオンラインに移行したが、生徒たちも柔軟に対応し混乱なく授業を展開できた。授業における個々の満足度、理解については、9割を大幅に超える値となり、当初の目的が達成でき理解も深められる結果になったかと思う。学習を取り巻く環境は不確実であったため、参加者間のインターアクションに制限をおきながら、安全、安心を念頭に授業内容に工夫を凝らし授業を進めたが、進行速度も内容も学生の能力に適したものにできたようだ。 このクラスは全体的に英語学習に対して積極性を持ち、学習意欲も高いので、学ぶ意欲、好奇心を刺激するような教材を用意したが、[わかりやすく、能力向上が感じられた]という自由記述回答があり、また新しい知識を得られたかという設問に9割以上（4.56）満足していたという結果が出たので、 今後もその時々の生徒の理解度を丁寧に測りながら授業展開、および個別対応を原則とし、授業内容、資料、課題を整えていく。年間の授業目標として“英文を読む、書く能力を伸ばす”と設定し、Q1ではreadingで英文読解における基本的な技巧を紹介し、Graded readerを使って技巧に慣れ、英文に親しみより早く深く読む能力を伸ばせるように授業展開を行った。writingでは、英語論文様式の基本的な理解と習得を目指した。Q2ではさらに細かな論本書式について講義、実践を行い、Q3Q4で正しい英文様式を使って英語論文を書くことができるように年間の授業展開目標を設定して取り組む。

外国語教育センター 外国語教育センター
平出　優子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリテラシー[P]11
授業コード　11A05-030
教員名　平出　優子
教員コード　102521
登録人数　18
回答数　18
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

英語Iリテラシーの授業はライティングとリーディングから構成される。Q1のライティングの目標は、書くための準備としてmind mapの技術を使えるようになること、Writing about yourselfという自分に関する内容についてエッセイの為のGrammarのルールを理解した上で150語以上の首尾一貫した1つのパラグラフが書けるようになること、基本的なエッセイのフォーマットが使えるようになることの3点であった。Essay Writingの基本を理解した上で各ドラフトを書くよう繰り返し説明した結果、上記３つのゴールについて全員が到達できたと考える。Q2ではWriting about your activitiesとWriting about your dayという2つの内容で、複数のパラグラフから成るライティングを練習する。

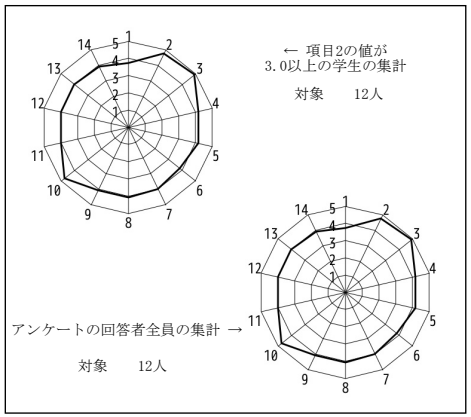
Q2のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、MReaderでクイズに答えること、Vocaburay の知識を増やすことの3点であった。提出された課題の出来が非常によく、また、MReaderの集計でもほとんどの人がクリアしていたので、目標は十分に到達できたと考える。

本年度もオンライン授業で様々な制限があったにもかかわらず、授業評価の高い数値や学生からの前向きなコメントを受け、Q1も混乱なく無事に終わることが出来たと実感し安堵している。Q2では難易度を上げ、更なるadvanced skillが身につくよう指導したいと考えている。

外国語教育センター 外国語教育センター
島　禎子　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリテラシー[P]12
授業コード　11A05-031
教員名　島　禎子
教員コード　045559
登録人数　15
回答数　12
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



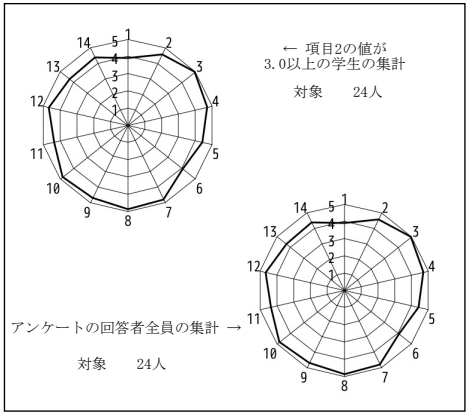
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目的は、概ね達成できた。まず何よりも目指したのは、クラスの多くの学生たちが持っている英語に対する拒絶感を少しでも和らげ、負の連鎖を断ち切り、自信を持たせること。大多数が今後英語とは無縁の生活を選んだとしても、やってもわからないから、やればできるにできる限り変えていくこと。そのために授業内容を高校までの復習も含め、基本的項目に限定し、量的にも少なめにするよう心掛けた。その結果、「自分たちのレベルに合わせた授業内容」「英語の基礎的なことが身につけられる」「わかりやすく課題や文法について教えてくださった。スケジュール表なども充実していた」「英文を書く力がついた」「名詞、動詞、形容詞、副詞の違いについて学ぶことができた」など、自由記述に回答してくれた学生が多数いたことは、素直にうれしかった。同時に、設問6の「到達目標に向けて力がついてきているか」に対し、1-3と回答した学生も一定数いて、長年にわたって蓄積されたマイナスをプラスに変えていくことの難しさを改めて痛感している。
途中から、私自身の健康上の理由でオンライン授業となったが、最初だけでも対面授業ができ、学生一人一人についてそれなりに把握できていたことは、円滑な授業運営につながりよかった。

外国語教育センター 外国語教育センター
伊藤　実里　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 2
授業コード	11A09-038
教員名	伊藤　実里
教員コード	045542
登録人数	25
回答数	24
回答率	96.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



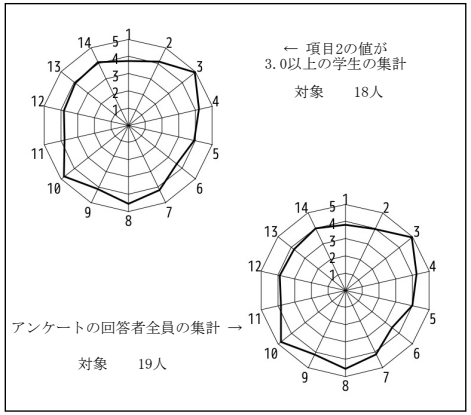
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標については、Q1～Q4を通しての目標を掲げているので、１年生にとってQ1の最後での設問６への実感がまだあまりないことは無理もない。今後、感じていってもらえればと思う。基礎力の高い、学習意欲のあるグループなのでいくぶんか多めの課題で授業を進めたが、たとえばオンラインで提出するオーラルプレゼンターションなどでは予想した以上の内容や提示方法を見せた人が多かった。大学生になってさまざまな科目を履修して不慣れで忙しいであろう学期において素晴らしい学習状況であった。また、高校時代の経験、あるいは個人的興味などによってインターネットやパソコンの知識に差があるのは当然なので、何も知らない人、やったことのない人に合わせた丁寧な説明を心掛けたが、コメントを見るとそれが有効だったようでよかったと思う。もうひとつ、ペアワークなどを通してクラスメートと知り合い、気軽に話すことができるようになるという（明記はしていないが）目標についても、コメントの様子で好感触であったこともよかった。今後も、感染対策に限らず、課題提出にはオンラインを利用していきたいので、負荷が大きくなりすぎないように工夫していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
柴田　直哉　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 3
授業コード	11A09-039
教員名	柴田　直哉
教員コード	102751
登録人数	25
回答数	19
回答率	76.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



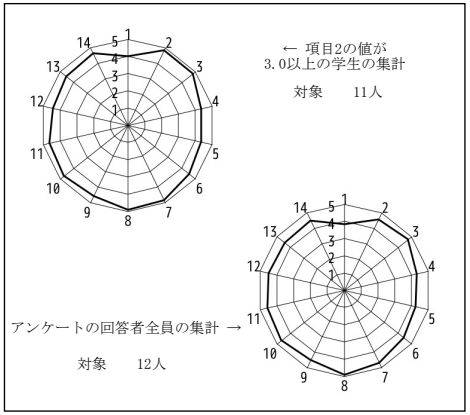
授業評価結果を踏まえた点検・評価

新型コロナウイルス感染防止のためペア活動・グループ活動を一切行うことなく教室活動を行ったため想定以上に授業活動を行っていくのが困難にであった。しかしながら、10分間の速書活動を含め、書く活動を例年より増やしたことで多かれ少なかれ思考力が必要となる活動は代替的に行っていけたと考えている。
数値データにおいて考察してみると対面活動において困難があったことからかなり低い結果になると予想していたが、ほとんどが4.0に近いという事であったため平均的には肯定回答が現段階では多いという事が見られた。しかしながら、内容理解度に関しての満足度が予想よりもかなり低いことからトピック・テーマに関して見直していく必要があると考えている。今クォーターでは高齢化社会やテクノロジーの発達といった日本の現代社会に関してかなり密接なものであったとは考えているが、想定していたよりも学生たちがこれらに関してこれまでに考察してきていない可能性が高いことが原因の1つとして考えられる。第2クォーター以降に関しても可能な限り社会問題に関して触れていきたいと考えているがYouTubeなどの視覚教材をより効率的に使っていく必要があるだろう。

外国語教育センター 外国語教育センター
内川　元　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 10
授業コード	11A09-046
教員名	内川　元
教員コード	101922
登録人数	25
回答数	12
回答率	48.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はリーディングとオーラルコミュニケーションの授業で、授業時間と家庭学習時間の両方を活用してインプット量を確保すること、また日本人学習者の多くが持つ英語を聞くことへの苦手意識を克服させることに重点を置いて行っています。

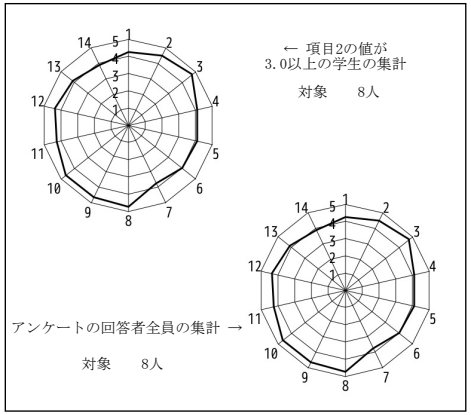
生徒は真摯に学習に取り組んでおり、授業態度や小テスト・テストの結果も概ね良好でした。それも踏まえ授業目標はおおよそ達成出来ているものと考えます。授業評価の数値データを見ても、１番の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」との問に対する数値が若干低いのを除けば、全体的にまずますの結果だったように思います。また自由記述回答も、学習コンテンツの量やテストを減らして欲しいという声が一部あるものの、あとは前向きな内容ばかりでありがたく思います。

学期終盤に急遽授業がオンラインに切り替わり、それによる混乱が多少ありましたが、特に大きな問題も発生せず無事学期末を迎えることができました。このような状況は当分続くものと思われますので、これからも臨機応変な対応ができるような備えをしながら授業運営を行いたいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
KENNY, Thomas　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[T] 3
授業コード	11A09-051
教員名	KENNY, Thomas
教員コード	102984
登録人数	24
回答数	8
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The data collected represented only 30% of students enrolled in the class (n=8), and therefore cannot be a trustworthy sample of student opinion for thorough analysis. Based on this limited data, most respondents had no problem with the class. One student complained that Zoom meetings had been canceled, but this was rectified at the beginning of Q2, when speaking practice via Zoom was made available to all students as an option. Only one student during Q2 availed of this option; all other students chose to do rigorous listening and oral activities in self-learning mode, available via Canvas.

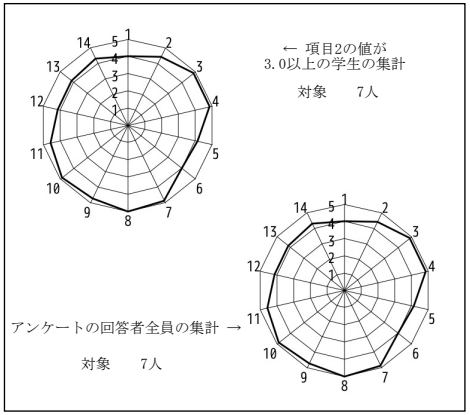
I believe that the course goals were clearly stated and that all materials support the attainment of the goals. Even the complaining student who gave this class a low rating admitted that "the materials themselves were good." Additional positive comments praised the course for allowing students to learn online, at their own pace, and said that the amount of work during class time was sufficiently challenging.

I think it would be helpful for teachers to get evaluations from the same class in Q3 or Q4. That would allow the teacher to compare students' comments with ratings and comments from this Q1 evaluation. Additionally, it would be helpful if the teachers could get advanced notice of when classes are invited to evaluate. At my own university, I have allowed class time at the end of the academic year for students to make their evaluations online. This ensures that all students

外国語教育センター 外国語教育センター
LANDSBERRY, Lauren　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[T] 7
授業コード	11A09-055
教員名	LANDSBERRY, Lauren
教員コード	103626
登録人数	22
回答数	7
回答率	31.8%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



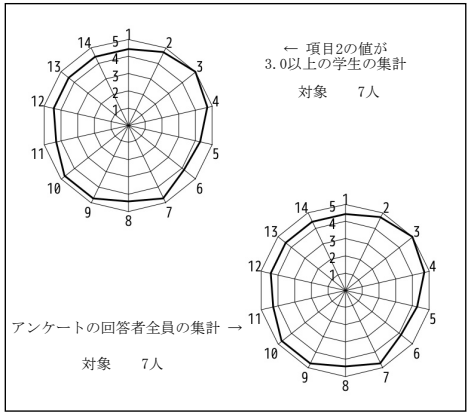
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1 and Q2 were extremely challenging. It was nice to be back in the classroom but was difficult as neither I nor the students could move around. Under these circumstances we did our best to fulfill the goals of the course and I think the students did their best. I used a number of apps, such as Flipgrid for presentations online as we couldn’t do these in the classroom.
I was surprised there were any evaluations as I hadn't instructed the students to do any. This was because we were suddenly moved online in Q1 and the information was in my box on campus! Reflecting on the comments for improvement I was sorry to see that two of the students felt the reading for MReader was unclear. This was outlined in our syllabus and I continually mentioned it in class during the quarter. I will try to keep a better eye on them to see if they are actually understanding. I was also sorry to see that one of the students said there was confusion regarding purchasing textbooks. This is somewhat true as I wasn’t sure of what would happen with COVID-19 and had asked them to hold-off purchasing them for a while. I’m sorry for the confusion, hopefully COVID-19 will be over soon and this won’t happen again.

外国語教育センター 外国語教育センター
CHARLES, Steven　先生

2021年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリスニング＜J＞2
授業コード	11A25-020
教員名	CHARLES, Steven
教員コード	104556
登録人数	22
回答数	7
回答率	31.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The majority of the class goals were met during the quarter. Students responded well to the supplemental materials used on a weekly basis. The majority of the students were capable of attending class online and showed both maturity and adaptability.